

iPlanet Portal Server 3.0 リリースノート

Service Pack 3a

最終更新日 : 2001 年 10 月 18 日

このリリースノートには、iPlanet™ Portal Server Service Pack 3a のリリースに伴う重要な情報が掲載されています。この製品をインストールすると、iPlanet Portal Server 3.0 ソフトウェアが更新されて、Service Pack 1、Service Pack 2、および Service Pack 3a が含まれるようになります。この文書には、新機能や改善された点、インストールの注意、既知の問題点をはじめ、その他の最新情報が掲載されています。iPlanet Portal Server 3.0 の Service Pack 3a へのインストールに先立ち、まずこの文書をお読みください。

このリリースノートは、CD および iPlanet のドキュメント用 Web サイト (<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/>) にあります。ソフトウェアをインストールする前に、この Web サイトにアクセスし、必要な情報を入手してください。また、その後も定期的にアクセスして最新のリリースノートやマニュアルを参照してください。

このリリースノートには、以下のセクションがあります。

- iPlanet Portal Server 3.0、Service Pack 1、Service Pack 2、および Service Pack 3a の新機能
- ソフトウェアとハードウェアの要件
- Service Pack 3a のインストールに関する注意
- 報告されている問題と制限
- Service Pack 1、Service Pack 2、および Service Pack 3a で修正されたバグ
- ドキュメントの更新
- 最新情報
- 問題を報告する場合
- 詳細情報

本書の表記規則

以下の表に、このリリースノートで使用される表記規則を示します。

表 1 表記規則

フォント	意味	例
AaBbCc123	コマンド、ファイル、ディレクトリの名前および画面に表示される文字列	.login ファイルを編集します。 ls -a コマンドを使用して、全ファイルのリストを表示します。 machine_name% You have mail.
AaBbCc123	ユーザが入力する内容。画面に表示される出力と区別するために太字で表してあります。	machine_name% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	マニュアルのタイトル、新出の語や用語、強調される語、あるいは用語集のエントリ。	『ユーザーズガイド』の第 6 章を参照してください。これはクラスオプションと呼ばれます。この操作を行う際には、必ずルートとしてログインしてください。
AaBbCc123	コマンドラインのプレースホルダー。実際の名前や値に置き換えるものです。	ファイルを削除するには、「rm filename」と入力します。 http://server:port/login/domain_name domain_name はポータルドメイン名です。

コマンドラインインターフェースの例で使用されているシェルプロンプト

以下の表に、C シェル、Bourne シェル、Korn シェルのデフォルトのシステムプロンプト、およびデフォルトのスーパーユーザプロンプトを示します。

表 2 Unix のシェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェルのプロンプト	machine_name%
C シェルのスーパーユーザプロンプト	machine_name#

表 2 Unix のシェルプロンプト (続き)

シェル	プロンプト
Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザプロンプト	#

サンプルマシン名

以下の表に、コード例に使用されるマシン名およびそれに対応する iPlanet Portal Server のタイプを示します。

表 3 サンプルマシン名

マシン名	iPlanet Portal Server コンポーネントのタイプ
siroe	プロファイルサーバとして動作する iPlanet Portal Server サーバコンポーネント
varrius	複数のサーバインストールで、プロファイルサーバとして使用されていない iPlanet Portal Server サーバコンポーネント
sesta	iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネント

iPlanet Portal Server 3.0、Service Pack 1、Service Pack 2、および Service Pack 3a の新機能

Service Pack 3a ソフトウェアリリースには、iPlanet Portal Server 3.0 に対する以下の改善点が含まれています。

- ゲートウェイパフォーマンスの向上
- 証明書の管理
- Web サーバのパフォーマンス調整パラメータ
- オープンポータルモード
- iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する
- ルートでないユーザの権限で実行するように、iPlanet Portal Server を設定する
- ユーザ Nobody として実行するように、iPlanet Portal Server を設定する
- 1つのドメインに複数のロケールをインストールし、有効にする

- オープンポータルで認証用の SSL をサポートする
- 匿名認証
- goto パラメータを使ってユーザをリダイレクトする
- 永続 cookie を設定する
- 認証を拡張する
- デフォルトの URL を設定する
- ユーザプロパティを取得、設定する
- 電子メールアドレスをユーザプロファイル ID として使用する
- ログインチャンネル
- JavaServer Pages プロバイダ
- タブ付きデスクトップ
- メンバーシップログインパラメータを変更する
- サーバを再起動せずにテンプレートを再び読み込む
- 匿名デスクトップを有効にする
- フォームコントロールを使用する
- チャンネルの位置をロックする
- 最大幅のチャンネルを設定する
- フレームのないチャンネルを設定する
- ロケールを選択する
- ゲートウェイなしで URL スクレイピングを行う
- Cookie を転送する
- HTTP プロキシの再起動を設定する
- HTTP リクエスト/応答へのアクセスを有効にする
- ゲートウェイのロギング
- iPlanet Portal Server 以外のサーバでアプリケーションを実行する
- NetFile/NetFile Lite とともに Novell ファイルシステムを使用する
- 管理コンソールからドメインおよびユーザレベルでシステムと共有を定義する
- 隠し共有を定義する
- アルファベット順に一覧される Windows NT システムの共有
- smbclient コマンドに追加された smb.conf パラメータ
- 使いやすくなった NetFile

- オープンポータルモードでロードバランサを使用する
- 1つのプロファイルリクエストで複数の属性を読み込む
- セッションの短絡とリクエストのログ
- **Macintosh** クライアントでデスクトップアプリケーションを実行する
- 無制限の Netlet 接続
- Netlet ウィンドウ
- Netlet 接続を使用した安全な FTP を有効にする
- Netlet プロキシを使用する
- Javascript 内の Javascript 関数パラメータを置き換える
- JavaScript 内の JavaScript 変数を置き換える
- JavaScript 関数パラメータ関数を置き換える
- アプレット/オブジェクトパラメータ値リストを置き換える
- 選択プロパティキー
- ファイルの検索
- プロバイダ API に追加された `isPresentable()` メソッド
- セッションのタイムアウトを最大値に設定する

ゲートウェイパフォーマンスの向上

ゲートウェイのパフォーマンスをさらに向上させるために、iPlanet Portal Server 製品に以下の変更が加えられました。

- ゲートウェイコンポーネントにおける Netscape Security Service (NSS) のサポート
- 属性の追加
- オープンポータルモード
- iPlanet Web Server 4.1 SP7 へのアップグレード

ゲートウェイコンポーネントにおける Netscape Security Service (NSS) のサポート

Service Pack 3a では、ゲートウェイコンポーネントにおける NSS (JSS) がサポートされています。この新しい SSL 実装により、ゲートウェイコンポーネントで実行できる HTTPS 操作の数が増えました。

以前の SSL ライブラリ用にインストールされた証明書は、Service Pack 3a のインストール時に、NSS に必要なフォーマットに自動的に変換されます。しかし、ゲートウェイコンポーネントの証明書管理は、以前のリリースの iPlanet Portal Server 製品とは異なります。ゲートウェイ証明書管理については、「Web サーバのパフォーマンス調整パラメータ」を参照してください。

属性の追加

ips.gateway.trust_all_server_cert という属性が新たに追加されました。

ips.gateway.trust_all_server_certs は、/etc/opt/SUNWips/platform.conf ファイル内の新しい行エントリとして追加されており、ゲートウェイが不明な認証局/認証機関 (CA) を許可または拒否するための真偽 (true/false) 文を提供します。

- この属性のデフォルト値は false です。
- この値は true に変更することもできます。ゲートウェイコンポーネントが、SSL ハンドシェイクの間にゲートウェイに署名証明書を提示するすべての認証局/認証機関を信頼するようにしたい場合は、true に設定します。

これには、ゲートウェイコンポーネントがまだ認識できない認証局/認証機関も含まれています。

一般に、ルート CA 証明書は、ゲートウェイ証明書データベースに追加しなければなりません。そうすることによって、ゲートウェイコンポーネントが提示されている証明書を識別できるようになります。ただし、サイトが自己署名証明書を提示する場合は、ips.gateway.trust_all_server_cert 属性を true に設定することにより、iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントが不明な証明書を提示しているサイトと通信できるようになります。

ルート CA 証明書のインストール方法については、「証明書の管理」を参照してください。

たとえば、以下のような場合に ips.gateway.trust_all_server_cert 属性を true に設定します。

- iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントが SSL を使用して (自己署名証明書がインストールされている) ゲートウェイプロキシと通信する場合
- iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントが SSL を使用して (自己署名証明書がインストールされている) iPlanet Portal Server サーバと通信する場合

```
#
# Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
# "(#)platform.conf 1.38 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.profile.port=8080
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=443
ips.gateway.trust_all_server_certs=true
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationsservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
ips.nosession.url=/login
ips.desktop.channelinittimeout=30
```

ゲートウェイが提示された証明書を認識できない場合は、以下のエラーが生成され、`ips.gateway.trust_all_server_cert` 属性が `false` に設定されます。

```
03/22/00 4:24:42 PM PDT: Thread[main,5,main]
Cannot login to server
java.net.SocketException: writing to SSL socket (Peer's Certificate issuer is
not recognized.)
    at com.netscape.jss.ssl.SSLOutputStream.socketWrite(Native Method)
    at com.netscape.jss.ssl.SSLOutputStream.write(SSLOutputStream.java:68)
    at
java.io.BufferedOutputStream.flushBuffer(BufferedOutputStream.java:76)
    at java.io.BufferedOutputStream.flush(BufferedOutputStream.java:134)
    at com.iplanet.portalserver.gwutils.Login2.send(Login2.java:21)
    at com.iplanet.portalserver.gwutils.Login2.login(Login2.java:69)
    at com.iplanet.portalserver.gateway.eprox.EProxy.<clinit>(EProxy.java:
```

Service Pack 3a に含まれていない属性

Service Pack 3a に施されたゲートウェイのパフォーマンス向上策の一環で、以下に示す iPlanet Portal Server 管理コンソールの設定が使用できなくなりました。

- IP アドレスの確認 - 有効
- 認証サーバ SSL 証明書リスト
- ReverseProxy の最大ソケット接続数

これらの設定は、管理者コンソールの [ゲートウェイプロファイルの管理] ページに表示されてはいますが、使用することはできません。そのため、『Administrator Guide』第 8 章「Configuring the Gateway」にある「IP address validation」項の内容は適用されなくなりました。

ゲートウェイコンポーネントのパフォーマンス調整パラメータ

稼働時のパフォーマンスを上げるには、[最大スレッドプールサイズ] の値を増やします。デフォルト値は 200 ですが、これを 500 に変更します。

この値は、ポータル管理コンソールを通じて増やすことができます。

1. [ゲートウェイ管理] を選択します。
2. [ゲートウェイプロファイルの管理] を選択します。
3. [詳細オプションを表示] を選択します。
4. [最大スレッドプールサイズ] フィールドの値を 500 に変更します。
5. [送信] を選択します。
6. ゲートウェイコンポーネントを再起動して変更内容を有効にします。

証明書の管理

Service Pack 3a では、ゲートウェイコンポーネントの SSL 証明書の管理方法が以前のリリースとは異なります。これは、古い SSL ライブラリが新しい SSL ライブラリで置き換えられたためです。

結果として、『iPlanet Portal Server Administration Guide』の第 11 章および『iPlanet Portal Server インストールガイド』の付録 A に記載されている、ゲートウェイコンポーネントの SSL 証明書管理に関する情報は適用されなくなりました。既存のドキュメントに含まれる古い情報の代わりとなる新しい情報を以下に示します。

注 既存のドキュメントに記載されている iPlanet Portal Server サーバコンポーネントの証明書に関する情報については、変更はありません。

ゲートウェイコンポーネントの SSL 証明書に関する一般的な情報

Service Pack 3a では、利便性を提供し、以前の証明書管理との一貫性を維持するため、`<installation_directory>/SUNWips/bin/` の `certadmin` スクリプトは `ipscertutil` コマンドをラップしています。`certadmin` スクリプトは、証明書管理に関する一般的なニーズに応えるものです。その他の機能が必要な場合は、`ipscertutil` コマンドを直接使用してください。たとえば、証明書データベースから証明書を削除するには、`ipscertutil` コマンドを使用します。また、`ipscertutil -H` コマンドを使用すると、その使用方法を表示できます。

証明書関連のファイルは、`/etc/opt/SUNWips/cert` にあります。5 つの証明書ファイルのうち、`cert7.db`、`key3.db`、および `secmod.db` の 3 つはバイナリファイルで、証明書、キー、および暗号モジュールのためのデータを含んでいます。これらのファイルは、`certadmin` スクリプトを使用することによって、間接的に操作できます。

証明書関連の 3 つのバイナリファイルは、`<installation_directory>/netscape/server4/alias` にあります。ファイルのフォーマットは、iPlanet Web Server によって使用されるデータベースファイルと同じです。これらのファイルは、必要に応じて、iPlanet Portal Server サーバコンポーネントと、ゲートウェイコンポーネントまたはゲートウェイプロキシ間で共有されます。

他の 2 つのファイル `.jsspass` および `.nickname.` は、隠しテキストファイルです。`.nickname` は、ゲートウェイが現在使用しているトークンおよび証明書の名前を「`token_name:certificate_name`」の形式で保存するファイルです。デフォルトトークン(デフォルト内部ソフトウェアの暗号化モジュールのトークン)を使用する場合、トークン名は省略します。通常、`.nickname` ファイルには証明書名のみが保存されます。

`.jsspass` は、iPlanet Portal Server が現在使用している暗号化モジュールのパスワードを含むファイルです。デフォルトモジュールは、内部ソフトウェアモジュールです。

iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントのインストール時には、自己署名 SSL 証明書が作成およびインストールされます。さらに証明書管理作業を行う場合は、必要に応じて `certadmin` スクリプトを使用します。

ゲートウェイコンポーネントの自己署名 SSL 証明書を作成する

1. ルートとして、certadmin スクリプトを実行します。以下の例では、/opt がインストールディレクトリです。

```
# /opt/SUNWips/bin/certadmin
```

証明書管理メニューが表示されます。

```
1) Generate Self-Signed Certificate
2) Generate Certificate Signing Request (CSR)
3) Add Root CA Certificate
4) Install Certificate From Certificate Authority (CA)
5) Modify Trust Attributes of Certificate (e.g., for PDC)
6) List Root CA Certificates
7) List All Certificates
8) Quit
```

```
choice: [8] 1
```

2. 自己署名証明書を生成するには、このメニューで「1」と入力します。
既存のデータベースファイルを保持するかどうかを尋ねられます。

```
Do you want to keep the existing certificate database files? [y]/n
```

3. 既存の証明書データベースを残すかどうか決めます。
 - 「y」を選択すると、組織情報、トークン名、および証明書名を入力するように指示されます。

```
What is the fully-qualified DNS name of this host?
[host_name.domain_name]
What is the name of your organization (ex: Company)? []
What is the name of your organizational unit (ex: division)? []
What is the name of your City or Locality? []
What is the name (no abbreviation please) of your State or Province?
[]
```

```
What is the two-letter country code for this unit? []  
  
Token name is needed only if you are not using the default internal  
(software) cryptographic module, for example, if you want to use a  
crypto card (Token names could be listed using: modutil -dmdir  
/etc/opt/SUNWips/cert -list); Otherwise, just hit Return below.  
  
Please enter the token name []  
  
Enter the name you like for this certificate:
```

トークン名 (デフォルトでは空白) および証明書名は、/etc/opt/SUNWips/cert の .nickname ファイルに保存されます。

- 「Do you want to keep the existing certificate database files?」という質問に対して「**n**」と答えると、元の証明書ディレクトリがバックアップされ、上記のように組織情報、トークン名、および証明書名を入力するように求められます。また、パスフレーズも入力するように求められます。パスフレーズは、新しい証明書、キー、および暗号化モジュールデータベースファイルの新しいセットを作成するために必要です。パスフレーズは、/etc/opt/SUNWips/cert の .jsspass ファイルに保存されます。

```
Enter passphrase []:
```

4. 組織情報、証明書名、トークン名 (必要な場合)、およびパスフレーズを入力します。
自己署名証明書が作成され、再びプロンプトが表示されます。
5. ゲートウェイコンポーネントを再起動して証明書を有効にします。

ゲートウェイコンポーネントを再起動するには、以下のコマンドを入力します。この例では、/opt がインストールディレクトリです。

```
# /opt/SUNWips/bin/ipsgateway stop  
# /opt/SUNWips/bin/ispgateway start
```

注 データベースファイルには複数の証明書を保存できますが、ゲートウェイコンポーネントは `.nickname` ファイル内で指定されている証明書を使用します。このファイルを手作業で編集することにより、異なる既存の証明書を指定することも可能です。

認証局/認証機関 (CA) からゲートウェイの SSL 証明書を手入れし、インストールする

Portal Server 製品のゲートウェイコンポーネントのインストール時には、自己署名証明書が作成およびインストールされます。コンポーネントのインストール後は、任意の時点で、公式の証明書認証局/認証機関 (CA) サービスを提供しているベンダーまたは自分の組織の CA によって署名された SSL 証明書をインストールできます。

このタスクは、以下の 3 つの手順に分けて行います。

- 証明書署名要求 (CSR) を生成する
- CSR を使用して、任意の CA に証明書を注文する
- CA からの証明書をインストールする

証明書署名要求 (CSR) を生成する

1. ルートとして、`certadmin` スクリプトを実行します。以下の例では、`/opt` がインストールディレクトリです。

```
# /opt/SUNWips/bin/certadmin
```

証明書管理メニューが表示されます。

```
1) Generate Self-Signed Certificate
2) Generate Certificate Signing Request (CSR)
3) Add Root CA Certificate
4) Install Certificate From Certificate Authority (CA)
5) Modify Trust Attributes of Certificate (e.g., for PDC)
6) List Root CA Certificates
7) List All Certificates
8) Quit
```

```
choice: [8] 2
```

2. 証明書署名要求 (CSR) を生成するには、このメニューで「2」と入力します。

組織情報、Web マスターの電子メールと電話番号、およびトークン名を入力するように指示されます。

```
What is the fully-qualified DNS name of this host?
[sesta.iplanet.com]
What is the name of your organization (ex: Company)? []
What is the name of your organizational unit (ex: division)? []
What is the name of your City or Locality? []
What is the name (no abbreviation please) of your State or Province?
[]
What is the two-letter country code for this unit? []

What is the email address of the admin/webmaster for this server [] ?
What is the phone number of the admin/webmaster for this server [] ?

Token name is needed only if you are not using the default internal
(software) cryptographic module, for example, if you want to use a
crypto card (Token names could be listed using: modutil -dbdir
/etc/opt/SUNWips/cert -list); Otherwise, just hit Return below.

Please enter the token name []
```

3. 情報を入力します。

注 Web マスターの電子メールおよび電話番号は、必ず入力してください。
有効な CSR を取得するために必要です。

CSR が生成され、/tmp/csr.<hostname> ファイルに保存されます。また、CSR は画面にも出力されるので、コピー & ペーストが可能です。

CSR を使用して、任意の CA に証明書を注文する

1. 認証局/認証機関の Web サイトにアクセスし、証明書を注文します。
2. CA の要求に応じて、前述の手順に従って作成した CSR を提供します。その他の情報を要求されたら、それも提供します。
3. CA から証明書を受け取り、ファイルに保存します。

以下の例では、実際の証明書データは省略されています。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
The certificate itself
```

```
-----END CERTIFICATE-----
```

ファイルには、証明書とともに「BEGIN CERTIFICATE」行と「END CERTIFICATE」行の両方を追加します。

CA からの証明書をインストールする

CA から受け取った証明書を、`certadmin` スクリプトを使用して `/etc/opt/SUNWips/cert` のローカルデータベースファイルにインストールします。

1. ルートとして、`certadmin` スクリプトを実行します。以下の例では、`/opt` がデフォルトの場所です。

```
# /opt/SUNWips/bin/certadmin
```

証明書管理メニューが表示されます。

```
1) Generate Self-Signed Certificate
2) Generate Certificate Signing Request (CSR)
3) Add Root CA Certificate
4) Install Certificate From Certificate Authority (CA)
5) Modify Trust Attributes of Certificate (e.g., for PDC)
6) List Root CA Certificates
7) List All Certificates
8) Quit

choice: [8] 4
```

2. CA からの証明書をインストールするには、「4」と入力します。

証明書ファイル名、証明書名、およびトークン名を入力するよう求められます。

```
What is the name (including path) of file that contains the
certificate?
Please enter the token name you used when creating CSR for this
certificate []
```

3. 必要な情報を入力します。

証明書が /etc/opt/SUNWips/cert にインストールされ、プロンプトが画面に再び表示されます。

4. ゲートウェイコンポーネントを再起動して証明書を有効にします。以下のコマンドでは、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

```
# /opt/SUNWips/bin/ipsgateway stop
# /opt/SUNWips/bin/ispgateway start
```

ルート CA 証明書を追加する

ゲートウェイが SSL クライアントである場合、ゲートウェイの証明書データベースにルート CA 証明書をインポートすると、ゲートウェイ証明書データベースにない CA によって署名されたサーバの証明書を提示するインターネットまたはイントラネットの HTTPS サイトと、ゲートウェイコンポーネントが通信できるようになります。ゲートウェイコンポーネントがサーバの CA 証明書を認識しないと、SSL ハンドシェイクは失敗します。

ハンドシェイクを成功させるには、CA のルート証明書をゲートウェイの証明書データベースにインポートすることによって、ゲートウェイ (この場合は SSL クライアント) がその CA を認識できるようにします。

ルート CA 証明書をゲートウェイコンポーネントの証明書データベースにインポートするには、以下の操作を行います。

1. ルートとして、certadmin スクリプトを実行します。以下の例では、/opt がデフォルトの場所です。

```
# /opt/SUNWips/bin/certadmin
```

証明書管理メニューが表示されます。

```
1) Generate Self-Signed Certificate
2) Generate Certificate Signing Request (CSR)
3) Add Root CA Certificate
4) Install Certificate From Certificate Authority (CA)
5) Modify Trust Attributes of Certificate (e.g., for PDC)
6) List Root CA Certificates
7) List All Certificates
8) Quit
```

```
choice: [8] 3
```

2. このメニューで、オプション 3 を選択します。
3. ルート証明書を含むファイル名および証明書の名前を入力します。

ゲートウェイコンポーネントが自己署名証明書を提示する **https** サイトと通信するように設定されている場合は、ゲートウェイコンポーネントが不明な **CA** をすべて信頼するように設定しておくとう便利です。ただし、セキュリティ上重大な開発を行なっているときには、注意が必要です。ゲートウェイコンポーネントがすべてのサーバ証明書を信頼するように設定する方法については、「ゲートウェイパフォーマンスの向上」の「属性の追加」を参照してください。

証明書データベースには、よく知られたパブリック **CA** がすでに含まれています。以下の表に、デフォルトで含まれているパブリック **CA** およびその信頼属性を示します。パブリック **CA** の信頼属性を変更する方法については、「証明書の信頼属性を変更する」を参照してください。

表 4 パブリック 認証局/認証機関

証明書認証局/認証機関	信頼属性
ABACOM (sub., Am. Bankers Assn.) Root CA	CG,C,C
American Express CA	C,C,
American Express Global CA	C,C,
Baltimore CyberTrust Code Signing Root	„C
Baltimore CyberTrust Mobile Commerce Root	CG,C,
Baltimore CyberTrust Root	CG,C,
BelSign Object Publishing CA	„C
BelSign Secure Server CA	C,,
Deutsche Telekom AG Root CA	C,C,C
Digital Signature Trust Co. Global CA 1	CG,C,C
Digital Signature Trust Co. Global CA 2	CG,C,C
Digital Signature Trust Co. Global CA 3	CG,C,C
Digital Signature Trust Co. Global CA 4	CG,C,C
E-Certify Commerce ID	C,,
E-Certify Internet ID	,C,
Entrust.net Premium 2048 Secure Server CA	C,C,C
Entrust.net Secure Personal CA	C,C,C
Entrust.net Secure Server CA	C,C,C
Equifax Premium CA	C,C,C
Equifax Secure CA	C,C,C

表 4 パブリック認証局/認証機関 (続き)

証明書認証局/認証機関	信頼属性
Equifax Secure Global eBusiness CA	C,C,C
Equifax Secure eBusiness CA 1	C,C,C
Equifax Secure eBusiness CA 2	C,C,C
GTE CyberTrust Global Root	CG,C,C
GTE CyberTrust Japan Root CA	CG,C,C
GTE CyberTrust Japan Secure Server CA	CG,C,C
GTE CyberTrust Root 2	CG,C,C
GTE CyberTrust Root 3	CG,C,C
GTE CyberTrust Root 4	CG,C,C
GTE CyberTrust Root 5	CG,C,C
GTE CyberTrust Root CA	CG,C,C
GlobalSign Partners CA	C,C,C
GlobalSign Primary Class 1 CA	C,C,C
GlobalSign Primary Class 2 CA	,C,
GlobalSign Primary Class 3 CA	,C,
GlobalSign Root CA	C,C,C
TC TrustCenter, Germany, Class 0 CA	Cw,C,C
TC TrustCenter, Germany, Class 1 CA	,C,
TC TrustCenter, Germany, Class 2 CA	C,C,C
TC TrustCenter, Germany, Class 3 CA	C,C,C
TC TrustCenter, Germany, Class 4 CA	C,C,C
Thawte Personal Basic CA	,C,C
Thawte Personal Freemail CA	,C,
Thawte Personal Premium CA	,C,C
Thawte Premium Server CA	CG,,C
Thawte Server CA	CG,,C
Thawte Universal CA Root	CG,C,C
ValiCert Class 1 VA	C,C,C
ValiCert Class 2 VA	C,C,C
ValiCert Class 3 VA	C,C,C

表 4 パブリック 認証局/認証機関 (続き)

証明書認証局/認証機関	信頼属性
ValiCert OCSP Responder	C,C,C
VeriSign Class 4 Primary CA	CG,C,C
Verisign Class 1 Public Primary Certification Authority	,C,
Verisign Class 1 Public Primary Certification Authority - G2	,C,
Verisign Class 1 Public Primary Certification Authority - G3	,C,
Verisign Class 2 Public Primary Certification Authority	,C,C
Verisign Class 2 Public Primary Certification Authority - G2	,C,C
Verisign Class 2 Public Primary Certification Authority - G3	,C,C
Verisign Class 3 Public Primary Certification Authority	CG,C,C
Verisign Class 3 Public Primary Certification Authority - G2	CG,C,C
Verisign Class 3 Public Primary Certification Authority - G3	CG,C,C
Verisign Class 4 Public Primary Certification Authority - G2	CG,C,C
Verisign Class 4 Public Primary Certification Authority - G3	CG,C,C
Verisign/RSA Commercial CA	C,C,
Verisign/RSA Secure Server CA	C,C,

パブリック CA のリストを表示する

上記のパブリック CA のリストを表示するには、以下の操作を行います。

1. ルートとして、certadmin スクリプトを実行します。以下の例では、/opt がデフォルトの場所です。

```
# /opt/SUNWips/bin/certadmin
```

証明書管理メニューが表示されます。

```
1) Generate Self-Signed Certificate
2) Generate Certificate Signing Request (CSR)
3) Add Root CA Certificate
4) Install Certificate From Certificate Authority (CA)
5) Modify Trust Attributes of Certificate (e.g., for PDC)
```

```

6) List Root CA Certificates
7) List All Certificates
8) Quit

choice: [8] 6

```

2. このメニューで、オプション **6** を選択します。

証明書の信頼属性を変更する

通常、証明書の信頼属性を見ると、証明書が普通のサーバ証明書（ユーザ証明書とも呼ばれる）とルート証明書のどちらであるか、およびルート証明書の場合はそれをサーバ証明書またはクライアント証明書の発行元として信頼できるかどうか分かります。

各証明書には、SSL、電子メール、およびオブジェクト署名という 3 種類の信頼カテゴリが、この順番で示されています。ゲートウェイコンポーネントの場合、有用なのは最初のカテゴリのみです。各カテゴリ部分には、以下の属性コードが 1 個以上使用されます（使用されない場合もあります）。

以下の表に、属性値とその意味を示します。この表は、信頼属性の使用方法を理解するのに役立ちます。

表 5 証明書の信頼属性

属性	説明
p	有効なピア
P	信頼されているピア (p の意味を含む)
c	有効な CA
T	クライアント証明書を発行する、信頼されている CA (c の意味を含む)
C	サーバ証明書を発行する、信頼されている CA (SSL のみ) (c の意味を含む)
u	証明書は、認証および署名に使用可能
w	警告を発行 (そのコンテキストで証明書を使用する場合は、他の属性と併用する)

カテゴリの属性コードはコンマで区切られ、全体が引用符で囲まれます。例えば、ゲートウェイのインストール時に生成およびインストールされた自己署名証明書には、ルート証明書ではなくサーバ証明書（ユーザ証明書）であることを示す “u,u,u” というコードが示されます。

信頼属性を表示する

証明書およびそれに対応する信頼属性を表示するには、certadmin スクリプトを使用します。

証明書の信頼属性を表示するには、以下の操作を行います。

1. ルートとして、certadmin スクリプトを実行します。以下の例では、/opt がデフォルトの場所です。

```
# /opt/SUNWips/bin/certadmin
```

証明書管理メニューが表示されます。

```
1) Generate Self-Signed Certificate
2) Generate Certificate Signing Request (CSR)
3) Add Root CA Certificate
4) Install Certificate From Certificate Authority (CA)
5) Modify Trust Attributes of Certificate (e.g., for PDC)
6) List Root CA Certificates
7) List All Certificates
8) Quit

choice: [8] 7
```

2. このメニューで、オプション 7 を選択します。

証明書の信頼属性を設定する

証明書の信頼属性を変更する必要がある状況としては、ゲートウェイとともにクライアント認証が使用されている場合が考えられます。クライアント認証には、『Administration Guide』の第 6 章で説明されている Personal Digital Certificate (PDC) があります。PDC を発行する CA は、ゲートウェイによって信頼されていなくてはなりません。たとえば、CA 証明書には、SSL を意味する「T」が付けられている必要があります。

証明書の信頼属性を設定するには、以下の操作を行います。

1. ルートとして、certadmin スクリプトを実行します。以下の例では、/opt がデフォルトの場所です。

```
# /opt/SUNWips/bin/certadmin
```

証明書管理メニューが表示されます。

```
1) Generate Self-Signed Certificate
2) Generate Certificate Signing Request (CSR)
3) Add Root CA Certificate
4) Install Certificate From Certificate Authority (CA)
5) Modify Trust Attributes of Certificate (e.g., for PDC)
6) List Root CA Certificates
7) List All Certificates
8) Quit
```

```
choice: [8] 5
```

2. このメニューでオプション 5 を選択します。
3. 証明書の名前を、たとえば「Thawte Personal Freemail CA」のように入力します。

```
Please enter the name of the certificate:
Thawte Personal Freemail CA
```

4. 証明書の信頼属性を、たとえば「CT,CT,CT」のように入力します (この場合はすでに表示されているので、Return キーを押すのみ)。

```
Please enter the trust attribute you want the certificate to have
[CT,CT,CT]
```

証明書の信頼属性が変更されます。前述の PDC の例では、CA によって署名されたクライアント証明書がゲートウェイによって認識されるようになります。

Web サーバのパフォーマンス調整パラメータ

表 6 は、ゲートウェイコンポーネントのパフォーマンスを上げる Web サーバのパラメータ設定をまとめたものです。これらのコンフィグレーションファイルは以下の場所にあります。

install_directory/netscape/server4/https-server_name/config

表 6 Web サーバのパフォーマンス調整パラメータ

名前	範囲	デフォルト	推奨値	説明
RqThrottle	magnus.conf	512	128	iWS4.1 SP7 を使用している場合、アクティブな iWS スレッドの最高数は RqThrottle + MaxKeepAliveConnections という式を用いて算出されます。ポータル管理者は、 RqThrottle と MaxKeepAliveConnections 間の比を僅かに変更することができますが、正しいスケールを行うために 2 つのパラメータの合計を 200 付近に保っておく必要があります。
MaxKeepAliveConnections	magnus.conf	200	72	
jvm.minHeapSize	jvm12.conf	1048576	32768000	頻繁にアクセスされるサイトの場合は、メモリー不足による JVM の中断問題を回避するために、最大 JVM ヒープサイズを 768 M バイト に増やすことをお勧めします。
jvm.maxHeapSize	jvm12.conf	16777216	805306368	
jvm.option	jvm12.conf	-Xrunoii		JDK 1.2.2_07 は、以下のオプションと一緒に使用することにより、さらに良いパフォーマンスとスケーラビリティを提供します。 "-Xgenconfig:32m,32m,semispaces:32m,768m,markcompact -Xoptimize"
cache-init	obj.conf	false	true	iWS の静的ページキャッシュを無効にする場合は、 obj.conf に以下の行を入力します。 Init fn="cache-init" disable="true"

オープンポータルモード

ポータルに機密性の高い情報が含まれていない場合 (公開情報を掲載したり、無料のアプリケーションへのアクセスを許可する場合)、**Portal Server** で、ゲートウェイなしのオープンポータルモードを使用することにより、ゲートウェイがインストールされている場合 (セキュアポータルモード) よりもすばやく大量のユーザからのリクエストに反応することができます。

暗号化サービスと URL 書き換えサービスを提供するゲートウェイは、**iPlanet Portal Server** がオープンポータルモードで稼働している間は必要ではありません。

ゲートウェイなしで iPlanet Portal Server を移動することを、オープンポータルモードと呼びます。オープンポータルとセキュアポータルの主な違いは、オープンポータルで提供されるサービスはたいていの場合、安全なイントラネットの内部ではなく、非武装地帯の中にあるということです。

注 ゲートウェイなし (オープンポータルモード) で iPlanet Portal Server を使用すると、同時接続している多数のユーザがいる場合に、ポータルの応答時間を短くすることができます。

セキュアポータル

iPlanet Portal Server 3.0 は、機密性の高いポータルやリモートアクセス用のポータルを配備するための顧客向けの製品です。これらのタイプのポータルは、イントラネットリソースのセキュリティとプライバシーの保護を重視しています。iPlanet Portal Server のアーキテクチャは、このタイプのポータル用に最適です。URL の書き換え、URL アクセスポリシー、およびゲートウェイの Netlet 機能によって、一般に公開されているインターネットにイントラネットのリソースをさらすことなしに、ユーザはインターネットから安全にこれらのリソースにアクセスすることができます。非武装地帯に配置されたゲートウェイによって、イントラネット内のすべての URL とアプリケーションに対する唯一のアクセスポイントが提供されます。セッション、認証、デスクトップ、チャンネル、プロファイルデータベースなど、他の iPlanet Portal Server サービスはすべて、非武装地帯の中の、安全なイントラネットに配置されます。クライアントブラウザからゲートウェイへの通信は、SSL を使用した HTTP によって暗号化されます。ゲートウェイからサーバやイントラネットのリソースへの通信は、http あるいは https のいずれかで行われます。

オープンポータル

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a 製品では、ゲートウェイのサービスを使わずに iPlanet Portal Server に必要な機能を配備することができます。

Service Pack 3a では、iPlanet Portal Server 製品をオープンポータルモードでインストールすることも可能です。iPlanet Portal Server ソフトウェアをオープンポータルモードでインストールする方法については、「インストールに関する説明」の「クリーンインストール」を参照してください。

オープンポータルモードで SSL を実行するように iPlanet Portal Server 3.0 を設定する

一般向けのポータルは通常セキュリティ機能なしで、あるいは http で実行されます。しかし、SSL を使用した HTTP (https) を使ってポータルを配備するほうが望ましい場合もあります。Portal Server は、インストール時に https サービスを実行するように設定することも、あるいはインストールの後、手動で http から https に変更することもできます。

SSL の使用については、『iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide』を参照してください。

注 このタイプのオープンポータルは、ゲートウェイのサービスを必要としません。

ユーザは、サーバが http 用に設定されているかのように、サーバに直接アクセスできます。ただし、使用するのは `http://server.domain` ではなく `https://server.domain` です。

ゲートウェイなし、すなわちオープンポータルモードで実行しているときは、以下の機能を使用できません。

Netlet

この機能は、ゲートウェイなしでは**使用できません**。

Netlet は、TCP/IP アプリケーションのために、ゲートウェイからバックエンドサービスへの暗号化された安全なトンネルを提供します。

URL アクセスポリシーの実施

汎用的な URL アクセス確認は、ゲートウェイがないと**使用できません**。

ゲートウェイが果たす多くの機能の 1 つは、URL に対するどのようなリクエストも、要求しているユーザのポリシーと突き合わせるようにすることです。ゲートウェイが使用されていないからといって、ユーザポリシーがないというわけではありません。デスクトップなどの **iPlanet Portal Server** サービスはすべて、**iPlanet Portal Server** ポリシーサーバによって保護されています。

たとえば、ユーザがデスクトップを実行したり、デスクトップに特定のチャネルを追加することを制限されている場合には、このタイプのポリシーが適用されます。

URL の書き換え

オープンポータルモードではゲートウェイがないため、**書き換えサービスはありません**。

これは、デスクトップからアクセスされる URL は、すべてクライアントのホスト、あるいはクライアントが使用するよう設定されている **Web** プロキシによって解釈され、到達できるようになっている必要があるということです。

HTTP 基本認証

この機能は、オープンポータルでは**使用できません**。

ゲートウェイは、**HTTP** 基本認証のためのシングルサインオンサービスを提供します。ユーザが、パスワードで保護されている **Web** ページをリクエストすると、**Web** サーバはユーザ名とパスワードの「**HTTP** 基本認証」リクエストを返します。ユーザはユーザ名とパスワードを入力し、ページが **Web** サーバによって返されます。ゲートウェイはこのインタラクションをリッスンし、ユーザが同じ情報を再び入力しなくてもよいように、ユーザ名とパスワードをユーザのプロファイルに格納します。その後、ゲートウェイはユーザに代わって応答します。

1 つの **iPlanet Portal Server** インスタンスを、オープンポータルとセキュアポータルの両方がサポートされるように設定することができます。

たとえば、イントラネット内にポータルを作りたいと考えている企業があるとします。

- ユーザがイントラネットからポータルにアクセスするときは、`http` を使って直接サーバにログインします。

- インターネットからポータルにアクセスするときは、ゲートウェイを介して https を使用します。

既存のゲートウェイ/サーバをオープンポータルモードに更新する

iPlanet Portal Server Service Pack 3a をポータルサーバにインストールし、以下の操作を行います。

- ゲートウェイのみをシャットダウンするには、`ipsgateway` の `stop` コマンドを実行します。

```
# /opt/SUNWips/bin/ipsgateway stop
```

- 別のコンピュータ上にあるゲートウェイをポータルサーバから完全に削除するには、`pkgrm` コマンドを使用して `SUNWwtgwd` と `SUNWwtsd` パッケージを削除します。
- ゲートウェイとポータルサーバが同じコンピュータ上にある場合に、ゲートウェイを完全に削除するには、`pkgrm` コマンドを使用して `SUNWwtgwd` パッケージだけを削除します。

オープンポータルにログインする

オープンポータルにログインする場合は、以下の規則に従います。

注 ユーザは、常にサーバの「完全修飾名」を使用しなければなりません。

- サーバ名が `my.sun.com` で、サーバが `http` を実行している場合は、次の URL を使用します。

`http://my.sun.com` (デフォルト `http` ポート `80` が設定されている場合)。

または

`http://my.sun.com:port` (`port` がデフォルト以外のポート番号の場合)。

例: `http://my.sun.com:8080`

- サーバ名が `my.sun.com` で、サーバが `https` を実行している場合は、次の URL を使用します。

`https://my.sun.com:port`

または

`https://my.sun.com` (ポート `443` が使用されている場合)。

オープンポータルモードでのマルチホスト

Service Pack 3a には、サーバが 1 つのサーバインスタンスから複数の iPlanet Portal Server インスタンスにアクセスできる機能があります。

iPlanet Portal Server へのアクセスは、次のいずれかです。

- `http://server:port`
 - `https://server:port` (サーバが HTTPS に設定されている場合)
- ここで、*server* はポータルサーバ名で、*port* はポータルサーバのポートです。

ポータル上の別のドメインにログインするときは、次の URL を使用します。

`http://server:port/login/domain_name`

ここで、*domain_name* はポータルドメイン名です。

URL からドメインへのマッピング

ポータルサーバの既存のインスタンスに複数のサーバやドメインが含まれている場合には、「URL からドメインのマッピング」によって、URL の中にドメイン名を含めなくても、ポータルサーバがドメインを見つけられるようになります。

以下に、URL を特定のドメインにマップする例について説明します。

iPlanet Portal Server のインスタンスに 1 つのサーバ (*server1*) と 2 つのドメイン (*domain1* と *domain2*) がある場合は、以下に示す URL からドメインへのマッピングが必要です。

- `http://server1:port/domain1 ---> domain1`
- `http://server1:port/domain2 ---> domain2`

URL をドメインにマップするには、管理コンソールで以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。
3. [Portal Server のドメイン] ページで、次の操作を行います。
 - ドメインの 1 つを選びます。
4. [ドメイン、ロール、ユーザプロファイル] ページで、
 - a. [プロファイル] リンクを展開します。
 - b. [認証] リンクを選択します。
 - c. [ドメイン URL] フィールドまでスクロールし、そのドメインの URL を追加します。
「ドメイン URL マッピングリスト」を参照してください。
 - d. [追加] をクリックします。
 - e. [送信] をクリックします。

2 つ目のドメインにも同じ手順を繰り返します。

ドメイン URL マッピングリスト

domain1 のドメインリストには、以下の **URL** が含まれている必要があります。

- o /domain1
- o server1/domain1
- o server1 IP アドレス/domain1
- o /domain2
- o server1/domain2
- o server1 IP アドレス/domain2

注 以下の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

1. obj.conf に以下の 2 行を追加します (下の例の太字テキストを参照)。

obj.conf は次の場所にあります。

/opt/netscape/server4/https-server11/config/obj.conf

ここで、**domain 1** および **domain 2** は iPlanet Portal Server のドメイン名です。

```
Init fn=flex-init
access="/opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/access"
format.access="%Ses->client.ip% - %Req->vars.auth-user% [%SYSDATE%] '
%Req->reqpb.clf-request%' %Req->srvhdrs.clf-status% %Req->srvhdrs.content-length%"
Init fn=load-types mime-types=mime.types
Init fn="load-modules"
shlib="/opt/netscape/server4/bin/https/lib/libNSServletPlugin.so"
funcs="NSServletEarlyInit,NSServletLateInit,NSServletNameTrans,NSServletService"
shlib_flags="(global|now)"
Init fn="NSServletEarlyInit" EarlyInit=yes
Init fn="NSServletLateInit" LateInit=yes

<Object name=default>
NameTrans fn="NSServletNameTrans" name="servlet"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/servlet" dir="/opt/SUNWips/servlets"
name="Servlet ByExt"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/jsp.092" dir="/opt/SUNWips/public_html/jsp.092"
name="jsp092"
NameTrans fn="pfx2dir" from=/ns-icons dir="/opt/netscape/server4/ns-icons"
name="es-internal"
NameTrans fn="pfx2dir" from=/mc-icons dir="/opt/netscape/server4/ns-icons"
name="es-internal"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/help" dir="/opt/netscape/server4/manual/https/ug"
name="es-internal"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/manual" dir="/opt/netscape/server4/manual/https"
name="es-internal"
```

```

NameTrans fn="pfx2dir" from="/cgi-bin" dir="/opt/SUNWips/cgi-bin" name="cgi"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/NetMail" dir="/opt/SUNWips/public_html/NetMail"
NameTrans fn="pfx2dir" from="apps" dir="/opt/SUNWips/public_html/"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/content" dir="/opt/SUNWips/public_html/content"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/locale" dir="/opt/SUNWips/locale"
NameTrans fn=document-root root="/opt/SUNWips/public_html"
NameTrans fn="redirect" from="/domain1" url="/login/domain1"
NameTrans fn="redirect" from="/domain2" url="/login/domain2"
PathCheck fn=unix-uri-clean
PathCheck fn="check-acl" acl="default"
PathCheck fn=find-pathinfo
PathCheck fn=find-index index-names="index.html,home.html"
ObjectType fn=type-by-extension
ObjectType fn=force-type type=text/plain
Service type="magnus-internal/jsp" fn="NSServletService"
Service method=(GET|HEAD) type=magnus-internal/imagemap fn=imagemap
Service method=(GET|HEAD) type=magnus-internal/directory fn=index-common
Service method=(GET|HEAD|POST) type=*~magnus-internal/* fn=send-file
AddLog fn=flex-log name="access"
</Object>

```

2. サーバを停止し、再起動します。

```
# /opt/SUNWips/bin/ipsserver start
```

次に、もう一つの例を示します。

サーバが3つ (server1、server2、server3) あり、ドメインが2つ (domain1 と domain2) ある場合には、URL からドメインへのマッピングは次のようになります。

```
http://server1:port ---> domain 1
```

```
http://server2:port ---> domain 2
```

```
http://server3:port ---> domain 2
```

URL をドメインにマップするには、管理コンソールで以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。
3. [Portal Server のドメイン] ページで、次の操作を行います。
 - ドメインの1つを選びます。

4. [ドメイン、ロール、ユーザプロフィール] ページで、
 - a. [プロフィール] リンクを展開します。
 - b. [認証] リンクを選択します。
 - c. [ドメイン URL] フィールドまでスクロールし、そのドメインの URL を追加します。
下の「ドメイン URL マッピングリスト」セクションを参照してください。
 - d. [追加] をクリックします。
 - e. [送信] をクリックします。

2 つ目のドメインにも同じ手順を繰り返します。

ドメイン URL マッピングリスト

domain1 のドメインリストには、以下の URL が含まれていなければなりません。

- o server1
- o server1 IP アドレス
- o server1/domain1
- o server1 IP アドレス/domain1
- o /domain1
- o server1/ログイン
- o server1 IP アドレス/ログイン

domain2 のドメイン URL リストには、以下の URL が含まれていなければなりません。

- o server2
- o server2 IP アドレス
- o server2/domain2
- o server2 IP アドレス/domain2
- o /domain2
- o server2/ログイン
- o server2 IP アドレス/ログイン
- o server3
- o server3 IP アドレス
- o server3/domain2
- o server3 IP アドレス/domain2

- server3/ログイン
- server3 IP アドレス/ログイン

iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する

この設定は、異なるポートで iPlanet Portal Server 3.0 の複数のインスタンスを実行できるようにするものです。この場合、ユーザは 1 つの仮想サーバとやり取りすることになります。

1 台の物理マシン上で、iPlanet Portal Server 3.0 サーバの複数のインスタンスを実行し、それぞれに iPlanet™ Web Server のコピーを保持すると、iPlanet Portal Server 3.0 の状況が変わり、複数の Web サーバと JVM を 1 台のマシンで動かすことができるようになります。

これらのインスタンスを設定して、SSL を実装することができます。その場合、ユーザは、特定の iPlanet Portal Server インスタンスでセキュリティを確保できるように SSL に切り替えることができます。そのため、オープンポータルモードで実行しているとき、iPlanet Portal Server のインスタンスは SSL 上で通信することができます。

注 create コマンドを使った場合は、*HTTP* プロトコルを使用する「新しい」iPlanet Portal Server インスタンスが設定されるだけです。

複数のサーバインスタンスをインストールする

異なるポートに複数の iPlanet Portal Server インスタンスをインストールするには、次の操作を行います。

1. iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a をポータルサーバにインストールし、その後、以下の手順に従って操作します。

このリリースノートの「Service Pack 3a のインストールに関する注意」を参照してください。

注 以下の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

2. ルートとして、端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
# cd /opt/SUNWips/bin
# ./ipsserver create
```

これは、複数のインスタンスを作成するために、未使用の固有なポート番号を管理者が連続して入力できる、インタラクティブなオプションです。終了したら、空白行 (*Return*) を入れます。

ヒント コマンドラインに、以下のように入力します。

```
netstat -a | grep port_number | wc -l
```

目的のポートが使用可能かつ未使用であるかどうかを判断します。

このプロセスはマシンのアーキテクチャにもよりますが、約5分かかります。スクリプトの出力は次の例のようになります(太字はユーザ入力です)。

```
The installation directory is found to be /opt using the same
Enter a blank line when finished!
What is the port number where the Portal Server Server will run? 8081
What is the port number where the Portal Server Server will run? 8082
Do you want to overwrite this ? y/[n] Y
```

上記のインスタンスのいずれかが既に存在している場合は、上書き確認のメッセージが表示される前に、次のようなメッセージが表示されます。

```
Warning: server instance already exists:siroe.iplanet.com-8081
```

3. メニューが完了したら [戻る] を選びます。
4. すべての Portal Server インスタンスを停止し、再起動します。

```
# /opt/SUNWips/bin/ipsserver startall
```

個々のインスタンスを別々に起動するには、個々の ipsserver スクリプトを /opt/SUNWips/bin ディレクトリで実行します。

8081 で実行されるサービインスタンスを起動する場合は、次のようになります。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver.siroe.iplanet.com@8081 start
```

オリジナルのサーバは、次のようにして起動できます。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver start
```

5. iPlanet Portal Server 管理コンソールで、以下の操作を行います。
 - a. スーパーアドミンとしてログインします。
 - b. 左側のフレームから [サーバの管理] リンクを選びます。
 - c. 右側のフレームにある [サーバプロファイルの管理] リンクを選びます。
 - d. [サーバリスト] 属性を変更します。
[サーバリスト] に新しいサーバインスタンスを追加します。
`http://ipsserver.siroe.iplanet.com:8081`
`http://ipsserver.siroe.iplanet.com:8082`
 - e. ページの一番下にある [送信] ボタンをクリックし、変更を保存します。
 - f. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。
6. すべての Portal Server インスタンスを停止し、再起動します。

```
# /opt/SUNWips/bin/ipsserver startall
```

これにより、オリジナルのインスタンスを含め、すべてのポータルサーバインスタンスが起動します。これらのインスタンスは、次のようにして直接 Web ブラウザからアクセスできます。

```
http://siroe.iplanet.com:8080
```

```
http://siroe.iplanet.com:8081
```

```
http://siroe.iplanet.com:8082
```

マシンの名前が `siroe.iplanet.com` で、2つのポート番号 8081 と 8082 が手順 2 の例のように設定され、インストールディレクトリが `/opt` である場合は、以下のファイルがリストされます。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver.siroe.iplanet.com@8080
```

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver.siroe.iplanet.com@8081
```

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver.siroe.iplanet.com@8082
```

更新されたコマンドオプション

以下のコマンドオプションが更新され、新しいコマンドが追加されました。以下の例は、コマンドがあるディレクトリから実行された場合を示しています。

```
./ipsserver start            オリジナルのサーバのみを起動します。
```

- `./ipsserver startall` オリジナルのサーバと作成された複数のインスタンスをすべて起動します。
- `./ipsserver stop` オリジナルのサーバのみを停止します。
- `./ipsserver stopall` オリジナルのサーバと作成された複数のインスタンスをすべて停止します。
- `./ipsserver delete` オリジナルのサーバを除いて、作成された複数のインスタンスすべての選択を解除します。

オープンポータル環境でプロファイルサーバを SSL に変更する

このセクションでは、プロファイルサーバのプロトコルを **HTTPS** に変更する方法について説明します。このサーバは、プロファイルサービスを実行中のサーバです。以下の手順を参照してください。

注 以下の手順と例では、`/opt` がデフォルトのインストールディレクトリです。

注 **iPlanet Portal Server 3.0** がサポートしている任意の認証局や認証機関から証明書を取得し、それを **iPlanet Web Server** にインストールします。証明書のインストール方法については、『**iPlanet Portal Server 3.0** インストールガイド』の「**Portal Server** サーバコンポーネント用の証明書を生成するには」に示されている手順 **1 ~ 17** を参照してください。暗号化のオン/オフオプションは変更しないでください。

1. 端末ウィンドウでルートになり、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWips/bin/ipsserver start
```

2. **iPlanet Portal Server** の管理コンソールで、以下の手順に従って操作します。
 - a. スーパーアドミンとしてログインします。
 - b. 左側のフレームから [サーバの管理] リンクを選びます。
 - c. 右側のフレームにある [サーバプロファイルの管理] リンクを選びます。

- d. [プラットフォームサーバリスト] 属性を変更します。
 オリジナルのサーバに対する URL のプロトコルを *https* に変更します。
- ```
https://ipsserver.siroe.iplanet.com:8080
```
- e. ページの一番下にある [送信] ボタンをクリックし、変更を保存します。
- f. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。
3. 管理コンソールから [サーバの管理] を選びます。
- a. [名前付けプロファイルの管理] を選びます。
- b. [プロファイル URL] で、プロトコルを *https* に変更します。
- ```
https://ipsserver.siroe.iplanet.com@8080/profileservice
```
- オリジナルのサーバもプロファイル サービスを実行している場合には、プロファイル URL が *https* に変更されます。プロファイルサービスが別のマシンで実行されている場合には、プロファイル サービスを実行しているサーバと同じプロトコルになります。
- c. [ログイン URL] で、プロトコルを *https* に変更します。
- ```
https://ipsserver.siroe.iplanet.com:8080/loggingservice
```
- d. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
- e. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。
4. 端末ウィンドウで `/etc/opt/SUNWips` ディレクトリに移動します。  
 このディレクトリには、次のタイプの `platform.conf` ファイルが含まれています。
- ```
/etc/opt/SUNWips/platform.conf.siroe.iplanet.com
/etc/opt/SUNWips/platform.conf.siroe.iplanet.com@8081
/etc/opt/SUNWips/platform.conf.siroe.iplanet.com@8082
```
5. SSL 用に設定するサーバの `platform.conf` ファイルに、以下の変更を加えます。ファイルは、上に挙げられているファイルのうちのどれでもかまいません。
 この例では、オリジナルのサーバを SSL 用に設定します。
 端末のウィンドウで、テキストエディタを使って `platform.conf` ファイルを編集します。
- ```
/etc/opt/SUNWips/platform.conf
```
- 以下の例の太字で示されているようにエントリを編集します。
- o `ips.server.protocol=https`
  - o `ips.naming.url=https`
  - o `ips.notification.url=https`

```
#
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"@(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=https
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=https://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=https://siroe.iplanet.com:8080/notificationsservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=&&
```

6. 端末ウィンドウからテキストエディタを使って magnus.conf ファイルを編集します。

```
/opt/netscape/server4/https-siroe/config/magnus.conf
```

サーバが SSL を使用して通信を行うためには、セキュリティオプションをオンに設定する必要があります。

太字で示されているようにエントリを編集します。

```
#ServerRoot /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com
ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com
Port 8080
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User root
MtaHost localhost
DNS off
Security on
```

```
Ciphers +rc4,+rc4export,+rc2,+rc2export,+des,+desede3
SSL3Ciphers +rsa_rc4_128_md5,+rsa_3des_sha,+rsa_des_sha,+rsa_rc4_40_md5,+rsa_rc2_40_md5,-rsa_null_md5,+rsa_des_56_sha,+rsa_rc4_56_sha
ACLFile /opt/netscape/server4/httpacl/generated.https-siroe.iplanet.com.acl
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
AcceptLanguage off
RqThrottle 1024
StackSize 131072
CGIWaitPid on
CGIWaitPid on
```

7. すべての Portal Server を停止し、再起動します。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver startall
```

## オープンポータル環境で、作成した複数のインスタンスサーバを SSL に変更する

このセクションでは、作成した複数インスタンスのプロトコルを HTTPS に変更する方法について説明します。これらの変更を SSL が要求されるサーバに対して行なってください。SSL を使って通信できるように設定するすべての iPlanet Portal Server のサーバにおいて、任意の証明書をインストールするために入力した鍵ペアファイルのパスワードと信頼できるデータベースのパスワードが同じであること、そして、パスワードは iPlanet Portal Server サーバをインストールするときに入力した「SSL パスフレーズである」ことを確認します。

---

**注**           以降の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

---



---

**注**           iPlanet Portal Server 3.0 がサポートしている任意の認証局や認証機関から証明書を取得し、それを iPlanet Web Server にインストールします。証明書のインストール方法については、『iPlanet Portal Server 3.0 インストールガイド』の「Portal Server サーバコンポーネント用の証明書を生成するには」に示されている手順 1 ~ 17 を参照してください。暗号化のオン/オフオプションは変更しないでください。

---

たとえば、ポート 8081 で実行されるインスタンスを保護するには、以下の操作を行います。

1. すべての Portal Server を停止し、再起動します。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver startall
```

2. iPlanet Portal Server の管理コンソールで、以下の手順に従って操作します。

- a. スーパーアドミンとしてログインします。
- b. 左側のフレームから [サーバの管理] リンクを選びます。
- c. 右側のフレームにある [サーバプロファイルの管理] リンクを選びます。
- d. [プラットフォームサーバリスト] 属性を変更します。

インスタンスサーバの URL のプロトコルを *https* に変更します。

```
https://ipsserver.siroe.iplanet.com:8081
```

- e. ページの一番下にある [送信] ボタンをクリックし、変更を保存します。
  - f. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。
3. 端末ウィンドウで /etc/opt/SUNWips ディレクトリを開きます。

このディレクトリには、次のタイプの platform.conf ファイルが含まれています。

```
/etc/opt/SUNWips/platform.conf.siroe.iplanet.com
```

```
/etc/opt/SUNWips/platform.conf.siroe.iplanet.com@8081
```

```
/etc/opt/SUNWips/platform.conf.siroe.iplanet.com@8082
```

4. SSL 用に設定するサーバの platform.conf ファイルに、以下の変更を加えます。

---

注            プロファイルサーバを実行しているオリジナルのサーバが SSL を使用して通信するように変更されている場合は、ips.naming.url のプロトコルも *https* に変更する必要があります。

---

端末ウィンドウからテキストエディタを使って、そのインスタンスのサーバの platform.conf ファイルを編集します。

```
/etc/opt/SUNWips/platform.conf.siroe.iplanet.com@8081
```

次の例の太字で示されているようにエントリを編集します。

- o ips.server.protocol=**https**

- o ips.notification.url=**https**

```
#
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=https
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8081
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8081/namingservice
ips.notification.url=https://siroe.iplanet.com:8081/notificationsservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=&&
```

5. サーバが SSL を使用して通信を行うためには、セキュリティオプションがオンになっている必要があります。

端末ウィンドウからテキストエディタを使って magnus.conf ファイルを編集します。ファイルの場所:

```
/opt/netscape/server4/https-siroe@port/config/magnus.conf
```

次の例の太字で示されているようにエントリを編集します。

```
#ServerRoot /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com
ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com:8081
Port 8081
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User root
MtaHost localhost
DNS off
```

```
Security on
Ciphers +rc4,+rc4export,+rc2,+rc2export,+des,+desede3
SSL3Ciphers +rsa_rc4_128_md5,+rsa_3des_sha,+rsa_des_sha,+rsa_rc4_40_md5,+rsa_rc2_40_md5,-rsa_null_md5,+rsa_des_56_sha,+rsa_rc4_56_sha
ACLFile /opt/netscape/server4/httpacl/generated.https-siroe.iplanet.com.acl
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
AcceptLanguage off
RqThrottle 1024
StackSize 131072
CGIWaitPid on
CGIWaitPid on
```

6. すべての Portal Server を停止し、再起動します。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver startall
```

7. 設定したサーバが SSL プロトコルで通信していることを確認するには、次の URL を使って直接アクセスします。

<https://siroe.iplanet.com:8081>

## ルートでないユーザの権限で実行するように、iPlanet Portal Server を設定する

この手順は、ルートでないユーザを iPlanet Portal Server 3.0 サーバ上に設定するためのものです。以下の例では、サーバとゲートウェイが同じシステム上にインストールされています。ゲートウェイを別のシステムにインストールする場合は、ゲートウェイのコンピュータで同様の手順を実行します。ルートでないユーザが Service Pack 2 にインストールされており、それを Service Pack 3a にアップグレードした場合は、「ルートでないユーザ ID によるインストールを Service Pack 3a にアップグレードする」の項を参照してください。

---

**注**            ルート起動のゲートウェイは、ルートでないユーザ起動のサーバを使って実行できます。

---

---

**注**            認証ヘルパーは、ルートとして実行する必要があります。

---

この節には、以下の各項があります。

- インストールの例
  - iPlanet Portal Server サーバコンポーネントをインストールする
  - iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントをインストールする
- サーバコンポーネントにルートでないユーザを設定する
- ゲートウェイコンポーネントにルートでないユーザを設定する
- ルートでないユーザ ID によるインストールを Service Pack 3a にアップグレードする
- 特別な場合の設定
- Non-Root に関するエラーメッセージ
  - サーバに関するエラーメッセージ
  - ゲートウェイに関するエラーメッセージ

## インストールの例

iPlanet Portal Server 3.0 サーバをインストールするときに、デフォルト以外のインストールを選びます。non-root のユーザ ID を指定する場合は、ディレクトリサーバに対して 1024 より大きな未使用のポート番号を入力します (デフォルトは 389)。以下の例では、ポート 8389 を使用しています。他の iPlanet Portal Server ポートはすべて 8000 番台です。ルートパスワードが実装されていない場合は、デフォルトのルートからスーパーアドミンのユーザ ID を変更してください。ゲートウェイを交換する場合にはポートを指定します。以下の例では、デフォルトの 443 の代わりに 8443 を使っています。これを行うには、ゲートウェイにデフォルト以外のインストールを選択します。以下に、サンプルのサーバとゲートウェイのインストールセッションを示します。

---

**注**            以下の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

---

## iPlanet Portal Server サーバコンポーネントをインストールする

iPlanet Portal Server サーバソフトウェアのインストール方法については、『iPlanet Portal Server 3.0 インストールガイド』を参照してください。

---

**ヒント**        デフォルト以外のエントリは、太字で示されています。

---

```
./ipsinstall

iPlanet Portal Server (3.0sp3 release)

```

```
Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.18655/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes

Inspecting system.
Patch 106040-15 is recommended/required.
Patch 106409-01 is recommended/required.
Abort installation? [y]/n n

Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [siroe]
What is the subdomain ("." for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]

Inspecting iPS components.

Options:
1) Continue upgrade
2) Continue as a clean install (current installation will be
removed)
3) Continue install (current installation will not be removed)
4) Remove current installation
5) Exit
Choice? [5] 2

Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 1

What directory to install in? [/opt]

Are the servers using SSL protocol? y/[n]

Is this a multiple server install? y/[n]

The profile server will run on siroe.iplanet.com
On what port will the profile server run? [8080]
What is the root of the profile role tree? [iplanet.com]
What is the user for the root of the role tree? [root]
The directory server will run on siroe.iplanet.com
On what port will the directory server run? [389] 8389

On what port will the gateways run? [443] 8443

Is this a multiple gateway install? y/[n]
```



```

On what hostname will the gateway run? [MyGateway] siroe
What is the sub-domain name for siroe ("." for none)? []
What is the domain name for siroe? [iplanet.com]

Should the gateway(s) use a web proxy? y/[n]

What is the administrator port for the web server? [8088]

A passphrase is needed to manage and install certificates on the
gateway
and the server, in the configuration of the web and LDAP servers
and to
allow secure communication between the gateways and servers. The
passphrase
must match between gateway and server installations.
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :

Start after installation completes? [y]/n

Server settings
Installation Directory : /opt
Server List : http://siroe.iplanet.com:8080
Gateway List : siroe.iplanet.com:8443
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
LDAP Port : 8389
LDAP Admin Port : 8900
Web Server Admin Port : 8088
Start Server : y
Are these settings correct? [y]/n

Installing server.
Installing SUNWwtsdd...
Installing SUNWwtws...
Installing SUNWwtsvd...
Installing SUNWwtDt...
Installing SUNWwtNm...
Installing SUNWwtNf...
Installing SUNWwtRw...
Installing SUNWwtDoc...
Installing SUNWwtSam...
Installing SUNWwtDs...

Starting server.

```

## iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントをインストールする

iPlanet Portal Serverゲートウェイソフトウェアのインストール方法については、『iPlanet Portal Server 3.0 インストールガイド』を参照してください。

---

ヒント デフォルトでないエントリは太字で示されています。

---

```
Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 2

Is the profile server using SSL protocol? y/[n]

Should the local machine be the profile server? [y]/n
The profile server will run on siroe.iplanet.com
What is the port for the profile server? [8080]

What is the root of the role tree? [iplanet.com]
What is the user for the root of the role tree? [root]

On what hostname will the gateway run? [siroe]
What is the sub-domain name for siroe ("." for none)? []
What is the domain name for siroe? [iplanet.com]
On what port will the gateway run? [443] 8443

Does this gateway have multiple network interfaces? y/[n]

Install firewall? y/[n]

What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :

Start after installation completes? [y]/n

Gateway settings
Installation Directory : /opt
Gateway : siroe.iplanet.com:8443
Gateway IP Address : 192.168.01.03
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
Install Firewall : n
Start Gateway : y
Are these settings correct? [y]/n

Self-signed certificate for a SSL connection.
What is the name of your organization? [MyCompany] sun
What is the name of your organizational unit? [MyDivision] iplanet
What is the name of your city or locality? [MyCity] santa clara
What is the name of your state or province? [MyState] california
What is the two-letter country code? [us]

Installing gateway.
Installing SUNWwtgwd...

Starting gateway.
```

## サーバコンポーネントにルートでないユーザを設定する

注意書きがある場合を除き、以下の手順はすべてルートとして実行してください。

---

**注**           以下の手順を実行する前に、**Service Pack 3a** サーバ、ゲートウェイ、およびサードパーティ製品をインストールしてください。そうしないと、インストール手順の一部を繰り返して行わなければならないようになります。

---

Service Pack 3a のインストールについては、「インストールに関する説明」を参照してください。

iPlanet Portal Server ソフトウェアをインストールした後、以下の手順に従って操作します。

1. 端末のウィンドウでルートとして、以下の操作を行います。

```
chmod 666 /dev/random
```

---

**注**           以下のルートでないユーザの例では、*userid* をユーザの「修飾名」に置き換えてください。

---

2. ルートとして、端末ウィンドウで次のように入力します。

Userid はユーザの名前で、MyGroupid はそのユーザが所属するグループの名前です。ユーザ *Jim* が *staff* というグループに所属している場合は、次のようになります。

```
chown -R Jim:staff /opt/netscape
```

```
chown -R Userid:MyGroupid /opt/netscape
chown -R Userid:MyGroupid /opt/SUNWips
```

3. 以下のファイルを編集して、localuser をユーザログイン名 (Userid) に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
/opt/netscape/directory4/slapd-Servername/config/slapd.conf
```

```
#####
/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.conf
Netscape Directory Server global configuration file
Do not modify this file while ns-slapd is running
#####
instancedir "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe"
errorlog "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/logs/errors"
errorlog-logging-enabled on
plugin syntax on "Telephone Syntax" "/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.
so" tel_init
plugin matchingRule on "Internationalization Plugin" "/opt/netscape/directory4/l
ib/liblcoll.so" orderingRule_init "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config
/slapd-collations.conf"
plugin syntax on "Integer Syntax" "/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so
" int_init
plugin syntax on "Distinguished Name Syntax" "/opt/netscape/directory4/lib/synta
x-plugin.so" dn_init
plugin syntax on "Case Ignore String Syntax" "/opt/netscape/directory4/lib/synta
x-plugin.so" cis_init
plugin syntax on "Case Exact String Syntax" "/opt/netscape/directory4/lib/syntax
-plugin.so" ces_init
plugin syntax on "Binary Syntax" "/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so"
bin_init
return exact_case on
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.at.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.oc.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/ns-schema.conf"
readonly off
timelimit 3600
sizelimit 2000
lastmod on
idletimeout 0
ntsynch off
ntsynch-port 5009
ntsynchusessl on
port 8389
secure-port 636
maxdescriptors 1024
schemacheck off
enquote_sup_oc on
security off
localuser Userid
userat "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_at.conf"
useroc "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_oc.conf"
accesslog "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/logs/access"
```

4. 以下のファイルを編集して、User をユーザログイン名 (Userid) に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
/opt/netscape/server4/https-servername/config/magnus.conf
```

```
#ServerRoot /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com
ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com
```

```

Port 8080
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User Userid
MtaHost localhost
DNS off
Security on
Ciphers +rc4,+rc4export,+rc2,+rc2export,+des,+desede3
SSL3Ciphers +rsa_rc4_128_md5,+rsa_3des_sha,+rsa_des_sha,+rsa_rc4_40_md5,+rsa_rc2_40_md5,-rsa_null_md5,+rsa_des_56_sha,+rsa_rc4_56_sha
ACLFile /opt/netscape/server4/httpacl/generated.https-siroe.iplanet.com.acl
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
AcceptLanguage off
RqThrottle 1024
StackSize 131072
CGIWaitPid on
CGIWaitPid on

```

5. LDAP Directory Server プロセスもルート以外のユーザとして実行される場合は、以下のファイルを編集して、`configuration.nsSuiteSpotUser` をユーザログイン名 (Userid) に変更します。変更箇所は太字で示されています。

`/opt/netscape/directory4/admin-serv/config/local.conf` (部分的な例)

```

nsServerID: admin-serv
userPassword: {SHA}/mZi7HWjvvYwFggGkIRTOg79/Cc=
serverRoot: /opt/netscape/directory4
serverProductName: Administration Server
serverHostName: siroe.iplanet.com
uniqueMember: cn=admin-serv-siroe, cn=Netscape Administration
Server, cn=Server
Group, cn=siroe.iplanet.com, ou=iplanet.com, o=NetscapeRoot
installationTimeStamp: 20000914220659Z
configuration.nsServerPort: 8900
configuration.nsSuiteSpotUser: Userid
configuration.nsServerAddress: 192.168.178.52
configuration.nsAdminEnableEnduser: on
configuration.nsAdminEnabledSGW: on
configuration.nsDirectoryInfoRef: cn=Server Group,
cn=siroe.iplanet.com, ou
=iplanet.com, o=NetscapeRoot
configuration.nsAdminUsers: admin-serv/config/admpw
configuration.nsErrorLog: admin-serv/logs/error
configuration.nsPidLog: admin-serv/logs/pid
configuration.nsAccessLog: admin-serv/logs/access
configuration.nsAdminCacheLifetime: 600
configuration.nsAdminAccessHosts: *.iplanet.com
configuration.nsAdminAccessAddresses: 192.168.178.52
configuration.nsAdminOneACLDIR: adminacl

```

```
configuration.nsDefaultAcceptLanguage: en
configuration.nsClassname:
com.netscape.management.admserv.AdminServer@admserv42
.jar@cn=admin-serv-siroe, cn=Netscape Administration Server,
cn=Server Group, c
n=siroe.iplanet.com, ou=iplanet.com, o=NetscapeRoot
```

6. ルートとして、端末ウィンドウで次のように入力します。

```
chown -R Userid:MyGroupid /etc/opt/SUNWips
chown -R Userid:MyGroupid /var/opt/SUNWips
```

7. 以下のファイルを編集して、410 行目の `check_root_user` をコメント行にします。

/opt/SUNWips/bin/ipsserver (次のリストは 408 ~ 429 行目を表わしています)

```
#####
check_root_user
check_usage $# $2

cd out of cdrom dir, so as to make sure no process gets started with
cwd = the cdrom, otherwise cdrom can't eject
cd /var/opt/SUNWips/debug

umask 077
get_data

case "$1" in
 'create')
 do_debug $2
 $MULTISERVERINSTALL $1
 ;;
```

8. リポートしたとき、ルートによって iPlanet Portal Server サーバが自動的に起動しないように、以下のファイルの名前を変更します。

```
mv /etc/rc3.d/S42ipsserver /etc/rc3.d/XS42ipsserver
mv /etc/rc3.d/K42ipsserver /etc/rc3.d/XK42ipsserver
```

9. iPlanet Portal Server サーバコンポーネントを起動します。ルートでないユーザとして、端末ウィンドウから次の操作を実行します。

```
% /opt/SUNWips/bin/ipsserver start
```

## ゲートウェイコンポーネントにルートでないユーザを設定する

1. 以下のファイルを編集して、172 行目から 176 行目までをコメント行にします。

/opt/SUNWips/bin/ipsgateway (次のリストは 170 ~ 182 行目を表わしています)

```
#####
Main starts here
#####

if test `id | /usr/bin/awk '{print $1}'` != "uid=0(root)"
then
echo "`$gettext 'You must be root user to run'` $0."
exit 0
fi

umask 077
ulimit -n 10240

case "$1" in
'start')
```

2. 以下のファイルを編集して、ips.gateway.user=**Userid** を追加します。変更箇所は太字で示されています。

/etc/opt/SUNWips/platform.conf

---

**注** iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネント上で有効な **userid** でなければなりません。ips.gateway.user がここで指定された **userid** に一致しない場合は、権限の問題が発生します。

---

```
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
```

```
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.user=Userid
ips.gateway.port=8443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=&&
```

3. リブートしたときにルートによって iPlanet Portal Server ゲートウェイが自動的に起動しないように、以下のファイルの名前を変更します。

```
mv /etc/rc3.d/S90ipsgateway /etc/rc3.d/XS90ipsgateway
mv /etc/rc3.d/K90ipsgateway /etc/rc3.d/XK90ipsgateway
```

4. iPlanet Portal Server のサーバとゲートウェイを起動します。ルートでないユーザとして、端末ウィンドウから次の操作を実行します。

```
% /opt/SUNWips/bin/ipsserver start
% /opt/SUNWips/bin/ipsgateway start
```

## 特別な場合の設定

iPlanet Portal Server のサーバコンポーネントとゲートウェイコンポーネントを同じシステムにインストールした場合は、サーバとゲートウェイの両方をルートでないユーザとして実行するように設定する必要があります。



## ルートでないユーザ ID によるインストールを Service Pack 3a にアップグレードする

ルートでないユーザ ID によるインストールを Service Pack 2 から Service Pack 3a にアップグレードするには、すべてのユーザ名をいったんルートに戻しておく必要があります。また、Service Pack 3a をインストールした後は、サーバとゲートウェイを **Non-Root** として実行するように再設定しなければなりません。この手順を行わないと、データが失われます。

以下、Service Pack 3a にアップグレードするために必要な手順について簡単に説明します。

1. iPlanet Portal Server 3.0 のサーバとゲートウェイに対するサービスをすべて停止します。  
詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。
2. ゲートウェイがサーバとは別のコンピュータで実行されている場合は、以下の操作を行います。
  - a. ゲートウェイの /etc/opt/SUNWips/platform.conf ファイルを編集します。  
太字で示されているテキスト「**ips.gateway.user=userid**」の部分を削除します。

```
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"@(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.user=userid
ips.gateway.port=8443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=&&
```

3. 以下のファイルを編集して、410 行目にある「check\_root\_user」の部分のコメントアウトを解除( # を削除) します。変更箇所は太字で示されています。

/opt/SUNWips/bin/ipsserver (次のリストは 408 ~ 429 行目を表わしています)

```


check_root_user
check_usage $# $2

cd out of cdrom dir, so as to make sure no process gets started with
cwd = the cdrom, otherwise cdrom can't eject
cd /var/opt/SUNWips/debug

umask 077
get_data

case "$1" in
 'create')
 do debug $2
 $MULTISERVERINSTALL $1
 ;;
endcase
```

4. 以下のファイルを編集して、`configuration.nsSuiteSpotUser` を `root` に変更します。変更箇所は太字で示されています。

`/opt/netscape/directory4/admin-serv/config/local.conf` (一部のみ)

```
nsServerID: admin-serv
userPassword: {SHA}/mZi7HWjvvYwFggGkIRTOg79/Cc=
serverRoot: /opt/netscape/directory4
serverProductName: Administration Server
serverHostName: siroe.iplanet.com
uniqueMember: cn=admin-serv-siroe, cn=Netscape Administration Server,
cn=Server
 Group, cn=siroe.iplanet.com, ou=iplanet.com, o=NetscapeRoot
installationTimeStamp: 20000914220659Z
configuration.nsServerPort: 8900
configuration.nsSuiteSpotUser: root
configuration.nsServerAddress: 192.168.178.52
configuration.nsAdminEnableEnduser: on
configuration.nsAdminEnableDSGW: on
configuration.nsDirectoryInfoRef: cn=Server Group,
cn=siroe.iplanet.com, ou
=iplanet.com, o=NetscapeRoot
configuration.nsAdminUsers: admin-serv/config/admpw
configuration.nsErrorLog: admin-serv/logs/error
configuration.nsPidLog: admin-serv/logs/pid
configuration.nsAccessLog: admin-serv/logs/access
configuration.nsAdminCacheLifetime: 600
configuration.nsAdminAccessHosts: *.iplanet.com
configuration.nsAdminAccessAddresses: 192.168.178.52
configuration.nsAdminOneACLDIR: adminacl
configuration.nsDefaultAcceptLanguage: en
```

```
nsServerID: admin-serv
configuration.nsClassname:
com.netscape.management.admserv.AdminServer@admserv42
.jar@cn=admin-serv-siroe, cn=Netscape Administration Server,
cn=Server Group, c
n=siroe.iplanet.com, ou=iplanet.com, o=NetscapeRoot
```

5. 端末ウィンドウで、以下の操作を行います。

```
chown -R root:root /etc/opt/SUNWips
chown -R root:root /var/opt/SUNWips
chown -R root:root /opt/netscape
chown -R root:root /opt/SUNWips
```

6. 以下のファイルを編集します。

`/opt/netscape/server4/http-servername/config/magnus.conf.`

ユーザログイン名 (Userid) を root に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com
Port 8080
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User root
MtaHost localhost
DNS off
Security off
Ciphers +rc4,+rc4export,+rc2,+rc2export,+des,+desede3
SSL3Ciphers
+rsa_rc4_128_md5,+rsa_3des_sha,+rsa_des_sha,+rsa_rc4_40_md5,+rsa_rc2
_40_md5,-rsa_null_md5,+rsa_des_56_sha,+rsa_rc4_56_sha
ACLFile
/opt/netscape/server4/httpacl/generated.https-florizel.iplanet.com.a
cl
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
AcceptLanguage off
RqThrottle 1024
StackSize 131072
CGIWaitPid on
CGIWaitPid on
```

7. 以下のファイルを編集して、localuser を root に変更します。変更箇所は太字で示されています。

/opt/netscape/directory4/slapd-servername/config/slapd.conf

```
#####
/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.conf
Netscape Directory Server global configuration file
Do not modify this file while ns-slapd is running
#####
instancedir "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe"
errorlog "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/logs/errors"
errorlog-logging-enabled on

plugin syntax on "Telephone Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" tel_init

plugin matchingRule on "Internationalization Plugin"
"/opt/netscape/directory4/lib/liblcoll.so" orderingRule_init
"/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd-collations.conf"

plugin syntax on "Integer Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" int_init

plugin syntax on "Distinguished Name Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" dn_init

plugin syntax on "Case Ignore String Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" cis_init

plugin syntax on "Case Exact String Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" ces_init

plugin syntax on "Binary Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" bin_init

return_exact_case on
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.at.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.oc.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/ns-schema.conf"
readonly off
timelimit 3600
sizelimit 2000
lastmod on
idletimeout 0
ntsynch off
ntsynch-port 5009
ntsynchusessl on
port 8389
secure-port 636
maxdescriptors 1024
schemacheck off
enquote_sup_oc on
security off
localuser root
```

```

userat "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_at.conf"
useroc "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_oc.conf"
accesslog "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/logs/access"

```

8. Service Pack 3a アップグレードをインストールします。iPlanet Portal Server 3.0 については、「Service Pack 3a にアップグレードする」を参照してください。
9. サーバとゲートウェイの両方を **non-root** として実行するように再設定します。「サーバコンポーネントにルートでないユーザを設定する」および「ゲートウェイコンポーネントにルートでないユーザを設定する」を参照してください。
10. すべてのバックアップデータを復元し、すべてのサーバインスタンスおよび特別なコンフィグレーションを作成します。

## 特別な場合の設定

iPlanet Portal Server のサーバとゲートウェイを同じシステムにインストールした場合は、サーバとゲートウェイの両方を *non-root* として実行するように設定する必要があります。

## Non-Root に関するエラーメッセージ

ルートでないユーザとして実行していると、サーバとゲートウェイにエラーメッセージが出力されます。これらのメッセージは予期されているもので、状況に応じて対処方法が提供されています。

### サーバに関するエラーメッセージ

- a. ルートでないユーザはファイルディスクリプタの最大値を **1024** より大きな数値に設定できません。psserver スクリプトがそれを **10240** に設定しようと試みます。

```

/opt/SUNWips/bin/ipsserver: ulimit: exceeds allowable limit

```

- b. doSKey の起動エラー。このエラーは一般的ではありません。

```

starting auth helpers ... ld.so.1: /opt/SUNWips/bin/doSKey: fatal:
libskey.so: open failed: No such file or directory

```

対処方法は、`/bin/sh` で **non-root** *userid* として doSKey を手作業で起動することです。

```
LD_LIBRARY_PATH=/opt/SUNWips/bin
export LD_LIBRARY_PATH
/opt/SUNWips/bin/doSKey -c 8947
```

- c. ルートでないユーザとして実行しているときに、ローカルで管理されるUNIX userid を認証する場合は、次のようにします。

```
chown root:sys /opt/SUNWips/bin/doUnix
chmod 4555 /opt/SUNWips/bin/doUnix
```

chmod コマンドの **setuid** は doUnix であるため、ルートでないユーザによって開始された場合でもルートであるかのように実行されます。

### ゲートウェイに関するエラーメッセージ

ルートでないユーザは、最大数として `ulimit -n 1024` しか設定できません。このためルートでないユーザとして実行すると、ゲートウェイが同時に処理できる負荷に制約を与えることになります。

```
/dev/fd/some_number:ulimit: bad ulimit
```

## ユーザ Nobody として実行するように、iPlanet Portal Server を設定する

次の例では、iPlanet Portal Server 3.0 サーバにユーザ `nobody` を設定するために、サーバとゲートウェイが同じシステムにインストールされています。ゲートウェイを別のシステムにインストールする場合は、同じ手順をそのシステムで実行する必要があります。

`nobody` は暗号化されたパスワードを持つため、`nobody` を **iPlanet Portal Server** ファイルの所有者に指定するのは特別なケースであると言えます。`nobody` が所有するファイルを操作および実行できるのは、ルートでログインしたユーザだけです。

iPlanet Portal Server サーバを nobody として実行する場合、そのサーバは、デフォルトの Web サーバポートである 8080 をリッスンするように設定できます。LDAP サーバはデフォルトのポート 389 で実行でき、ゲートウェイはデフォルトの SSL ポート 443 で実行できます。

---

**注** nobody として実行している場合、Netfile および Netfile Lite アプリケーションは NFS プロトコルを使用できません。

---



---

**注** 認証ヘルパーは、ルートとして実行する必要があります。  
サーバコンポーネントを起動または再起動するときには、ルートとして実行してください。

---

ユーザ nobody が Service Pack 2 にインストールされており、それを Service Pack 3a にアップグレードした場合は、「ユーザ Nobody を Service Pack 3a にアップグレードする」を参照してください。

ここでは、以下の手順を説明します。

- インストールの例
  - iPlanet Portal Server サーバコンポーネントをインストールする
  - iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントをインストールする
- ユーザ Nobody として実行するようにサーバコンポーネントを設定する
- ユーザ Nobody として実行するようにゲートウェイコンポーネントを設定する
- 特別な場合の設定
- ユーザ Nobody を Service Pack 3a にアップグレードする

## インストールの例

iPlanet Portal Server 3.0 サーバをインストールするときに、デフォルト以外のインストールを選びます。以下の手順は、サーバコンポーネントとゲートウェイコンポーネントの両方をインストールする場合の例です。

### iPlanet Portal Server サーバコンポーネントをインストールする

iPlanet Portal Server サーバコンポーネントのインストール方法については、『iPlanet Portal Server 3.0 インストールガイド』を参照してください。

---

**ヒント** デフォルトでないエントリは太字で示されています。

---

```
./ipsinstall

iPlanet Portal Server (3.0sp3 release)

Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.18655/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes

Inspecting system.
Patch 106040-15 is recommended/required.
Patch 106409-01 is recommended/required.
One or more required/recommended patches are missing from your
system.
These patches may or may not apply to your system. Test this by
attempting to install the patches listed above. Please see the
Release
Notes for more information regarding patches.
Abort installation? [y]/n n

Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [siroe]
What is the subdomain ("." for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]

Inspecting iPS components.

Preparing to install.

Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 1

What directory to install in? [/opt]

Will this be an open portal install? y/[n]

Are the servers using SSL protocol? y/[n]

Is this a multiple server install? y/[n]

The profile server will run on siroe.iplanet.com
On what port will the profile server run? [8080]

The directory server will run on siroe.iplanet.com
What is the port for the directory server? [389]
```



```

What is the root of the profile role tree? [iplanet.com]
What is the user for the profile role tree? [root]

On what port will the gateways run? [443]

Is this a multiple gateway install? y/[n]
On what hostname will the gateway run? [MyGateway] siroe
What is the sub-domain name for siroe ("." for none)? []
What is the domain name for siroe? [iplanet.com]

Should the gateway(s) use a web proxy? y/[n]

What is the administrator port for the web server? [8088]

A passphrase is needed to manage and install certificates on the
gateway
and the server, in the configuration of the web and LDAP servers
and to
allow secure communication between the gateways and servers. The
passphrase
must match between gateway and server installations.
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :

Start after installation completes? [y]/n

Server settings
Installation Directory : /opt
Server List : http://siroe.iplanet.com:8080
Gateway List : siroe.iplanet.com:443
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
LDAP Port : 389
LDAP Admin Port : 8900
Web Server Admin Port : 8088
Start Server : y
Are these settings correct? [y]/n

Installing server.
Installing SUNWwtsdd...
Installing SUNWwtws...
Installing SUNWwtsvd...
Installing SUNWwtDt...
Installing SUNWwtNm...
Installing SUNWwtNf...
Installing SUNWwtRw...
Installing SUNWwtDoc...
Installing SUNWwtSam...
Installing SUNWwtDs...

Starting server.

```

## iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントをインストールする

iPlanet Portal Server ゲートウェイのインストール方法については、『iPlanet Portal Server 3.0 インストールガイド』を参照してください。

---

ヒント デフォルトでないエントリは太字で示されています。

---

```
Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 2

Is the profile server using SSL protocol? y/[n]

Should the local machine be the profile server? [y]/n
The profile server will run on siroe.iplanet.com
What is the port for the profile server? [8080]

What is the root of the role tree? [iplanet.com]
What is the user for the root of the role tree? [root]

On what hostname will the gateway run? [siroe]
What is the sub-domain name for siroe ("." for none)? []
What is the domain name for siroe? [iplanet.com]
On what port will the gateway run? [443]

Does this gateway have multiple network interfaces? y/[n]

Install firewall? y/[n]

A passphrase is needed to manage and install certificates on the gateway
and the server, in the configuration of the web and LDAP servers and to
allow secure communication between the gateways and servers. The passphrase
must match between gateway and server installations.
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :

Start after installation completes? [y]/n

Gateway settings
Installation Directory : /opt
Role Tree Root : iplanet.com
Gateway : siroe.iplanet.com:443
Gateway IP Address : 192.168.01.03
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
Install Firewall : n
Start Gateway : y
Are these settings correct? [y]/n

Self-signed certificate for a SSL connection.
```

```

What is the name of your organization? [MyCompany] sun
What is the name of your organizational unit? [MyDivision] iplanet
What is the name of your city or locality? [MyCity] santa clara
What is the name of your state or province? [MyState] california
What is the two-letter country code? [us]

```

```

Installing gateway.
Installing SUNWwtgwd...

```

```

Starting gateway.

```

## ユーザ Nobody として実行するようにサーバコンポーネントを設定する

注意書きがある場合を除き、以下の手順はすべてルートとして実行してください。

**注** 以下の手順を実行する前に、**Service Pack 3a** サーバ、ゲートウェイ、およびサードパーティ製品をインストールしてください。そうしないと、インストール手順の一部を繰り返して行わなければならないようになります。

**Service Pack 3a** のインストールについては、「インストールに関する説明」を参照してください。

**iPlanet Portal Server** ソフトウェアをインストールした後、以下の手順に従って操作します。

1. ルートとしてログインし、端末ウィンドウで次のように入力します。

```
chmod 666 /dev/random
```

2. 以下のファイルを編集します。この例では、*servername* が *siroe* になっています。実際の設定では、該当するサーバ名を使用してください。

```
/opt/netscape/server4/https-servername/config/magnus.conf
```

ユーザ *root* をユーザ *nobody* に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```

ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com
Port 8080
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User nobody
MtaHost localhost

```

```
DNS off
Security off
Ciphers +rc4,+rc4export,+rc2,+rc2export,+des,+desede3
SSL3Ciphers
+rsa_rc4_128_md5,+rsa_3des_sha,+rsa_des_sha,+rsa_rc4_40_md5,+rsa_rc2
_40_md5,-rsa_null_md5,+rsa_des_56_sha,+rsa_rc4_56_sha
ACLFile
/opt/netscape/server4/httpacl/generated.https-florizel.iplanet.com.a
cl
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
AcceptLanguage off
RqThrottle 1024
StackSize 131072
CGIWaitPid on
CGIWaitPid on
```

3. ルートとしてログインし、端末ウィンドウで次のように入力します。

```
chown -R nobody:nobody /opt/netscape
chown -R nobody:nobody /opt/SUNWips
```

4. 以下のファイルを編集して、localuser を nobody に変更します。変更箇所は太字で示されています。

`/opt/netscape/directory4/slapd-servername/config/slapd.conf`

```
#####
/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.conf
Netscape Directory Server global configuration file
Do not modify this file while ns-slapd is running
#####
instancedir "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe"
errorlog "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/logs/errors"
errorlog-logging-enabled on

plugin syntax on "Telephone Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" tel_init

plugin matchingRule on "Internationalization Plugin"
"/opt/netscape/directory4/lib/liblcoll.so" orderingRule_init
"/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd-collations.conf"

plugin syntax on "Integer Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" int_init
```

```

plugin syntax on "Distinguished Name Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" dn_init

plugin syntax on "Case Ignore String Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" cis_init

plugin syntax on "Case Exact String Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" ces_init

plugin syntax on "Binary Syntax"
"/opt/netscape/directory4/lib/syntax-plugin.so" bin_init
return_exact_case on
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.at.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.oc.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/ns-schema.conf"
readonly off
timelimit 3600
sizelimit 2000
lastmod on
idletimeout 0
ntsynch off
ntsynch-port 5009
ntsynchusessl on
port 389
secure-port 636
maxdescriptors 1024
schemacheck off
enquote_sup_oc on
security off
localuser nobody
userat "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_at.conf"
useroc "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_oc.conf"
accesslog "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/logs/access"

```

5. 以下のファイルを編集して、User を nobody に変更します。変更箇所は太字で示されています。

/opt/netscape/server4/https-servername/config/magnus.conf

```

#ServerRoot /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com
ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com
Port 8080
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User nobody
MtaHost localhost
DNS off
Security on
Ciphers +rc4,+rc4export,+rc2,+rc2export,+des,+desede3
SSL3Ciphers +rsa_rc4_128_md5,+rsa_3des_sha,+rsa_des_sha,+rsa_rc4_40_md5,+rsa_rc2_40_md5,-rsa_null_md5,+rsa_des_56_sha,+rsa_rc4_56_sha
ACLFile /opt/netscape/server4/httpacl/generated.https-siroe.iplanet.com.acl

```

```
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
AcceptLanguage off
RqThrottle 1024
StackSize 131072
CGIWaitPid on
CGIWaitPid on
```

6. LDAP Directory Server サーバプロセスも ルート以外のユーザとして実行される場合は、以下のファイルを編集して、`configuration.nsSuiteSpotUser` を `nobody` に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
/opt/netscape/directory4/admin-serv/config/local.conf
```

```
nsServerID: admin-serv
userPassword: {SHA}/mZi7HWjvvYwFggGkIRTOg79/Cc=
serverRoot: /opt/netscape/directory4
serverProductName: Administration Server
serverHostName: siroe.iplanet.com
uniqueMember: cn=admin-serv-siroe, cn=Netscape Administration Server,
cn=Server
 Group, cn=siroe.iplanet.com, ou=iplanet.com, o=NetscapeRoot
installationTimeStamp: 20000914220659Z
configuration.nsServerPort: 8900
configuration.nsSuiteSpotUser: nobody
configuration.nsServerAddress: 192.168.178.52
configuration.nsAdminEnableEnduser: on
configuration.nsAdminEnableDSGW: on
configuration.nsDirectoryInfoRef: cn=Server Group,
cn=siroe.iplanet.com, ou
=iplanet.com, o=NetscapeRoot
configuration.nsAdminUsers: admin-serv/config/admpw
configuration.nsErrorLog: admin-serv/logs/error
configuration.nsPidLog: admin-serv/logs/pid
configuration.nsAccessLog: admin-serv/logs/access
configuration.nsAdminCacheLifetime: 600
configuration.nsAdminAccessHosts: *.iplanet.com
configuration.nsAdminAccessAddresses: 192.168.178.52
configuration.nsAdminOneACLDIR: adminacl
configuration.nsDefaultAcceptLanguage: en
configuration.nsClassname:
com.netscape.management.admserv.AdminServer@admserv42
.jar@cn=admin-serv-siroe, cn=Netscape Administration Server,
cn=Server Group, cn=siroe.iplanet.com, ou=iplanet.com,
o=NetscapeRoot
```

7. 端末のウィンドウでルートとして、以下の操作を行います。

```
chown -R nobody:nobody /etc/opt/SUNWips
chown -R nobody:nobody /var/opt/SUNWips
```

8. サーバ上の http および netlet プロキシを nobody として実行するように設定するには、`/etc/opt/SUNWips/platform.conf` ファイルを編集します。変更箇所は太字で示されています。
- `ips.httpproxy.user=nobody`
  - `ips.netletproxy.user=nobody`

```
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"@(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationsservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.httpproxy.user=nobody
ips.netletproxy.user=nobody

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=&&
```

9. iPlanet ポータルプロキシサーバを起動します。ルートとして、端末ウィンドウで以下の操作を実行します。

```
/opt/SUNWips/bin/ipshttpd stop
/opt/SUNWips/bin/ipsnetletd stop
/opt/SUNWips/bin/ipshttpd start
/opt/SUNWips/bin/ipsnetletd start
```

## ユーザ Nobody として実行するようにゲートウェイコンポーネントを設定する

ゲートウェイがサーバと同じシステムにインストールされていない場合に、ゲートウェイにユーザ nobody を設定するための手順を以下に示します。

---

**注** 以下の手順を実行する前に、**Service Pack 3a** サーバ、ゲートウェイ、およびサードパーティ製品をインストールしてください。そうしないと、インストール手順の一部を繰り返して行わなければならないようになります。

---

---

**注** ゲートウェイコンポーネントを起動または再起動するときには、ルートとして実行してください。

---

Service Pack 3a のインストールについては、「インストールに関する説明」を参照してください。

iPlanet Portal Server ソフトウェアをインストールした後、以下の手順に従って操作します。

1. ルートとして、端末ウィンドウで次のように入力します。

```
chmod 666 /dev/random
chown -R nobody:nobody /etc/opt/SUNWips
chown -R nobody:nobody /var/opt/SUNWips
chown -R nobody:nobody /opt/SUNWips
```

2. /etc/opt/SUNWips/platform.conf ファイルを編集します。変更箇所は太字で示されています。
  - o ips.gateway.user=nobody

```
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"@(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#
```



```

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationsservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.gateway.user=nobody

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=&&

```

ゲートウェイがユーザ nobody として設定されている場合は、ゲートウェイが再起動するときの無効なセッション条件に対処するため、以下の操作を実行します。

```
chmod 4555 /etc/init.d/ipsgateway
```

## 特別な場合の設定

iPlanet Portal Server のサーバとゲートウェイを同じシステムにインストールした場合は、サーバとゲートウェイの両方をユーザ nobody として実行するように設定する必要があります。

## ユーザ Nobody を Service Pack 3a にアップグレードする

ユーザ nobody を Service Pack 2 から Service Pack 3a にアップグレードするには、すべてのユーザ名をいったんルートに戻しておく必要があります。また、Service Pack 3a をインストールした後は、サーバとゲートウェイを nobody として実行するように再設定しなければなりません。この手順を行わないと、データが失われます。

以下、Service Pack 3a にアップグレードするために必要な手順について簡単に説明します。

1. iPlanet Portal Server 3.0 のサーバとゲートウェイに対するサービスをすべて停止します。  
詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。
2. ゲートウェイがサーバとは別のコンピュータで実行されている場合は、以下の操作を行います。
  - a. ゲートウェイの /etc/opt/SUNWips/platform.conf ファイルを編集します。  
太字で示されているように、テキスト「ips.gateway.user=nobody」の部分を削除します。

```
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"@(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.gateway.user=nobody

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=&&
```

- b. 端末ウィンドウで、以下の操作を行います。

```
chown -R root:root /etc/opt/SUNWips
chown -R root:root /var/opt/SUNWips
chown -R root:root /opt/SUNWips
```

3. 以下のファイルを編集して、`configuration.nsSuiteSpotUser` を `root` に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
/opt/netscape/directory4/admin-serv/config/local.conf
```

```
nsServerID: admin-serv
userPassword: {SHA}/mZi7HWjvvYwFqgGkIRT0g79/Cc=
serverRoot: /opt/netscape/directory4
serverProductName: Administration Server
serverHostName: siroe.iplanet.com
uniqueMember: cn=admin-serv-siroe, cn=Netscape Administration Server,
cn=Server
 Group, cn=siroe.iplanet.com, ou=iplanet.com, o=NetscapeRoot
installationTimeStamp: 20000914220659Z
configuration.nsServerPort: 8900
configuration.nsSuiteSpotUser: root
configuration.nsServerAddress: 192.168.178.52
configuration.nsAdminEnableEnduser: on
configuration.nsAdminEnabledDSGW: on
```

4. 端末ウィンドウで、以下の操作を行います。

```
chown -R root:root /etc/opt/SUNWips
chown -R root:root /var/opt/SUNWips
chown -R root:root /opt/netscape
chown -R root:root /opt/SUNWips
```

5. 以下のファイルを編集します。

```
/opt/netscape/server4/https-servername/config/magnus.conf
```

ユーザ `nobody` をユーザ `root` の名前に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com
Port 8080
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User root
MtaHost localhost
```

```
DNS off
Security off
```

6. 以下のファイルを編集して、localuser を root に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
/opt/netscape/directory4/slapd-servername/config/slapd.conf
```

```
return_exact_case on
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.at.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.oc.conf"
include "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/ns-schema.conf"
readonly off
timelimit 3600
sizelimit 2000
lastmod on
idletimeout 0
ntsynch off
ntsynch-port 5009
ntsynchusessl on
port 389
secure-port 636
maxdescriptors 1024
schemacheck off
enquote_sup_oc on
security off
localuser root
userat "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_at.conf"
useroc "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.user_oc.conf"
accesslog "/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/logs/access"
```

7. 以下のファイルを編集して、ユーザ nobody を root に変更します。変更箇所は太字で示されています。

```
/opt/netscape/server4/https-servername/config/magnus.conf
```

```
#ServerRoot /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com
ServerID https-siroe.iplanet.com
ServerName siroe.iplanet.com
Port 8080
LoadObjects obj.conf
RootObject default
ErrorLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/errors
PidLog /opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/logs/pid
User root
MtaHost localhost
DNS off
Security on
```

8. **Service Pack 3a** アップグレードをインストールします。iPlanet Portal Server 3.0 については、「Service Pack 3a にアップグレードする」を参照してください。
9. サーバとゲートウェイの両方を nobody として実行するように再設定します。「サーバコンポーネントにルートでないユーザを設定する」および「ゲートウェイコンポーネントにルートでないユーザを設定する」を参照してください。
10. すべてのバックアップデータを復元し、すべてのサーバインスタンスおよび特別なコンフィギュレーションを作成します。

## 1 つのドメインに複数のロケールをインストールし、有効にする

この機能によっては、1 つのインスタンスに対して複数のロケールをサポートすることができます。また、管理者は、ドメイン、ロール、ユーザに対してロケールを指定することができます。たとえば、1 つの iPS インスタンスに 3 つのロケールパッケージがインストールされている場合、管理者はロケールごとに最高 3 つのドメインを設定することができます。domain1 に登録するユーザは locale1 を使用し、domain2 に登録するユーザは locale2 を使用するというようになります。

新しいロケールをインストールするたびに、ipsadmin コマンドを実行して iwtPlatform 属性を更新する必要があります。iwtPlatform-availableLocales 属性は、そのユーザが利用できるすべてのロケールをリストします。次に例を示します。

```
Attribute for available locales:
<iwt:Att name="iwtPlatform-availableLocales"
 type="stringlist"
 desc="Available Locale"
 idx="X-x7"
 userConfigurable="True">
 <Val>en_US</Val>
 <Rperm>ADMIN</Rperm><Rperm>OWNER</Rperm>
 <Wperm>ADMIN</Wperm>
</iwt:Att>
```

この属性の値は en\_US または ja\_JA のように見えますが、ユーザに対しては、たとえば英語 (米国) のように、利用可能なロケールの一般的な名称が表示されます。

ドメインのロケールを指定するには、以下の手順で操作します。

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. 管理するドメインを選択します。
3. [プラットフォーム] と [詳細オプションを表示] を選択します。
4. このドメインで使用可能にする言語を指定します。

## オープンポータルで認証用の SSL をサポートする

ゲートウェイなしのポータル設定では、この機能によって、サイトが SSL (HTTP) なしで稼動するにもかかわらず、ユーザ登録のために SSL (HTTPS) サーバをサポートすることができます。つまり、**http** を使ってすべてのコンテンツをデスクトップに返すように設定されているポータルも、**https** を使ったユーザ登録やログインをサポートすることが可能です。

iPlanet Portal Server は、1つのインスタンスが **http** を、もう1つのインスタンスが **https** を実行するような2つの iPlanet Portal Server インスタンスを実行することにより、この設定をサポートします。

2つの iPlanet Portal Server インスタンスを設定する方法については、「iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する」を参照してください。

これらのサーバインスタンスを設定したら、サーバの2つ目のインスタンスを SSL に変更します。詳細については、「iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する」を参照してください。2つ目のインスタンスを設定したら、最初の認証の後に、SSL を使用しないサーバ (インスタンス) にリダイレクトするようにユーザプロフィールを更新します。以下の手順で操作します。

SSL を使用しないサーバ (インスタンス) 上の認証されないセッションがすべて SSL サーバ (インスタンス) にリダイレクトされるようにするためには、`/etc/opt/SUNWips/` ディレクトリにある `platform.conf` ファイルを編集します。

1. ルートになり、ディレクトリを `/etc/opt/SUNWips` に変更します。
2. 該当する `platform.conf` ファイルで、`ips.nosession.url` の値を `/login` から次のように変更します。

```
https://servername:port/login (例、ポート 8081)
```

ここで、`servername` は SSL サーバインスタンスのホスト名で、`port` はサーバインスタンスが実行されているポートを指します。

複数の iPlanet Portal Server サーバインスタンスを使用している場合は、各インスタンスに関連付けられている `platform.conf` ファイルを編集します。

すべての登録とログインは **https** サーバへリダイレクトされ、すべてのデスクトップリダイレクトは **http** サーバに送られます。

```
Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=https
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=8443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
```

```

ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationservi
ce
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947

ips.cookie.name=iPlanetPortalServer
ips.locale=en_US
ips.debug=error
ips.version=3.0
ips.basedir=/opt
ips.logdelimiter=%%
ips.profile.port=8080
ips.nosession.url=https://siroe:8081/login
ips.pcookie.name=iPSPCookie
ips.gateway.retries=6

```

3. 以下のファイルを編集します。変更箇所は太字で示されています。

```
/etc/opt/SUNWips/desktop/customized_template/iwtLoginProvider/display.html
```

```

<FORM ACTION="https://siroe.iplanet.com:8081/login/Membership"
onSubmit="return checkBlank()" MET
HOD=GET NAME="userid_form" ENCTYPE="application/x-www-form-urlencoded">

```

および

```

<A
HREF="https://siroe.iplanet.com:8081/login/Membership?arg
=newsession&page=1&Submit=New%20User">登録

```

4. 管理コンソールで、オープンポータルで SSL を使用しないポートを使用するようにユーザプロファイルを設定します。以下の手順を実行します。
- 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
  - ドメインを選択し、ユーザ(プロファイル内) を選びます。
  - [詳細オプションを表示] を選択します。
  - ユーザのデフォルト URL を /DesktopServlet から次のように変更します。  
http://servername:port/DesktopServlet に変更します。
  - ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、変更を保存します。
  - [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## 匿名認証

モジュール `auth module` は、匿名認証がセキュアポータルで使用されていて、iPlanet Portal Server サーバがゲートウェイなしでインストールされる場合に、「オープンポータル」のインストールをサポートする目的で作られています。

典型的な匿名インストールは、この匿名認証モジュールが唯一有効化されている認証タイプです。`http://server:port/login/mydomain` という URL が指定されると、ユーザのブラウザには「匿名ユーザ」のデスクトップが表示されます。URL を指定する以外、ユーザからの入力はありません。

匿名ユーザのデスクトップにログインできるユーザ ID のリストを指定できる機能もあります。このリストは、管理コンソールを通じて入力や編集ができます。

### 匿名ユーザ名を管理する

ユーザ ID が「匿名ユーザのリスト」に入っていれば、匿名ユーザのデスクトップへのアクセスが許可され、指定されたユーザ ID にそのセッションが割り当てられます。ユーザ ID が「匿名ユーザー名リスト」になくても匿名デスクトップは表示されますが、その場合、セッションは [デフォルトの匿名ユーザ名] で指定されたユーザ ID に割り当てられます。

### デフォルトの匿名ユーザ名を変更する

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。
3. [Portal Server のドメイン] ページで、次の操作を行います。
  - ドメインを選択します。
4. [ドメイン、ロール、ユーザプロファイル] ページで、
  - a. [プロファイル] リンクを展開します。
  - b. [認証] リンクを展開します。
5. [認証] メニューで、
  - a. [匿名] を選択します。
6. ページの下の方にある [詳細オプションを表示] を選択します。
  - a. [匿名ユーザ名のリスト] のデフォルト値「anonymous」を目的のユーザ ID に変更します。
  - b. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
7. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

### デフォルトの匿名ユーザ名を設定する

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。



3. [ドメイン、ロール、ユーザプロフィール] ページで、
  - a. [プロフィール] リンクを展開します。
  - b. [認証] リンクを展開します。
4. [認証] メニューで、
  - a. [匿名] を選択します。
5. ページの下の方にある [詳細オプションを表示] を選択します。
  - a. [デフォルトの匿名ユーザ名]のデフォルト値「anonymous」を目的のユーザ ID に変更します。
  - b. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロフィールサーバに変更を保存します。
6. [プロフィールが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## goto パラメータを使ってユーザをリダイレクトする

goto パラメータを使用すると、ログイン時またはログアウト時にユーザのプロファイルに保存されるデフォルト以外の URL にユーザをリダイレクトするよう、auth に指令が出されます。

ユーザが認証されると、アプリケーションは、ユーザのプロファイルに格納されているデフォルトデスクトップ URL にユーザを送る代わりに、リダイレクト先の URL を指定するようユーザにプロンプトを出せません。

goto パラメータを使うと、呼び出しているアプリケーションが、ユーザのリダイレクト先を指定できるようになります。たとえば、ユーザが認証に成功した後にアプリケーションがユーザを my.sun.com にリダイレクトする場合、そのログインリンクは次のようになります。

```
http://sun.domain:port/login?goto=http://my.sun.com
```

API 開発者であれば、ログアウト URL に goto パラメータを含めることにより、ログアウトしたときにユーザがリダイレクトされる場所を指定することもできます。ログアウトした後にアプリケーションがユーザを nasdaq.com にリダイレクトする場合、そのログアウトリンクは次のようになります。

```
http://sun.domain:port/logout?goto=http://sun.com
```

goto パラメータを実際に見るには、ブラウザを開き、アドレスフィールドに以下の内容を入力してください。

```
http://<server.domain>:<port>/login?goto=<URL>
```

goto パラメータは、この auth セッションにのみ有効で、ユーザのプロファイルに保存されているデフォルトの URL を変更することはありません。

## 永続 cookie を設定する

今回の機能拡張により、永続的な cookie を設定できるようになりました。つまり、ユーザがブラウザを閉じたときや、ユーザのセッションが期限切れになったときでも、そのユーザは再認証を必要としません。

永続 cookie モードは、ユーザによって設定されます。永続 cookie モードを設定するには、「ログインチャンネル」を使って [ユーザ名とパスワードを保存] チェックボックスをオンにします。永続 cookie を有効にすると、次の効果があります。

- ユーザは、ブラウザを再び起動したときにログインしなおす必要がありません。
- ユーザが my\_site.com という URL を再び訪れると、ログインプロセスをスキップして、そのユーザの個人デスクトップがすぐに表示されます。

ただし、ユーザが明示的にログアウトした場合は、次回同じサイトを訪れたときにログインが必要になります。

ドメインに永続 cookie を設定するには

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. ドメインを選択し、[プロファイル] および [認証] を選択します。
3. [プロファイル: 認証] ページで [詳細オプションを表示] を選びます。
4. [永続 Cookie の最大存続期間] テキストボックスに、cookie の存続期間を指定します。

cookie の有効性が切れる時間を秒数で指定します。

5. [永続 cookie モード] チェックボックスをオンにします。

このドメイン内のユーザの永続 cookie モードが有効になります。

永続 cookie モードを確認するには、ブラウザを開き、アドレスフィールドに次の内容を入力します。

```
http://server.domain:port/login/domain?iPSCookie=yes
```

パラメータ iPSCookie の値が yes の場合は、永続 cookie モードが有効になっています。

## 認証を拡張する

有効なセッションがある場合、認証は必要ありません。つまり、ユーザが匿名ユーザから登録ユーザに切り替える場合、匿名ユーザには既に有効なセッションがあるため、メンバーシップモジュールなどの別の認証モジュールを使って認証することはできませんでした。Service Pack 3a では、この点が改善されました。

登録ユーザが匿名デスクトップから認証を行うと、アプリケーションはそのユーザについての情報を集め、ユーザのプロファイルに基づいてユーザのデスクトップを表示します。新規ユーザが匿名デスクトップから認証を行なった場合は、そのユーザのデフォルト デスクトップの URL で auth module を呼び出す前に、ユーザの現在のセッション (匿名デスクトップからのもの) が無効になります。これによって、有効な iPlanet Portal Server セッションを行なっているユーザは、ログアウト URL を送信しなくても、直接ログインモジュールにアクセスすることができます。たとえば、ログインチャンネルは以下の URL を送信して、匿名ユーザがメンバーシップモジュールで登録できるようにします。

```
http://server.domain:port/login/Membership?domain=/<mydomain>&arg=newsession
```

ここで、arg=newsession パラメータは、URL で認証モジュールを呼び出す前に、現在のセッションを無効にするよう認証モジュールに指示するためのものです。

## デフォルトの URL を設定する

この機能を使うと、ユーザプロファイル以外に、プラグイン可能なインターフェースにユーザのデフォルト URL を設定できます。このメソッドによって、ユーザプロファイルのデフォルト URL が変更されることはありません。ユーザの認証が成功すると、そのユーザはこの URL にリダイレクトされます。pluggable authentication API の setDefaultURL という新しいメソッドでは、認証モジュールを使って、認証が成功したときのユーザのデフォルトリダイレクト URL を設定することができます。このメソッドを使ってユーザプロファイルにあるユーザの属性が変更されることはありません。ただし、goto パラメータが上書きされます。「goto パラメータを使ってユーザをリダイレクトする」を参照してください。

```
public void setDefaultURL(java.lang.String url)
 throws LoginException
```

ここで、URL パラメータはユーザのデフォルト URL に置き換えられます。たとえば、次のように入力します。

```
public void setDefaultURL("http://www.sun.com")
```

http://www.sun.com は、ユーザのデフォルト URL として設定されています。

## ユーザプロパティを取得、設定する

この機能を使うと、認証モジュールがユーザセッションからユーザプロパティを取り込み、設定することができます。pluggable auth API の setUserSessionProperty および getUserSessionProperty という 2 つの新しいメソッドでは、認証モジュールを使って、ユーザセッションのプロパティを取り込んだり設定することができます。認証モジュールは、セッションプロパティを設定することにより、チャンネル、アプリケーション、またはその他の認証モジュールと通信できるようになります。たとえば、カスタムの認証モジュールがセッションにユーザパスワードを追加すると、アプリケーションは後でシングルサインオンに対してこのプロパティを取り出すことができます。

```
public void setUserSessionProperty(java.lang.String name,
 java.lang.String value)
 throws LoginException
```

ここで、パラメータ名はプロパティ名で、パラメータ値はプロパティ値です。

```
public java.lang.String getUserSessionProperty(java.lang.String name)
 throws LoginException
```

ここで、パラメータ名はプロパティ名で、これによりプロパティ値が返されます。

## 電子メールアドレスをユーザプロフィール ID として使用する

証明書の電子メールアドレスをユーザのプロファイル ID として使用することができます。

電子メールアドレスをプロファイル ID として使用するには、以下の手順に従って操作します。

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. ドメインを選択し、[プロファイル] および [認証] を選択します。
3. リストから [Cert] を選択します。
4. [プロファイルのユーザ情報にアクセスするために使用する証明書のフィールドを指定してください] から [電子メールアドレス] を選択します。

ここで、管理者は、ユーザのプロファイル ID にアクセスするために使用するフィールドを指定できます。[電子メールアドレス] が選択されると、cert auth module は、emailaddr 属性タグに対し、証明書のユーザ件名 dn フィールドにある emailAddr フィールドを検索し、その値を使ってユーザのプロファイル ID にアクセスします。

emailAddr タグは、iwtAuthCert.properties ファイルに保存されており、サイトや証明書発行元に基いて別の値に置き換えることができます。

5. [送信] ボタンをクリックします。

## ログインチャネル

iPlanet Portal Server 3.0 には、メンバーシップ認証モジュールがあり、ポータルインストールを開く場合に役立ちます。「匿名」ユーザと同様に、未登録のユーザは、ポータルの静的コンテンツを表示でき、登録ユーザはログインしてパーソナライズされたコンテンツを表示できます。デスクトップにログインチャネルを追加すると、登録ユーザはポータルに容易にアクセスできるようになります。一方、未登録のユーザは、引き続き静的コンテンツを表示することができます。また、ログインチャネルがあると、ポータルに簡単に登録し、パーソナライズされたページを受け取ることができます。

さらに、ログインチャネルには、ユーザが永続 cookie を有効にできるオプションがあります。永続 cookie のサポートは、ユーザのログイン情報を cookie に入れておく認証システムの機能の 1 つで、これによってユーザは後続のセッションに自動的にログインすることができます。このチャネルにはチェックボックスがあり、ドメインでこのオプションの使用が許されている場合は、ログインのための永続 cookie のサポートを有効にすることができます。

ログインチャネルにはユーザが編集できる設定がないため、ログインチャネル用の編集ページはありません。

## JavaServer Pages プロバイダ

JavaServer Pages™ Provider (JSPPProvider) の機能を使うと、プロバイダは、JavaServer Pages (JSP) を使ってデスクトップチャンネルに書き込むことができます。

JSP ベースのチャンネルのサポートは、JSPPProvider と呼ばれるクラスを通じて提供されます。JSP Provider ベースのチャンネルには、他のチャンネルに備わっている標準の属性以外に、以下のような設定済みの属性があります。

- `contentPage - getContent` メソッドを使ってチャンネルコンテンツを生成するのに使用される JSP。
- `editPage - getEdit` メソッドを使って編集ページコンテンツを生成するのに使用される JSP。
- `processPage - processEdit` メソッドを使って編集ページの結果を処理するのに使用される JSP。
- `contentPage JSP` は、チャンネルの HTML コンテンツを生成します。生成された HTML には、チャンネル内での表示に適しているタグだけが使用されている必要があります。
- `editPage JSP` は、ユーザがチャンネルの [編集] ボタンをクリックすると表示される編集フォームの内部コンテンツを生成します。このページはオプションで、指定していない場合は、プロバイダの `isEditable` メソッドが、「偽 (false)」を返します。`contentPage JSP` と同様に、この JSP は iPlanet Portal Server プラットフォームサービスにアクセスできます。
- `contentPage` および `editPage JSP` は、さまざまな組み合わせで使用できます。たとえば、プロバイダクラスの Java コードで編集ページを生成できる一方、JSP を使ってコンテンツを生成することもできます。

JSP ベースのプロバイダに対する編集フォームの処理を扱うためのオプションがいくつかあります。一般に、編集フォームの処理は、フォームエントリの有効性をチェックする Java コードで構成され、チャンネルのユーザプリファレンスを更新します。その結果は、デスクトップの表示 (成功した場合) または、ユーザへのエラー情報を含んだ編集ページ (失敗した場合) です。編集フォームを扱うために、JSP ベースのプロバイダには以下のオプションがあります。

- `processPage JSP` を定義する。これが定義されていると、POST リクエストにより、この JSP が起動し、スクリプト、ビーン、またはその他の Java クラスを使って結果が処理されます。JSP は応答にリダイレクトを作成しなければなりません。このリダイレクトは、プロバイダの `processEdit` メソッドの戻り値となります。
- JSPPProvider クラスを拡張し、`processEdit` メソッドを実装する。`processPage` 属性は空白のままです。

JSPPProvider は、プロファイルサービスを使うことにより、ProfileProviderAdapter クラスを拡張し、チャンネルのその他の属性をサポートします。

JSP 属性の 1 つに JSP を指定すると、そのパス名は、ユーザのデスクトップテンプレートディレクトリを基準にして解釈されます。そのとき、ロケール設定を含む他のデスクトップテンプレートの場合と同じアルゴリズムが使われます。

以下の例において、

- ユーザのロケールは de\_DE です。
- デスクトップタイプは SunBlue です。
- JSP 属性は myChan/chan.jsp に設定されています。

システムは、以下の JSP ファイルを探します。

```
/etc/opt/SUNWips/desktop/SunBlue_de_DE/myChan/chan.jsp
/etc/opt/SUNWips/desktop/SunBlue_de_DE/chan.jsp
/etc/opt/SUNWips/desktop/SunBlue/myChan/chan.jsp
/etc/opt/SUNWips/desktop/SunBlue/chan.jsp
/etc/opt/SUNWips/desktop/default_de_DE/myChan/chan.jsp
/etc/opt/SUNWips/desktop/default_de_DE/chan.jsp
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/myChan/chan.jsp
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/chan.jsp
```

JSP ベースチャンネルの実装に関する詳細は、Service Pack 3a に付属の javadocs を参照してください。

## タブ付きデスクトップ

Service Pack 3a は、ユーザデスクトップにタブ機能を提供します。デスクトップはタブ機能を使って、コンテンツを整理することができます。タブはデフォルトで有効になっていませんが、ドメインが与えられると有効になります。タブプロバイダは管理コンソールからスーパーアドミンが有効にします。その後、選択したドメイン内でタブを設定または削除することができます。各タブ付きデスクトップページは、それぞれ独自の方法で個別に設定できます。以下に、その操作手順を示します。

### 管理コンソールでタブ付きデスクトップを設定する

以下の手順では、特定のドメインで「タブ付きデスクトップ」が設定されていないものと仮定しています。「タブ付きデスクトップ」を有効にするには、iPlanet Portal Server の管理コンソールで、以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。
3. 右側のフレームでドメインを選択します。
4. 右側のフレームで [アプリケーション] リンクを展開します。
5. [デスクトップ] リンクを選択します。
6. [プロファイル:デスクトップ] ページの下の方にある [詳細オプションを表示] を選択します。

7. [プロファイル:デスクトップ] ページで、[チャンネル] フィールドが表示されるまで下方方向にスクロールします。
8. [使用可能なチャンネル] ウィンドウに *iwtTabProvider* が表示されている場合は、以下の操作を行います。
  - a. [使用可能なチャンネル] ウィンドウで、*iwtTabProvider* をハイライトします。
  - b. 右向きの矢印をクリックすると、*iwtTabProvider* が [選択したチャンネル] フィールドに表示されます。
9. [使用可能なチャンネル] ウィンドウに *iwtTabProvider* が表示されていない場合は、以下の操作を行います。
  - a. [新しいチャンネル名] ウィンドウに、新しいチャンネル名「*iwtTabProvider*」を入力します。
  - b. [プロバイダクラス名] ウィンドウに、次の新しいプロバイダクラスを入力します。  

```
com.ipplanet.portalserver.providers.tab.TabProvider
```
  - c. [追加] をクリックします。
  - d. これで、[使用可能なチャンネル] ウィンドウに *iwtTabProvider* が表示されます。
  - e. [使用可能なチャンネル] ウィンドウで、*iwtTabProvider* をハイライトします。
  - f. 矢印をクリックすると、*iwtTabProvider* が [選択したチャンネル] フィールドに表示されます。
10. ページを下方方向にスクロールし、「アクティブチャンネルリストモジュール」に「タブチャンネルリスト」エントリが含まれていることを確認します。ここでは、「タブチャンネルリストモジュール」が選択されていなければなりません。以下の例を参照してください。  

```
com.ipplanet.portalserver.desktop.util.channellist.TabChannelList
```
11. [開始タブ] フィールドに、タブ名を入力します。最初のタブのデフォルト名は「**My Front Page**」です。  
このタブはドメイン内のすべてのデスクトップに常に表示されるもので、ユーザが設定を変更することはできません。
12. [使用可能なタブ] フィールドで、タブに含めるデフォルトのタブ条件を編集します。以下に例を示します。名前、プロバイダ、および説明を変更してカスタムタブを作成してください。  

```
name=new tab|channels=iwtTabProvider;iwtUserInfoProvider;
iwtIPInfoProvider;iwtSampleRss|desc=new tab description|
removable=true|renamable=true
```
13. [タブパターン] フィールドに、使用するタブコンテンツテンプレートの名前とプロバイダを文字列で入力します。詳細については、手順 12 を参照してください。
14. [最初からタブを作成] フィールドに、適当なヘッダータイトルと、[タブプロバイダの編集] ページに表示するすべてのコンテンツプロバイダを入力します。例として、以下の文字列を参照してください。  

```
name=Make From Scratch ...|channels=iwtTabProvider;iwtUserInfoProvider;
iwtBookmarkProvider;iwtIPInfoProvider|desc=Design a tab from the ground up|
removable=true|renamable=true
```
15. [タブの最大数] フィールドに数を入力します。  
これが、デスクトップに含まれるタブの最大数になります。デフォルト値は **4** です。
16. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、変更を保存します。

17. [プロフィールが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## デスクトップにタブ付きプロバイダを設定する

ユーザは誰でもデスクトップにタブを設定できます。タブのチャンネル編集ページを使うと、デスクトップの作成、名前の変更、タブの削除といった操作を行うことができます。さらに、最初のデスクトップページに表示するタブを選択することも可能です。

1. ユーザとして **iPlanet Portal Server** デスクトップにログインします。
2. デスクトップで、タブバナーの右側にある [編集] ボタンをクリックします。

[タブプロバイダの編集] ページでは、トピックごとに、または新しいタブのチャンネルを手作業で選択することにより、あらかじめ設定されているタブコンテンツテンプレートを使用することができます。

## カスタム タブを作成する

1. [タブプロバイダの編集] ページで、以下の操作を行います。
  - a. [タブ名] フィールドに、作成するタブの名前を入力します。
  - b. [タブトピック] フィールドで、*最初から作成するためのラジオボタン*を選択します。
  - c. ページの下の方にある [完了] をクリックします。

2. [チャンネル] ページで、次の操作を行います。
  - a. 希望の「チャンネル」を選択して、デスクトップページをカスタマイズします。

管理コンソールで「デスクトップページ」やレイアウトを設定する場合、小さいチャンネルおよび大きいチャンネルは管理者によって決定されます。

- b. ページの下の方にある [完了] をクリックします。
3. デスクトップ画面が [ユーザデスクトップページ] に戻ります。

## デフォルトのコンテンツタブを作成する

1. [タブプロバイダの編集] ページで、以下の操作を行います。
  - a. [タブ名] フィールドに、作成するタブの名前を入力します。
  - b. [タブトピック] フィールドで、あらかじめ作成された「タブコンテンツプロバイダ」のラジオボタンを選択します。
  - c. ページの下の方にある [完了] をクリックします。
2. デスクトップ画面が [ユーザデスクトップページ] に戻ります。

## メンバーシップログインパラメータを変更する

メンバーシップログインパスワードを変更する場合、ユーザは [ユーザ情報チャンネル] メニューバーから [編集] アイコンを選択する必要があります。



[メンバーシップパスワード] 領域には、以下のフィールドがあります。

- 元のパスワード
- 新しいパスワード
- 新しいパスワードの確認

ユーザは元のパスワードを入力します。新しいパスワードと確認用のパスワードが一致なかった場合、パスワードは変更されません。パスワードの確認には、メンバーシップ認証モジュールと同じ規則が適用されます。

ユーザは、メンバーシップパスワードを変更するための「メンバーシップ」により、認証されていなければなりません。

## サーバを再起動せずにテンプレートを再び読み込む

デスクトップからテンプレートにアクセスしてコンテンツを生成すると、デスクトップはディスクからそれらを読み込んで、キャッシュに入れます。次のテンプレートへのリクエストは、キャッシュによって処理されます。

デスクトップは、定期的に、ディスクファイルが更新されているかどうかを確認します。ディスクファイルがキャッシュよりも新しい場合は、更新されたディスクファイルに基づいて、テンプレートが再度キャッシュに入れられます。

ディスクファイルが更新されているかどうかを確認する時間間隔は、「テンプレートスキャン間隔」と呼ばれます。この間隔は、iPlanet Portal Server の管理コンソールで変更できます。テンプレートスキャン間隔を変更すると、デスクトップはまずその場でディスクファイルの変更を確認し、その後、新しい時間間隔をおいてから次の確認を行います。

テンプレートスキャン間隔を変更するには、iPlanet Portal Server の管理コンソールで、以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [プラットフォーム設定の管理] リンクを選択します。
3. 右側のフレームで [アプリケーション] リンクを展開します。
4. [デスクトップ] リンクを選択します。
5. [コンポーネントプロファイル:デスクトップ] ページで、[テンプレートスキャンの間隔] フィールドが表示されるまで下方向にスクロールします。

このフィールドは、編集することができます。テンプレートスキャン間隔のデフォルト値は 900 秒 (15 分) です。

6. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックし、変更を保存します。
7. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## 匿名デスクトップを有効にする

以下の手順は、Service Pack 3a に付属している匿名認証モジュールとログインチャンネルを使って匿名デスクトップを有効にするための、推奨される方法です。

### 匿名認証を設定する

iPlanet Portal Server の管理コンソールで匿名デスクトップを有効にするには、以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。
3. [Portal Server のドメイン] ページで、次の操作を行います。
  - ドメインを選択します。
4. [ドメイン、ロール、ユーザプロファイル] ページで、
  - a. [プロファイル] リンクを展開します。
  - b. [認証] リンクを選択します。
5. [認証] メニューで、
  - a. [匿名] を選択し、その他すべての認証モジュールを選択解除します。

これで、ポータルサーバが「匿名認証モジュール」にデフォルト設定され、デフォルトで「匿名デスクトップ」を表示するようになりました。
  - b. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
6. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。
7. ページの下の方にある [詳細オプションを表示] を選択します。
  - a. [非インタラクティブモジュール] で、「メンバーシップ」を追加します。

これで、ユーザは、提供されたメンバーシップログインページを使う代わりに、ログインチャンネルを使ってメンバーシップ認証を行うことができるようになります。
  - b. [永続 Cookie モードを有効にする] を選択します。

このオプションは、「永続的な Cookie」を必要とする場合にのみ選択します。
  - c. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
8. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## 匿名デスクトップのテンプレートをカスタマイズする

デスクトップからユーザログアウトをカスタマイズして、匿名ユーザデスクトップにリダイレクトするようになるには、以下の手順に従って操作します。

1. /etc/opt/SUNWips/desktop/default/iwtDesktop/menubar.html を編集します。以下のコード例では、変更箇所が太字で示されています。

ログアウトリンクの **HREF** を次のように変更します。

```
/logout?goto=/login/Anonymous?domain=mydomain
```

この変更により、デスクトップからのログアウト時には、いつでも匿名デスクトップにリダイレクトされるようになります。

```
<!--
Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"@(#)menubar.html
-->

<TABLE BORDER="0" CELLPADDING="3" CELLSPACING="0" WIDTH="100%">
<TR BGCOLOR="#000000">
<TD VALIGN="MIDDLE" NOWRAP>
<FONT
COLOR="#FFFFFF"
FACE="[tag:iwtDesktop-fontFace1]">
 [tag:productName]

</TD>
<TD ALIGN="RIGHT" VALIGN="MIDDLE" NOWRAP>
<P ALIGN="RIGHT">
<FONT COLOR="#FFCC00" FACE="[tag:iwtDesktop-fontFace1]"
SIZE="+0">

Home |

<FONT COLOR="#FFFFFF"
CLASS="nonuw">Options |

<FONT COLOR="#FFFFFF"
CLASS="nonuw">Content |

Layout |
[tag:help_link] |

Log Out

</P>
```

```
</TD>
</TR>
</table>
```

匿名デスクトップのヘルプページをカスタマイズするには、以下の手順に従って操作します。

1. スーパー アドミンとしてログインします。
2. [匿名ユーザ デスクトップ] を選択します。
3. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。
  - a. ドメインを選択します。
  - b. [デフォルトのロール] を選択します。
  - c. [ユーザ] を選択します。
  - d. [匿名] を選択します。
  - e. [アプリケーション] を展開します。
  - f. [デスクトップ] を選択します。
  - g. 下方向にスクロールし、[詳細オプションを表示] を選択します。
  - h. [フロントページのヘルプ] の値を変更します。

フロントページのヘルプの値は、ディレクトリに関連しているものと想定されています。

```
/opt/SUNWips/public_html/docs/en_US/online_help
```

- i. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
4. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## 他のドメインの匿名デスクトップを有効にする

他のドメインに対して匿名ユーザを作成するには、以下の手順に従って操作します。

1. `/var/opt/SUNWips/iwtAnonymousUser.xml-orig` ファイルを一時的な場所 (`/tmp`) にコピーします。

```
cp /var/opt/SUNWips/iwtAnonymousUser.xml-orig /tmp/iwtAnonymousUser.xml-orig
```

2. `/tmp/iwtAnonymousUser.xml-orig` ファイルを編集します。以下の例では、変更箇所が太字で示されています。

`INST_DEFAULT_DOMAIN` という文字列を他のドメイン名に変更します。

```
<iwt:Att name="iwtUser-role"
 userConfigurable="true"
 >
 <Val>/INST_DEFAULT_DOMAIN/defaultRole</Val>
</iwt:Att>
```

3. ./ipsadmin コマンドを使って、新しい匿名ユーザのプロファイルをプロファイルサービスに読み込みます。端末のウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
cd /opt/SUNWips/bin
ipsadmin create user/other_domain/anonymous/tmp/iwtAnonymousUser.xml-orig
```

4. ブラウザの場所から新しいドメインの認証メニューにアクセスするには、以下のように入力します。

```
http://your_server/login?domain=/other_domain
```

## 匿名デスクトップを無効にする

匿名デスクトップを無効にするには、iPlanet Portal Server の管理コンソールで、以下の手順に従って操作します。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。
3. [Portal Server のドメイン] ページで、次の操作を行います。
  - a. ドメインを選択します。
4. [ドメイン、ロール、ユーザプロファイル] ページで、
  - a. [プロファイル] リンクを展開します。
  - b. [認証] リンクを選択します。
5. [認証] メニューで、
  - a. [匿名認証モジュール] を選択解除します。

モジュールを選択解除した後に、フィールド内で「認証モジュール」エントリが少なくとも 1 つ選択されていなければなりません。

- b. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
6. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## ログインチャンネルを変更する

ログインチャンネルは、Service Pack 3a に含まれているデフォルトのログインチャンネル以外の認証モジュールを使用して動作するように変更することができます。サンプルテンプレートには、ログインチャンネルを変更して、メンバーシップ認証モジュールの代わりに Unix 認証モジュールを使用して動作するように変更する方法が示されています。

ログインチャンネルの Unix 認証を有効にするには、以下の手順に従って操作します。

---

**注**            ファイルを置き換えてデスクトップの動作を変更するときは、置き換えるファイルのコピーを最初に作成してください。そうすれば、後からいつでも元の状態に戻すことができます。

---

1. 端末のウィンドウでルートとして、次に示すファイルをコピーしておきます。

```
cd /etc/opt/SUNWips/desktop/default/iwtLoginProvider
cp display.html display_iwtAuthMembership.html
```

2. display.html ファイルを以下のファイルと置き換えます。

```
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/iwtLoginProvider/display_iwtAuthUnix.html
```

```
cp display_iwtAuthUnix.html display.html
```

3. スーパーアドミンとしてログインします。
4. 左側のフレームから [ドメインの管理] リンクを選択します。

5. [Portal Server のドメイン] ページで、次の操作を行います。
  - a. UNIX 認証を追加するドメインを選択します。
6. [ドメイン、ロール、ユーザプロファイル] ページで、
  - a. [プロファイル] リンクを展開します。
  - b. [認証] リンクを選択します。
  - c. 下方向にスクロールし、[詳細オプションを表示] を選択します。
7. [非インタラクティブモジュール] フィールドで、
  - a. UNIX を追加します。
  - b. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
8. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

これで、ログインチャンネルが UNIX 認証を使用できるようになりました。

テンプレートファイル (display\_iwtAuthUnix.html) の内容を見れば、ログインチャンネルの他の認証モジュールを有効にするために、どのようにテンプレートを作成すればよいかわかります。また、特定の認証メソッドに対する組み込みログインページの内容を見れば、display.html テンプレートにどのようなパラメータを含めればよいかを把握することができます。

## フォームコントロールを使用する

チャンネルが完全な HTML 編集フォーム、または編集ページのリクエストに応じた完全な HTML ページの一部を返せるようなメソッドがプロバイダ API に追加されました。

### プロバイダ API

フォーム管理をサポートするためには、プロバイダ API にいくつかの変更が必要です。

プロバイダインタフェースには、`getEditType()` メソッドから値を返す整数型の定数が追加されています。これらの定数は、`getEditType()` メソッドの戻り値が示すフォームタイプを定義しています。

```
public static final int provider.EDIT_SUBSET ;
public static final int provider.EDIT_COMPLETE ;
```

フォームタイプのクエリや設定を行うための新しいメソッドが追加されました。

```
public int getEditType();
```

デスクトップは `getEditType()` メソッドを使用し、それによって `channel.getEdit()` を呼び出すときに、完全な HTML またはサブセット HTML フォームが返されることを期待することができます。

デスクトップサーブレットは、編集フォームが掲示されるときにいくつかの詳細情報を期待しています。そのため、編集タイプが EDIT\_COMPLETE である場合は、getEdit () から返される内容に制限が加えられません。

- このメソッドは、完全でかつ有効な HTML フォームを返します。
- このフォームは、application/x-www-form-urlencoded の 1 つのエンコードタイプです。
- このフォームには、editTemplate.html で定義されているように、デスクトップにページ処理の指示を出すためのパラメータが含まれている必要があります。

提出されたフォームには、以下のパラメータが含まれていなければなりません。

- action=process
- provider="iwtEditProvider"
- targetprovider=target channel name

フォームアクションは /DesktopServlet でなければなりません。完全な HTML フォームを返すとき、チャンネルは、Desktop URL javadocs で定義されているように有効なアクションをデスクトップに提出しなければなりません。

## プロバイダの属性

ProfileProviderAdapter クラスを拡張するチャンネルの場合は、プロファイルコンポーネントに新しい属性を定義することができます。

```

</iwt:Att>
<iwt:Att name="iwtProvider-editType"
 desc="Edit Form Type"
 type="singlechoice"
 idx=""
 userConfigurable="TRUE">
 <Val>edit_subset</Val>
 <CVal>edit_subset</CVal>
 <CVal>edit_complete</CVal>
 <Rperm>ADMIN</Rperm><Rperm>OWNER</Rperm>
 <Wperm>ADMIN</Wperm>
</iwt:Att>

```

デフォルト値は、各プロバイダに対して異なります。編集タイプが実装されていない場合には、OWNER の書き込み権限がオフになるなど、いくつかの違いがあります。

iPlanet Portal Server のデフォルトチャンネルは、すべて Provider.EDIT\_SUBSET を返します。-editType 属性を変更すると、正しく動作しなくなります。getEdit () メソッドの実装方法に基いて、新規チャンネルは、Provider.EDIT\_SUBSET または Provider.EDIT\_COMPLETE を返さなければなりません。



## チャンネルの位置をロックする

管理者は、チャンネルの位置をロックすることができます。チャンネルの位置をロックすると、ユーザがデスクトップでチャンネルの位置を変更ができなくなります。チャンネルをロックするのは、各ユーザに特定のコンテンツを見させるためです。

この機能を使うと、チャンネルがロックされるため、ユーザはデスクトップのチャンネルの位置を変えることができなくなります。

ユーザがデスクトップのチャンネルを修正するためのレイアウトページには、ロックされたチャンネルが表示されません。

チャンネルの位置をロックするには、以下の手順に従って操作します。

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. ドメインを選択し、[プロファイル] および [ポリシー] を選択します。
3. チャンネルの [移動可能] チェックボックスをオフにして、チャンネルの位置をロックします。

[移動可能] チェックボックスをオンにすると、チャンネルはデスクトップ上のどこにでも移動することができます。

4. [削除可能] チェックボックスをオフにすると、チャンネルをデスクトップから削除することはできなくなります。

[削除可能] チェックボックスをオンにすると、デスクトップからチャンネルを削除することができるようになります。

5. [送信] ボタンをクリックします。

チャンネルの位置のロックを解除するには、以下の操作を行います。

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. ドメインを選択し、[プロファイル] および [ポリシー] を選択します。
3. [移動可能] チェックボックスをオンにして、チャンネル位置のロックを解除します。

[移動可能] チェックボックスをオンにすると、チャンネルはデスクトップ上のどこにでも移動することができます。

4. (オプション) チャンネルをデスクトップから削除できるように、[削除可能] チェックボックスをオンにします。

5. [送信] ボタンをクリックします。

## 最大幅のチャンネルを設定する

最大幅のチャンネルはデスクトップの上部または下部に表示され、そのコンテンツがデスクトップの幅いっぱいに表示されます。最大幅のチャンネルは、簡単な静止画像の場合もあれば、送信用のフォームである場合もあります。

最大幅のチャンネルを設定するには、以下の手順に従って操作します。

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. ドメインを選択し、[アプリケーション] および [デスクトップ] を選択します。
3. 変更するチャンネルを選択し、[チャンネルの編集] ボタンをクリックします。
4. [詳細オプションを表示] ボタンをクリックします。
5. [幅] を *full\_top* または *full\_bottom* に変更します。
6. [送信] ボタンをクリックします。

## フレームのないチャンネルを設定する

デスクトップにフレームのないチャンネルを設定することができます。標準のチャンネルには、タイトル、コントロールセットがあり、フレームの中はウィンドウと似たような外見になります。コントロールは、削除、編集、最小化などの機能にリンクしたアイコンで構成されています。この機能を使って、フレームのない(タイトルとコントロールのない)チャンネルを設定することができます。

フレームのないチャンネルを設定するには、以下の手順に従って操作します。

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. ドメインを選択し、[アプリケーション] および [デスクトップ] を選択します。
3. 利用可能なチャンネルのリストから境界線なしで表示したいチャンネルを選択します。
4. [チャンネルの編集] ボタンをクリックし、[詳細オプションを表示] を選択します。
5. [フレーム?] チェックボックスをオフにして (選択されている場合)、フレームのないチャンネルにします。  
[フレーム?] チェックボックスがオンになっている場合は、チャンネルにタイトルとコントロールが表示されます。
6. [送信] ボタンをクリックします。

---

注 チャンネルには境界線が表示されます。チャンネルの境界線を変更するには、[ポリシー] ページで `hasBorder` 属性を変更します。

---

## ロケールを選択する

ユーザは、プラットフォームで利用できるロケールのリストからロケールを選択することができます。プロバイダはユーザに言語のリストを提供し、ユーザはその中から 1 つの言語を選択できます。その後、その選択内容はユーザプロフィールに保存されます。新しいロケールに変更するには、ログインし直す必要があります。

ロケールを選択するには、以下の操作を行います。

1. デスクトップにログインし、[編集] を選択して [ユーザ情報の表示] 画面を開きます。
2. 利用可能な言語のプルダウンメニューから言語を選択します。

## ゲートウェイなしで URL スクレーピングを行う

URL スクレーピングのパラメータを設定する場合には、[ゲートウェイコンポーネントプロファイル] の書き換え機能が使用されます。これらのパラメータには以下のものがあります。

- HTML 属性の書き換え
- JavaScript を含む HTML 属性の書き換え
- JavaScript 関数パラメータの書き換え
- URL の JavaScript 変数の書き換え
- JavaScript 変数関数の書き換え
- HTML の JavaScript 関数パラメータの書き換え
- HTML の JavaScript 変数の書き換え
- アプレットパラメータ値リストの書き換え

オープンポータルモードがインストールされている場合は、実行されているゲートウェイがないためにほとんどの選択肢を使用できませんが、[ゲートウェイコンポーネントプロファイル] ページの選択肢は使用できます。

[ゲートウェイコンポーネントプロファイル] ページにアクセスして選択肢が使用できるかどうかを確かめるには、管理コンソールで以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ゲートウェイ管理] リンクを選択します。
3. 右側のフレームで [ゲートウェイプロファイルの管理] リンクを選択します。
4. [ゲートウェイコンポーネントプロファイル] ページを選択します。

## Cookie を転送する

URL スクレーパでは、HTTP リクエストで渡された cookie をデスクトップに転送できます。つまり、URL スクレーパは、ターゲットサイトに接続してスクレーピングしている内容を得ると、cookie を送信します。また、ブラウザに set-cookie リクエストを送信します。すなわち、set-cookie ヘッダーからすべての cookie を得て、それをクライアントブラウザへの HTTP 応答に追加します。

デフォルトの場合、**cookie** は転送されません。影響を受けるドメイン、ロール、ユーザについては、管理コンソールを使って転送する **cookie** のリストを設定する必要があります。**cookie** を転送するには、以下の手順に従って操作します。

1. 管理コンソールにログインし、[ドメインの管理] を選択します。
2. ドメインを選択し、[プロファイル] および [ポリシー] を選択します。
3. そのチャンネルに対する [転送する **cookie**] 権限の許可/拒否リストで、エントリを変更します。

「\*」の付いたエントリは、すべての **cookie** を許可または拒否します。その他のエントリはプレフィックス照合を使って比較されます。

## HTTP プロキシの再起動を設定する

システムサーバを再起動するたびに **http** プロキシが自動的に再起動されるように設定するには、**iPlanet Portal Server** サーバのコマンドラインインターフェースを使って以下の操作を行います。

---

**注** 複数のサーバを使用している場合は、各サーバについて以下の手順を繰り返してください。

---

ルートとしてログインし、端末ウィンドウで次のように入力します。

```
cd /opt/SUNWips/bin
cp ipshttpd /etc/rc3.d/K55ipshttpd
cp ipshttpd /etc/rc3.d/S55ipshttpd
chmod 500 /etc/rc3.d/K55ipshttpd
chmod 500 /etc/rc3.d/S55ipshttpd
```

この操作で、マシンが再起動したときに **http** プロキシが自動的に起動します。

ただし、`ipsserver start` を使って **iPlanet Portal Server 3.0** を再起動した場合、**http** プロキシは自動的に起動しません。

## HTTP リクエスト/応答へのアクセスを有効にする

プロバイダは、HTTP リクエスト/応答ヘッダーにアクセスすることができます。この機能は、シングルサインオン、**cookie** 設定、HTTP ヘッダーのパラメータ取得、およびヘッダーへのデータ挿入などに適しています。

以下に示すのは、コンテンツプロバイダインターフェースの3つの新しいメソッドです。

```

public StringBuffer getContent(HttpServletRequest req,
 HttpServletResponse res);

public StringBuffer getEdit(HttpServletRequest req,
 HttpServletResponse res);

public URL processEdit(HttpServletRequest req,
 HttpServletResponse res);

```

ProviderAdapter および ProfileProviderAdapter 内のメソッドは旧バージョンの `getContent`、`getEdit`、および `processEdit` メソッドを呼び出します。現バージョンのメソッドに渡される `HttpServletRequest` および `Responses` オブジェクトには、以下に示すような動作があります。

**表 7**      `HttpServletRequest` と `Responses`

メソッド	戻り値
<code>getQueryString()</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>
<code>getSession(boolean)</code>	<code>Null</code>
<code>isRequestedSessionIdFromCookie()</code>	<code>False</code>
<code>isRequestedSessionIdFromUrl()</code>	<code>False</code>
<code>isRequestedSessionIdValid()</code>	<code>False</code>
<code>getContentLength()</code>	<code>-1</code>
<code>getInputStream()</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>
<code>getParameter(String)</code>	内部マップを使用してパラメータを返す
<code>getParameterNames()</code>	内部マップを使用して名前を返す
<code>getParameterValues(String)</code>	内部マップを使用して値を返す
<code>getReader()</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>
<code>encodeRedirectUrl(String)</code>	<code>arg</code>
<code>encodeUrl(String)</code>	<code>arg</code>
<code>sendError(int)</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>
<code>sendError(int, String)</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>
<code>sendRedirect(String)</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>
<code>setStatus(int)</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>
<code>setStatus(int, String)</code>	<code>UnsupportedOperationException</code>

表 7      HttpServletRequest と Responses (続き)

メソッド	戻り値
getOutputStream()	UnsupportedOperationException
getWriter()	UnsupportedOperationException
setContentLength(int)	UnsupportedOperationException
setContentType(String)	UnsupportedOperationException

## ゲートウェイのロギング

ゲートウェイのロギングが有効になっている場合、ゲートウェイとポータルサーバ間のロギングトラフィックは、ポータルのパフォーマンスに影響を与えます。**Service Pack 3a** では、ゲートウェイのデフォルトロギングはオフになっています。ゲートウェイのロギングを有効にするには、以下の手順に従って操作します。

注      以下の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

1. スーパーアドミンとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ゲートウェイ管理] リンクを選択します。
3. 右側のフレームで [ゲートウェイプロファイルの管理] リンクを選択します。
4. [コンポーネントプロファイル: ゲートウェイ] ページで、以下の操作を行います。
  - a. ページの最後までスクロールし、[詳細オプションを表示] ボタンをクリックします。
  - b. ページの下までスクロールして [ロギング有効] チェックボックスを表示し、ゲートウェイのロギングを有効にするボックスを選択します。
  - c. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
5. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。
6. ゲートウェイを中止し、再起動します。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsgateway start
```

## iPlanet Portal Server 以外のサーバでアプリケーションを実行する

このセクションでは、iPlanet Portal Server 以外のサーバで iPlanet Portal Server API を使って書かれたアプリケーションを実行する方法について説明します。アプリケーションとは、スタンドアロンの java アプリケーション (多少の制限付き) または iPlanet Web Server サーバで実行されるサーブレットアプリケーションのいずれかです。

---

**注** iPlanet Portal Server 3.0 のパブリック API は、Solaris オペレーティングシステムのみでサポートされています。

---

### サポートされているソフトウェアのバージョン

- JDK/JRE 1.2.2\_07
- iPlanet Web Server (iWS) 4.1 SP7
- Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8

### iPlanet Portal Server 3.0 以外のサーバを設定する

---

**注** 以下の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

---

1. 以下のディレクトリを iPlanet Portal Server 以外のサーバホストに作成します。

```

/opt/SUNWips
/opt/SUNWips/lib
/opt/SUNWips/locale
/etc/opt/SUNWips

```

2. /etc/opt/SUNWips/platform.conf を iPlanet Portal Server 以外のサーバ上の同じ場所にコピーします。
3. 通知を受けるためには、アプリケーションのランタイム環境がサーブレットをサポートしていなければなりません。

platform.conf の ips.notification.url パラメータを変更して、アプリケーションが実行されるサーバの完全なドメイン名を記述するようにします。以下の例を参照してください (太字の部分)。

```

Copyright 03/22/00 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
"@(#)platform.conf 1.29 00/03/22 Sun Microsystems"
#

```

```
ips.defaultDomain=iplanet.com
ips.server.protocol=http
ips.server.host=siroe.iplanet.com
ips.server.port=8080
ips.profile.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.protocol=http
ips.gateway.host=siroe.iplanet.com
ips.gateway.port=443
ips.virtualhost=siroe.iplanet.com 192.168.01.01
ips.naming.url=http://siroe.iplanet.com:8080/namingservice
ips.notification.url=http://siroe.iplanet.com:8080/notificationsservice
ips.daemons=securid radius safeword unix skey
securidHelper.port=8943
radiusHelper.port=8944
safewordHelper.port=8945
unixHelper.port=8946
skeyHelper.port=8947
```

4. /opt/SUNWwips/lib から、以下のファイルを iPlanet Portal Server 以外のサーバ上の同じ場所にコピーします。
  - o ips\_sdk.jar
  - o xml.jar
  - o jndi.jar
5. /opt/SUNWwips/locale から、以下のファイルを iPlanet Portal Server 以外のサーバ上の同じ場所にコピーします。
  - o iwtPll.properties
  - o iwtProfile.properties
  - o iwtSession.properties
  - o iwtLogging.properties
  - o iwtNaming.properties
6. クライアントアプリケーションが iPlanet Web Server で実行される場合は、iPlanet Web Server のクラスパスを更新します。

```
iws_server_root/https-your_server/config/jvm12.conf
```

クラスパスには、以下のファイルを含める必要があります。
  - o /opt/SUNWwips/locale
  - o ips\_sdk.jar
  - o xml.jar



o jndi.jar

7. 以下の iPlanet Web Server ファイルを開きます。

```
iws_server_root/https-your_server/config/rules.properties
```

それから、以下の行を追加します。

```
/notificationsservice=notificationsservice
```

8. 以下の iPlanet Web Server ファイルを開きます。

```
iws_server_root/https-your_server/config/servlets.properties
```

それから、以下の行を追加します。

```
servlet.notificationsservice.code=com.iplanet.portalserver.pll.client.PLLNotificationServlet
```

9. これらのファイルを更新したら、iPlanet Web Server サーバを再起動します。

## iPlanet Web Server で実行されないアプリケーション

iPlanet Portal Server のセッションおよびプロファイル API には、アプリケーションがプロファイルやセッションの状況変化をリッスンできる通知機能があります。アプリケーションがスタンドアロンで実行されている場合には、以下の状態が起こります。

- セッションまたはプロファイルの通知を受け取れない
- プロファイルで属性が変更されても、クライアント側のキャッシュが更新されない。ユーザがログアウトしてログインし直さない限り、アプリケーションは変更を認識しない
- iPlanet Portal Server セッションサーバでユーザセッションがタイムアウトになっても、キャッシュのリフレッシュタイマーが切れるまでユーザセッションは有効である

---

**ヒント**      iPlanet Portal Server 3.0 の管理コンソールの「セッションプロファイル」で、キャッシュの秒数属性を短くします。

---

## SSL を使ってクライアントアプリケーションを実行する

iPlanet Portal Server 3.0 サーバが SSL を使用するように設定されている場合は、iPlanet Portal Server API も SSL を使用します。また、アプリケーションも SSL を使って iPlanet Portal Server サービスと通信できなければなりません。

インストール完了時の iPlanet Web Server は、サブレットによる送信 SSL 接続をサポートするように設定されていません。

---

**注**              以下の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

---

サブレットによる SSL 接続を有効にするには、以下の手順に従って操作します。

1. /opt/SUNWips/lib から以下のファイルを **iPlanet Portal Server** 以外のサーバ上の同じ場所にコピーします。

- o ssl.jar
- o x509v1.jar

2. **iPlanet Web Server** のクラスパスを更新します。

```
iws_server_root/https-your_server/config/jvm12.conf
```

クラスパスには、以下のファイルを含めます。

- o ssl.jar
- o x509v1.jar

3. 以下のファイルを `iws_server_root/bin/https/lib` ディレクトリにコピーします。

```
/opt/SUNWips/lib/solaris/sparc/libjssl.so
```

4. これらのファイルを更新したら、**iPlanet Web Server** を再起動します。

## iPlanet Portal Server ゲートウェイを通じてアプリケーションを実行する (セキュアポータル)

**iPlanet Portal Server** のゲートウェイを使用しているときは、そのゲートウェイが **iPlanet Portal Server** の **cookie** をアプリケーションホストに転送するように設定されていなければなりません。アプリケーションが実行されているサーバの **URL** がこの属性に追加されていないと、**iPlanet Portal Server** の **cookie** は転送されず、アプリケーションで有効なユーザセッションが実行されません。特に設定を変更しない限り、ゲートウェイは **iPlanet Portal Server** サーバだけに **cookie** を転送するようになっています。

---

注 以下の手順と例では、/opt がデフォルトのインストールディレクトリです。

---

1. **iPlanet Portal Server** の管理コンソールで、以下の手順に従って操作します。

- a. スーパーアドミンとしてログインします。
- b. 左側のフレームから [ゲートウェイ管理] リンクを選択します。
- c. 右側のフレームで [ゲートウェイプロファイルの管理] リンクを選択します。
- d. [転送 Cookie URL リスト] 属性が表示されるまで下方向にスクロールします。
- e. 以下に示すように、アプリケーションを実行するサーバの **URL** を、このフィールドに入力します。

```
http://auth.iplanet.com:8080
```

- f. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。

- g. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。
2. ゲートウェイを再起動します。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsgateway start
```

## iPlanet Portal Server ゲートウェイなしでアプリケーションを実行する (オープンポータル)

ゲートウェイなしでアプリケーションを実行する場合は、「完全修飾ドメイン名」(FQDN) を使ってアプリケーションにアクセスします。完全なドメイン名を使用しないと、iPlanet Portal Server の cookie はアプリケーションに転送されず、ユーザセッションは無効になります。

## NetFile/NetFile Lite とともに Novell ファイルシステムを使用する

Service Pack 3a は、NetFile および NetFile Lite アプリケーションを通じて、Novell ファイルシステムに対するファイル転送プロトコル (FTP) をサポートします。以下の操作手順では、NetFile および NetFile Lite のネットワークコンピュータに Novell システムを追加する方法について説明します。

### NetFile に Novell ファイルシステムを追加する

1. iPlanet Portal Server デスクトップの [アプリケーション] チャネルにある [Netfile] リンクを選択して、Netfile を起動します。
2. [ファイル] -> [システムの追加] を選択します。
3. 完全修飾システム名を入力します。
4. システムのタイプとして [自動検出] または [NETWARE] を選択し、[OK] をクリックします。
5. ネットワークコンピュータ内のシステムをダブルクリックして「共有」を追加します。
6. Netware のユーザ名とパスワードを入力し、マウントするディレクトリを選択します。
7. ネットワークコンピュータ内のシステム名の下にある「共有」をダブルクリックして、そのディレクトリを参照します。

これで、NetFile ユーザは他のホストタイプの場合と同様に NetFile 関数を実行できます。

---

**注** Netware は 8.3 ファイルネーミング規則に従っているため、Netfile を使って Netware ホストにファイルをアップロードする場合には、ファイル名の変更が必要になる可能性があります。この制限は、Novell ファイルシステム内にあるファイル (ファイル拡張子が既に付いているもの) を圧縮しようとした場合にも同様に現われます。

---

## NetFile Lite に Novell ファイルシステムを追加する

1. ポータルデスクトップの [アプリケーション] チャンネルにある [Netfile Lite] リンクを選択して、Netfile Lite を起動します。
2. [システム名] フィールドにシステム名を記入し、[マシンタイプ] に [自動検出] または [NETWARE] を選択します。
3. [ユーザ名]、[パスワード]、[マウントするディレクトリ] の各フィールドに必要な情報を記入し、[入力] をクリックします。
4. [システムの表示] リンクを選択します。
5. リストからホスト名を選択し、[入力] をクリックします。

これで、ファイル名の横のチェックボックスを使用し、ページの下にあるボタンを使ってアクションを選択することにより、Netfile 関数を実行することができます。

## 管理コンソールからドメインおよびユーザレベルでシステムと共有を定義する

Service Pack 3a では、NetFile/Netfile Lite のシステムと共有をドメイン、ロール、およびユーザレベルで定義することができます。管理者は、管理コンソールで共通のホストデータ属性を設定することによって、エンドユーザのネットワークコンピュータに表示されるシステムおよび共有を定義できます。

以下の NetFile プロファイル属性は、管理者がシステムおよび共有を定義できるように変更されました。

- iwtNetFile-hostlist 属性は、管理コンソールから編集できなくなりました。
- iwtNetFile-commonhostdata 属性は、NetFile 用に作成された新しい属性です。この属性を使って、管理者はユーザのためにシステムや共有をあらかじめ定義することができます。

以下の各項目で、システムおよび共有の定義方法について説明します。

- ドメインレベルでシステムおよび共有を定義する
- ロールレベルでシステムおよび共有を定義する
- ユーザレベルでシステムおよび共有を定義する

## ドメインレベルでシステムおよび共有を定義する

1. スーパーアドミンとして iPlanet Portal Server 管理コンソールにログインします。
2. [ドメインの管理] を選択します。
3. [Portal Server のドメイン] ページで、目的のドメインを選択します。
4. [アプリケーション] の横のキーを展開します。
5. [NetFile] を選択します。
6. [予め入力されているホスト リスト/タイプおよび共有情報] フィールドで共通のホストデータ属性を変更します。

共通のホストデータ属性を変更するには、以下のフォーマットを使って名前、ドメイン、タイプ、および共有情報を入力します (スペースを含まない 1 つの文字列として入力すること)。

```
name=fully_qualified_host_name|domain=domain_
name|type=host_type|share=share_directory
```

- *NAME* はリモートホストの名前です。
- *DOMAIN* は NT/WIN ドメインです。該当するものがない場合、ドメインフィールドは「NULL」にすることができます。
- *TYPE* は NT、WIN、NFS、FTP、NETWARE のいずれかです。
- *SHARE* には、1 つまたは複数の共有またはディレクトリを配置することができます。

以下に、いくつかの例を挙げます。

```
name=xyz.iplanet.com|domain=workgroup|type=NT|share=tempshare|share=C$
name=abc.iplanet.com|domain=NULL|type=NETWARE|share=/sys/share1|share=/sys/share2
name=pqrs.iplanet.com|type=FTP|share=/myshare
name=abcdef|domain=NULL|type=WIN|share=WINDOWS|share=DESKTOP|share=TEMP
```

7. 各エントリに対し、[追加] をクリックしてホストと共有をリストに追加します。
8. 操作が完了したら、ページの下の方にある [送信] をクリックします。  
変更内容をサブロールに適用するには、[すべてのサブロールに変更を適用する] チェックボックスをオンにしてから [送信] をクリックします。

---

**注**            変更内容をサブロールに適用すると、ツリーの下位レベル (たとえば、ユーザレベル) で行なったカスタマイズを上書きしてしまう場合があります。

---

NetFile に定義済みのシステムまたは共有を表示するには、エンドユーザが以下の操作を行う必要があります。

1. iPlanet Portal Server のデスクトップにログインします。
2. NetFile または NetFile Lite アプリケーションを起動します。
3. 目的のホストを選択し、[ホスト情報の編集] をクリックします。
4. 必要なホストまたは共有に対するユーザ名とパスワードを入力します。

## ロールレベルでシステムおよび共有を定義する

1. スーパーアドミンとして iPlanet Portal Server 管理コンソールにログインします。
2. [ドメインの管理] を選択します。
3. 目的のドメインを選択します。
4. 目的のロールを選択します。
5. [アプリケーション] の横のキーを展開し、[NetFile] を選択します。
6. [予め入力されているホストリスト/タイプおよび共有情報] フィールドで共通のホストデータ属性を変更します。

共通のホストデータ属性を変更するには、以下のフォーマットを使って名前、ドメイン、タイプ、および共有情報を入力します。

```
name=fully_qualified_host_name|domain=domain_
name|type=host_type|share=share_directory
```

- *NAME* はリモートホストの名前です。
- *DOMAIN* は NT/WIN ドメインです。該当するものがない場合、ドメインフィールドは「NULL」にすることができます。
- *TYPE* は NT、WIN、NFS、FTP、NETWARE のいずれかです。
- *SHARE* には、1 つまたは複数の共有またはディレクトリを指定することができます。

以下に、いくつかの例を挙げます。

```
name=xyz.iplanet.com|domain=workgroup|type=NT|share=tempshare|share=C$
name=abc.iplanet.com|domain=NULL|type=NETWARE|share=/sys/share1|share=/sys/share2
name=pqrs.iplanet.com|type=FTP|share=/myshare
name=abcdef|domain=NULL|type=WIN|share=WINDOWS|share=DESKTOP|share=TEMP
```

7. 各エントリに対し、[追加] をクリックしてシステムと共有をリストに追加します。
8. 操作が完了したら、ページの下の方にある [送信] をクリックします。

---

**注**            エンドユーザは、定義済みのホストや共有を削除することはできません。たとえエンドユーザが定義済みのホストと共有を削除し、終了時にセッションを保存するように選択した場合でも、それらは削除されません。

---

NetFile に定義済みのシステムまたは共有を表示するには、エンドユーザが以下の操作を行う必要があります。

1. iPlanet Portal Server のデスクトップにログインします。
2. NetFile または NetFile Lite アプリケーションを起動します。
3. 目的のホストを選択し、[ホスト情報の編集] をクリックします。
4. 必要なホストまたは共有に対するユーザ名とパスワードを入力します。

### ユーザレベルでシステムおよび共有を定義する

1. iPlanet Portal Server の管理コンソールにログインします。
2. [ドメインの管理] を選択します。
3. 目的のドメインを選択します。
4. 目的のロールを選択します。
5. [ユーザ] を選択します。
6. 目的のユーザ名を選択します。
7. [アプリケーション] の隣のキーを展開し、[NetFile] を選択します。
8. [予め入力されているホストリスト/タイプおよび共有情報] で共通のホストデータ属性を変更します。共通のホストデータを入力する際には、以下のフォーマットを使用します。

共通のホストデータ属性を変更するには、以下のフォーマットを使って名前、ドメイン、タイプ、および共有情報を入力します。

```
name=fully_qualified_host_name|domain=domain_
name|type=host_type|share=share_directory
```

- *NAME* はリモートホストの名前です。
- *DOMAIN* は NT/WIN ドメインです。該当するものがない場合、ドメインフィールドは「NULL」にすることができます。
- *TYPE* は NT、WIN、NFS、FTP、NETWARE のいずれかです。
- *SHARE* には、1 つまたは複数の共有またはディレクトリを配置することができます。

以下に、いくつかの例を挙げます。

```
name=xyz.iplanet.com|domain=workgroup|type=NT|share=tempshare|share=C$
name=abc.iplanet.com|domain=NULL|type=NETWARE|share=/sys/share1|share=/sys/share2
name=pqrs.iplanet.com|type=FTP|share=/myshare
name=abcdef|domain=NULL|type=WIN|share=WINDOWS|share=DESKTOP|share=TEMP
```

9. 各エントリに対し、[追加] をクリックしてシステムと共有をリストに追加します。
10. 操作が完了したら、ページの下の方にある [送信] をクリックします。

---

**注** エンドユーザは、定義済みのホストや共有を削除することはできません。たとえエンドユーザが定義済みのホストと共有を削除し、終了時にセッションを保存するように選択した場合でも、それらは削除されません。

---

NetFile に定義済みのシステムまたは共有を表示するには、エンドユーザが以下の操作を行う必要があります。

1. iPlanet Portal Server のデスクトップにログインします。
2. NetFile または NetFile Lite アプリケーションを起動します。
3. 目的のホストを選択し、[ホスト情報の編集] をクリックします。
4. 必要なホストまたは共有に対するユーザ名とパスワードを入力します。

## 隠し共有を定義する

管理者とデスクトップユーザは、NetFile で使用するための NT 隠し共有を定義できます。共通ホストデータ属性を使用すれば、管理者は管理コンソールを通じて NT 隠し共有を定義できます。管理コンソールを通じて隠し共有を定義する手順は、通常の共有を定義する場合と同じです。詳細については、「管理コンソールからドメインおよびユーザレベルでシステムと共有を定義する」を参照してください。

デスクトップユーザは、隠し共有に正しいユーザ名とパスワードを使用する限り、通常の共有を追加するのと同じ方法で NT 隠し共有を追加することができます。

## アルファベット順に一覧される Windows NT システムの共有

NetFile の Windows NT 共有はアルファベット順に表示されます。Windows NT システムの共有はユーザがシステム名をダブルクリックしたときに自動的に表示されるため、共有のリストがアルファベット順に表示されることによって、目的の共有を簡単に見つけることができます。



## smbclient コマンドに追加された smb.conf パラメータ

smbclient コマンドに smb.conf パラメータが追加されました。smb.conf パラメータを使うと、NetFile がファイル内に ISO8859-1 文字セットを表示することができます。また、管理者は、このパラメータを使って、他の smbclient 機能を利用した NetFile アプリケーションを設定することができます。

以下に、Portal Server に使用できる smb.conf ファイルの例を示します。

```
Samba config file created using SWAT
from foo.iplanet.com (1.2.3.4)
Date: 2001/01/16 18:16:51

Global parameters
[global]
 path=/
 workgroup = MYWORKGROUP
 security = user
 hosts allow = localhost 1.2.
 username map = /opt/samba/lib/users.map
 encrypt passwords = yes

[tmp]
 comment = temporary files
 path = /tmp
 read only = yes
 user = root

[homes]
 comment = Users' home directories
 path = /u/%S
 writeable = Yes

[printers]
 path = /tmp
 guest ok = Yes
 printable = Yes

[CTEServer]
 comment = site of web server
 path = /opt/netscape/server4

[iPortal]
 comment = top directory for iPortal files
 path = /opt/SUNWips
```

これに付随するマップファイル (/opt/samba/lib/users.map) は、以下のようになります。

```
root = admin administrator
```

Samba 特有のコンフィグレーションの詳細については、Samba の Web サイトをご覧ください。

<http://samba.org/samba>

## 使いやすくなった NetFile

Service Pack 3a 製品では、NetFile をより使いやすくするために、以下の機能が強化されました。

- ファイル名をダブルクリックして NetFile ファイルを開くことができます。
- 複数のファイルを選択してダウンロードできます。
- NetFile アプリケーションを使ってファイルをアップロードする際の最大ファイル サイズが 500 M バイトに増えました。ただし、NetFile Lite の最大ファイルサイズは、以前と同じで、5 M バイトです。

## オープンポータルモードでロードバランサを使用する

Service Pack 3a がインストールされていれば、iPlanet Portal Server はオープンポータルモードでのロードバランサの使用をサポートします。

iPlanet Portal Server サーバがオープンポータルモードでロードバランサとともに機能するためには、ロードバランサが永続接続 (cookie に基づくスティッキーセッション) をサポートしていなければなりません。ロードバランサが cookie の名前と値に基づく永続化をサポートしている場合は、この機能を有効にする必要があります。

iPlanet Portal Server 環境にロードバランサ、およびサーバ (iPlanet Portal Server サーバ以外) からのデータを参照する URL スクレーパーチャネルがある場合、そのデータはそのサーバから検索されます。たとえば、ブラウザのページ情報ウィンドウでイメージの URL 内のサーバ名が明らかである場合、そのブラウザはロードバランサを使わずにそれらのイメージにアクセスします。

この機能が正しく動作するためには、ポータルからの最初の返信時に、ロードバランサが cookie を認識できなければなりません。その後、ロードバランサは、その cookie 名および値を持つすべてのリクエストを同じサーバに送り続けます。cookie 永続化アルゴリズムの中には、返信時ではなく、サーバへの「投稿時」または「アクセス時」に cookie を認識するものもあります。このタイプの cookie 永続化は、最初のリクエストと 2 番目のリクエストが別のサーバに送られる場合があるため機能しません。

このタイプの cookie 永続化アルゴリズムはサポートしていないが、cookie 名および値の存在に基づく、特定のサーバに対するロードバランサ機能をサポートしているロードバランサがある場合は、各サーバで platform.conf ファイルを編集して cookie 値を設定します。

各サーバにはそれぞれ特別な cookie が定義されています。ロードバランサは、その cookie を認識し、かつそれを伴うリクエストをその特定のサーバに転送するように設定されます。各ポータルサーバインスタンスは、通常のポータルセッション cookie と一緒にこの cookie を設定します。

Cookie は、いくつかのロードバランサと iPlanet Portal Server サーバの間でセッションの永続化を確立するために使用されます。

## オープンポータルモードでロードバランサを使用するには

1. サーバに対してロードバランサを設定します。
2. ルートとして、platform.conf ファイルに以下の行を追加します。

この手順は、使用しているロードバランサが、**cookie** 名および値の存在に基づく、特定のサーバに対するロードバランサ機能をサポートしている場合에만実行します。この手順を実行する必要があるかどうかを判断するには、ロードバランサに付属のマニュアルを参照してください。

```
ips.lbcookie.name=<iPSlbCookie>
ips.lbcookie.value=<some_unique_server_string>
```

---

**注**      **Resonate™** は、platform.conf ファイルを編集するロードバランサの一例です。**Resonate** の管理コンソールを使って各サーバインスタンスに **cookie** 永続化を作成する際には、同じ **cookie** 名 **<iPSlbCookie>** を使用してください。

---

3. 管理コンソールで、**[Cookie ドメインリスト]** にロードバランサの **cookie** ドメイン名を追加します。  
この手順はオプションです。ロードバランサのドメイン名がサーバのドメイン名と同じである場合、この手順は不要です。  
サーバの **[Cookie ドメインリスト]** にロードバランサのドメイン名を追加するには、次の手順を実行します。
  - a. スーパーアドミンとして管理コンソールにログインします。
  - b. **[サーバ管理]** を選択します。
  - c. **[サーバプロファイルの管理]** を選択します。
  - d. **[Cookie ドメインリスト]** にロードバランサのドメイン名を追加し、**[追加]** をクリックします。  
たとえば、**cookie** ドメインが sun.com である場合は、以下のようにしてドメイン名を追加します。この例では、最初にピリオド (".") を付ける必要があることに注意してください。

```
.sun.com
```

- e. **[送信]** をクリックします。

4. [ドメイン URL] リストにロードバランサ名を追加します。
  - a. 管理コンソールで、目的のドメインを選択します。
  - b. [認証] を選択します。
  - c. [ドメイン URL] リストにロードバランサ名を 3 回追加します。以下の例では、ロードバランサ名が sun.com であると仮定しています。以下の方法でロードバランサの URL を追加します (太字部分を参照)。

```
siroe.sun.com
siroe.sun.com/sun.com
siroe.sun.com/login
192.168.66.15
192.168.66.15/sun.com
192.168.66.15/login
www.sun.com
www.sun.com/sun.com
www.sun.com/login
```

5. iPlanet Portal Server 3.0 サーバからのコンテンツを参照するチャンネルの URL を編集します。

---

**注** この手順は、外部コンテンツを使用するチャンネル用ではありません。チャンネルに表示されるポータル関連のコンテンツに対して有用な手順です。

---

- a. 管理コンソールで、目的のドメインを選択します。
- b. *Applications* の隣のキーをクリックしてリストの選択肢を展開し、[デスクトップ] を選択します。
- c. サーバからのコンテンツを参照する URL スクレーパーチャンネルを編集します。URL からプロトコル、サーバ、およびポート番号を削除することによって、属性を相対的な URL に変更します。  
たとえば、以下の URL スクレーパーチャンネル値があるとします。

```
http://siroe.sun.com:8080/ipinfo.html
```

この URL 属性を変更すると、値は以下のようになります。

```
/ipinfo.html
```

- d. [送信] をクリックします。

## 1つのプロファイルリクエストで複数の属性を読み込む

デスクトップアプリケーションおよび他のアプリケーションは、1回の操作で複数のコンポーネントから複数の属性を読み込むことができます。1つのプロファイルリクエストで複数の属性を読み込むには、`Profile.loadAttributes` という新しいメソッドが使用されます。この操作は、複数のコンポーネントに対し、ワイルドカードを含むことができる一連の属性名を渡すことによって行われます。返された属性値は、後続の呼び出しがこれらの属性をすばやく取り込むことができるようなプロファイルオブジェクト内にキャッシュされます。これにより、iPlanet Portal Server の全体的なパフォーマンスが向上します。

パラメータ名は `attributeNames` です。その値は、ワイルドカード文字を含むことができる一連の属性名です。

```
public void loadAttributes(Set attributeNames)
 throws ProfileException
```

## セッションの短絡とリクエストのログ

セッションの短絡とリクエストのログを実行すると、ログサービスとセッションサービスのリクエスト数が減るため、パフォーマンスが向上します。これにより、iPlanet Portal Server 製品の全体的なパフォーマンスが向上します。

短絡は次のように機能します。ロギングクライアントとロギングサーバが同じ JVM にある場合は、クライアントとサーバの通信において `http` 接続が無視されます。同様に、セッションクライアントとセッションサーバが同じ JVM にある場合も、`http` 接続を使わずに通信が行われます。短絡を行うと、セッションリクエストとロギングリクエストの XML 解析が省略されるため、全体的なパフォーマンスが向上します。

## Macintosh クライアントでデスクトップアプリケーションを実行する

Service Pack 3a は、Macintosh クライアントコンピュータにおける NetFile、NetMail、および Netlet アプリケーションの実行をサポートしています。

Macintosh における NetFile および NetMail アプリケーションは、他のサポートされているプラットフォームの場合と同様に機能します。ただし、Netlet アプリケーションを Macintosh で使用する場合、ダイナミックロード機能は使用できません。Netlet が有効になっている場合は、デスクトップで Netlet チャネルが使用可能な状態のときに、Macintosh クライアントが自動的に Netlet をロードします。

表 8 は、Macintosh クライアントで Netlet、NetMail、NetFile の各アプリケーションを実行するためのシステム要件をまとめたものです。

**表 8** Macintosh クライアントで Netlet、NetMail、NetFile の各アプリケーションを実行するためのシステム要件

コンポーネント	説明
オペレーティングシステム	Macintosh 8.6 - 9.1
ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 5.0
Java VM	Macintosh OS Runtime for Java (MRJ) 2.2.3

**注** Macintosh クライアントで Internet Explorer 5.0 を使用する場合、デフォルトの自己署名証明書を使ってゲートウェイに SSL 接続することはできません。接続に必要な証明書は、iPlanet Portal Server インストーラを実行したときにインストールされます。

これ以外の任意の証明書も使用できます。

## 無制限の Netlet 接続

Netlet は、1 つの Netlet 規則につき無制限接続数をサポートするようになりました。これは、Netlet を通じて実行するアプリケーションで、1 つの Netlet 規則に対して多数の接続が必要とされる場合に便利です。

**注** クライアントのオペレーティングシステムによっては、無制限の接続を処理できない場合があります。なぜなら、クライアントのオペレーティングシステムには、その独自のリソースに基づく独自の接続制限が適用される場合があるからです。適用される制限には、JVM のサイズやファイルディレクトリに関する制限などがあります。

## Netlet ウィンドウ

Service Pack 3a 製品では、Netlet 接続が確立されると、一時的なステータスウィンドウが開きます。このウィンドウによって、Netlet の読み込みが完了したことを確認できます。このウィンドウに表示される内容は、以下に示すファイルの nc3 を編集してカスタマイズできます。

<インストールディレクトリ>/SUNWips/locale/iwtNetletServlet.properties

```
iwtNetlet-desc=Netlet config profile
a1=Netlet Rules
a2=Warning Popup For Connections
a3=Default Loopback Port
X-x1=Debugging attribute
```

```

p1=Access To Netlet Rules
p2=Netlet access to hosts
p3=Execute Permission
p4=Netlet access to domains
ntitle=<HEAD><TITLE>Netlet</TITLE></HEAD>
nc1=<h2>Netlet runs from this browser window.</h2><p>Note: Do not close this window while using netlet
connections. You may close this window when you no longer want to use netlet
connections.
nc2=<h2>Netlet not loaded.</h2><p>Netlet is either not configured on your
desktop or has not finished loading.
ntitle2=<HEAD><TITLE>Netlet Loading</TITLE></HEAD>
nc3=<h2>Netlet is loading.</h2><p>The Netlet is still loading. Once the Netlet
has completed loading, click this button to continue with your Netlet session.
nc4=<h2>Netlet is loading.</h2><p>Please wait while the Netlet finishes
loading. This message should change once loading is complete.
macLoadErr=<h2>Netlet not loaded.</h2><p>Netlet is either not configured on
your desktop or use the link below to cause the Netlet to load.<P><A HREF="#"
onClick="opener.location='/DesktopServlet?action=content&provider=iwtFrontProv
ider&macload=dynamic'; setTimeout('window.close()', 4000);">Load Netlet

contButton=Continue

ntxcolor=#000000
nbgcolor=#FFFFFF

iwtNetlet-debug.on=On
iwtNetlet-debug.off=Off
iwtNetlet-debug.log=Log Messages

```

現在のユーザに対して静的規則が定義されている場合、ステータスウィンドウに表示されるメッセージを編集するには、次の例を参照のうえ、次のファイルに含まれる太字の部分を修正してください。

```
iwtNetletProvider.properties
```

```

#####
#####
#
NetletProvider class msgs
#
NetletProvider-noTargets=No Netlet targets configured. Click 'Edit'
to configure Netlet targets.\n
NetletProvider-targets=Click any link to perform a Netlet function.
NetletProvider-wait=Wait until the Netlet popup initializes before
using any Netlet operations.\n
NetletProvider-nonAsciiHostname=Hostname must be ASCII characters!

iwtNetletProvider-width.Thin=thin
iwtNetletProvider-width.Thick=thick

```

```
iwtNetletProvider-width.full_top=full top
iwtNetletProvider-width.full_bottom=full bottom
iwtNetletProvider-editType.edit_subset=edit subset
iwtNetletProvider-editType.edit_complete=edit complete
```

次のファイル内の値は、Macintosh クライアントが自動プロキシコンフィグレーションファイルを使用する場合、または Netlet が Macintosh ブラウザのプロキシ設定を決定できない場合に使用されます。

iwtNetletApplet.properties

```
#
lang=en
country=US
variant=
pwd.1=Netlet Connection Attempt
pwd.2=A connection attempt is being made to port
pwd.3=press OK to continue, Cancel to stop the connection
pwd.4=OK
pwd.5=Cancel
pwd.6=Don't warn again
pad.1=Netlet Proxy Authentication
pad.2=Proxy Authentication Required
pad.3=Please enter Proxy Username and Password:
pad.4=Username:
pad.5>Password:
pad.6=OK
pad.7=Cancel
ned.1=Netlet Error
ned.2=Unknown Error
ned.3=OK
ppd.1=Netlet Proxy Port
ppd.2=Netlet was unable to determine your browser proxy port setting.
ppd.3=Please enter your browser Proxy Port setting below:
ppd.4=OK
ppd.5=Cancel
pwarn.1ns=Netlet was unable to determine your browser proxy settings.
If your browser preferences are set to use Automatic Proxy
Configuration:\n\n - set the Security proxy in your browser proxy
configuration\n - close and then reopen the 'Remote File and
Windowing' window\n\nSee your network administrator for the correct
settings
pwarn.2ie=Netlet was unable to determine your browser proxy settings.
If your browser preferences are set to use Automatic Proxy
Configuration:\n\n - set the Security proxy in your browser proxy
configuration\n - restart your browser\n\nSee your network
administrator for the correct settings
```



```

pwarn.3mac=Netlet was unable configure your browser proxy settings. In
your browser's Preferences->Network->Proxies section:\n\n - add these
entries to the 'List of sites that you want to connect to
directly':\nlocalhost\n\n127.0.0.1
pwarn.3=Invalid Proxies Set
pwarn.4=OK
psconn.1=Proxy authentication no username/password
psconn.3=Proxy Digest Authentication Not Supported
rwgroup.1=Unable to connect to security proxy server:
rwgroup.2=Unable to connect to Gateway:

```

次のファイルは、Netlet チャンネル内のリンクから Netlet を起動した場合に使用される値を示しています。これに対し、ログインして起動した場合は、静的規則が適用されます。**nc4** 値と **contButton** 値は、「中間ステータスを示すウィンドウ」に表示されます。

iwtNetletServlet.properties

```

iwtNetlet-desc=Netlet config profile
a1=Netlet Rules
a2=Warning Popup For Connections
a3=Default Loopback Port
X-x1=Debugging attribute
p1=Access To Netlet Rules
p2=Netlet access to hosts
p3=Execute Permission
p4=Netlet access to domains
ntitle=<HEAD><TITLE>Netlet</TITLE></HEAD>
nc1=<h2>Netlet runs from this browser
window.</h2><p><fontcolor=red>Note:
Do not close this window while using netlet connections.
You may close this window when you no longer want to
use netlet connections.
nc2=<h2>Netlet not loaded.</h2><p>Netlet is either
not configured on your desktop or has not finished
loading.
ntitle2=<HEAD><TITLE>Netlet Loading</TITLE></HEAD>
nc3=<h2>Netlet is loading.</h2><p>The Netlet is still loading.
Once the Netlet has completed loading, click this button
to continue with your Netlet session.
nc4=<h2>Netlet is loading.</h2><p>Please wait while
the Netlet finishes loading. This message should change
once loading is complete.
macLoadErr=<h2>Netlet not loaded.</h2>
<p>Netlet is either not configured on your desktop or
use the link below to cause the Netlet to load.<P>
<A HREF="#"
onClick=" opener.location=' /DesktopServlet?action=content&provider=iwtFrontProv
ider&macload=dynamic'; setTimeout('window.close()', 4000);">Load Netlet
contButton=Continue

```

```
ntxcolor=#000000
nbgcolor=#FFFFFF

iwtNetlet-debug.on=On
iwtNetlet-debug.off=Off
iwtNetlet-debug.log=Log Messages
```

## Netlet 接続を使用した安全な FTP を有効にする

Service Pack 3a は、1 つの FTP サーバに FTP サービスを提供するように設計されており、エンドユーザのアカウントを制御できるようになっています。これにより、エンドユーザのシステムから 1 つの場所への安全なリモート FTP 転送が可能になります。

FTP の URL にユーザ名を含まない場合は、匿名の FTP 接続として解釈されます。

---

**注** Netlet FTP 規則で、必ずポート 30021 をクライアントポートとして定義してください。

---

- たとえば、安全な FTP の URL は次のようになります。

```
ftp://username@localhost:30021
```

- また、匿名の FTP URL は次のようになります。

```
ftp://localhost:30021
```

FTP サービスを 1 つの FTP サーバに対して設定するには、ユーザのデスクトップに静的な Netlet 規則を追加します。この場合、Netlet 接続を使用した動的な FTP はサポートされません。

### 静的な Netlet 規則を設定する

この Netlet 機能を使用するには、FTP リクエストをリッスンする Netlet 規則を作成する必要があります。

デフォルトのロールに対して静的な FTP Netlet 規則を作成するには、以下の手順で操作します。

1. 以下の URL で、ポータルコンソールにルートとしてログインします。

```
http://server.domain.subdomain:port/console
```

2. [ドメインの管理] を選択し、Netlet 規則を設定するドメインを選択します。
3. [デフォルトのロール] を選択します。
4. [アプリケーション] の横のキーを展開します。
5. [Netlet] を選択します。

6. [Netlet 規則] テキスト領域の下のフィールドを選択し、次のような Netlet 規則を追加します。

```
ftp|null|false|30021|your_ftp_server.your_domain|21
```

7. フィールドの下の [追加] を選択し、ページの下の方にある [送信] をクリックします。
8. 管理コンソールからログアウトします。

## Netlet プロキシを使用する

Netlet プロキシは、以下の理由で使用します。

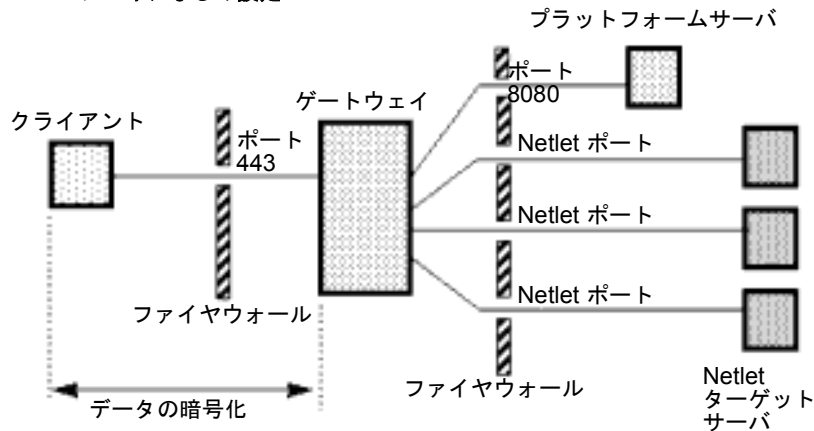
1. 非常に大規模な配備環境で、内部ファイヤウォールを介したゲートウェイから提供される余分な IP アドレスおよびポートの数を、最小限にするため。
2. プラットフォームサーバへのゲートウェイから iPlanet Portal Server サーバに対して、Netlet を介して各トランザクションの暗号化を提供するため。Netlet プロキシを使用すると、データの暗号化によりセキュリティを強化できますが、システムリソースの使用量が増える可能性があります。

---

**注** netlet ユーティリティを使って *nobody* として実行するように iPlanet Portal Server 3.0 を設定する場合は、「ユーザ Nobody として実行するようにゲートウェイコンポーネントを設定する」の項を読んでから、次の手順に従ってください。

---

### Netlet プロキシなしの設定



### Netlet プロキシを使った設定

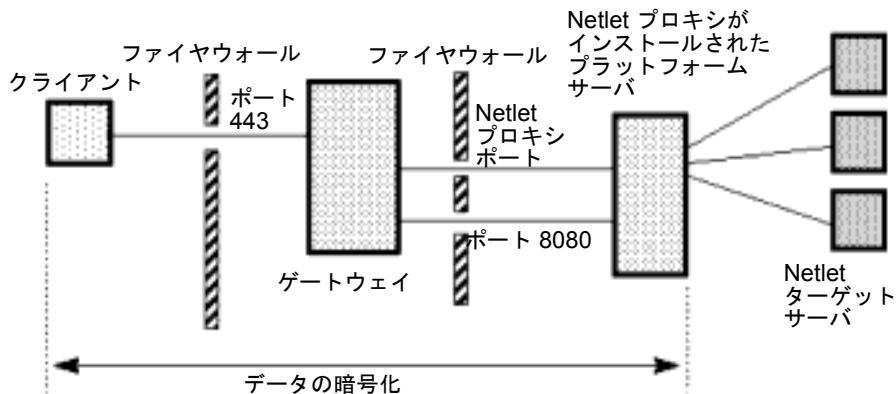


図 1 Netlet プロキシの実装

### Netlet プロキシを設定する

iPlanet Portal Server の管理コンソールで、以下の操作を行います。

1. ルートとしてログインします。
2. 左側のフレームから [ゲートウェイ管理] リンクを選択します。
3. 右側のフレームで [ゲートウェイプロファイルの管理] リンクを選択します。

4. [コンポーネントプロファイル: ゲートウェイ] ページで、以下の操作を行います。
  - a. ページの最後までスクロールし、[詳細オプションを表示] ボタンをクリックします。
  - b. ページの下の方にある [Netlet プロキシ - 有効] チェックボックスまでスクロールし、このボックスを選択して netlet プロキシを有効にします。
  - c. [Netlet プロキシポート] に、使用する未使用のポート番号を入力します (例、8048)。

---

ヒント      コマンドラインに、以下のように入力します。

```
netstat -a | grep <port_number> | wc -l
```

目的のポートが未使用で使用可能であるかどうかを判断します。

---

- d. ページの下の方にある [送信] ボタンをクリックして、プロファイルサーバに変更を保存します。
5. [プロファイルが更新されました] ページの [続行] ボタンをクリックします。

## Netlet プロキシの再起動を設定する

システムサーバを再起動するたびに Netlet プロキシが自動的に再起動されるように設定するには、iPlanet Portal Server サーバのコマンドラインインターフェースを使って以下の操作を行います。

---

注            複数の iPlanet Portal Server サーバを使用している場合は、各サーバに対しこの手順を繰り返してください。

ポータルサーバとゲートウェイを起動する前に、iPlanet Portal Server の管理コンソールで Netlet プロキシを設定します。詳細については、「Netlet プロキシを使用する」を参照してください。

---

ルートとして、端末ウィンドウで以下の操作を実行します。

```
cd /opt/SUNWips/bin
cp ipsnetletd /etc/rc3.d/K55ipsnetletd
cp ipsnetletd /etc/rc3.d/S55ipsnetletd
chmod 500 /etc/rc3.d/K55ipsnetletd
chmod 500 /etc/rc3.d/S55ipsnetletd
```

これにより、マシンを再起動するたびに netlet プロキシが自動的に *起動* します。

ただし、`ipsserver start` を使って iPlanet Portal Server 3.0 を再起動した場合、`netlet` プロキシは自動的に *起動しません*。

## Netlet とともに自動プロキシコンフィグレーションを使用する

Service Pack 3a では、自動プロキシコンフィグレーション (PAC) ファイルを使用するように設定された Web ブラウザを Netlet アプレットとともに使用できます。自動プロキシコンフィグレーション機能は、Netscape Navigator および Internet Explorer ブラウザでサポートされています。自動プロキシコンフィグレーションおよび PAC ファイルについては、Netscape の開発者向け Web サイトを参照してください。

## Javascript 内の Javascript 関数パラメータを置き換える

ゲートウェイは、JavaScript 変数や JavaScript 関数を、ゲートウェイプロファイル内にある、その変数または関数に特有の既存の規則に従って置き換えます。

ゲートウェイは、一致したパラメータを置き換えようとします。JavaScript の場合、一致するパラメータは JavaScript 変数または JavaScript 関数のいずれかとなります。

iPlanet Portal Server 管理コンソールのゲートウェイプロファイルのページには、置き換えの対象となる JavaScript 関数パラメータのリストがあります。このリストの各エントリのシンタックスは以下のとおりです。

```
java_script_function_name: [y|], [y|], ...
```

```
func1:y,,y
```

リストに上記のエントリがある場合、次のように入力して置き換えます。

```
<html>
 <script language="JavaScript">
 func1("func2('url2');", 500, "var var3='url3'");
 </script>
</html>
```

この場合、ゲートウェイは、`func2` と `var3` を置き換えようとします。

- URL 内に置き換えの対象となる JavaScript 変数の中に `var3` エントリがある場合は、`ur13` が置き換えられます。

- 置き換えの対象となる JavaScript 関数パラメータのリストに **func2:y** エントリがある場合は、**url2** が置き換えられます。

## JavaScript 内の JavaScript 変数を置き換える

このリストのエントリは JavaScript 変数の名前で、これらは JavaScript で表現され、ゲートウェイによって置き換えられます。

iPlanet Portal Server 管理コンソールのゲートウェイプロファイルのページには、JavaScript 内に置き換えの対象となる JavaScript 変数のリストがあります。

- o jsvarjs1
- o jsvarjs2

リストに上記のエントリがある場合、次のように入力して置き換えます。

```
<html>
 <script language="JavaScript">
 var jsvarjs1 = "var var1 = 'url1';" + some_var;
 var jsvarjs2 = "func2('url2');" + some_var;
 </script>
</html>
```

この場合、ゲートウェイは、jsvarjs1 と jsvarjs2 の右側を置き換えようとしています。

- URL 内に置き換えの対象となる JavaScript 変数の中に **var1** エントリがある場合は、**url1** が置き換えられます。
- 置き換えの対象となる JavaScript 関数パラメータのリストに **func2:y** エントリがある場合は、**url2** が置き換えられます。

## JavaScript 関数パラメータ関数を置き換える

ゲートウェイは、一致したパラメータを iplanet という関数を使ってラップします。この関数は、ブラウザがページを解釈する際に実際の置き換えを行うものです。

iPlanet Portal Server 管理コンソールのゲートウェイプロファイルのページには、置き換えの対象となる JavaScript 関数パラメータのリストがあります。このリストの各エントリのシンタックスは以下のとおりです。

```
java_script_function_name: [y|], [y|], ...
```

```
func1:y
```

リストに上記のエントリがある場合、次のように入力して置き換えます。

```
<html>
 <script language="JavaScript">
 ...
 func1("http://" + some_func() + some_var);
 </script>
</html>
```

この場合、出力は次のようになります。

```
<html>
 <script language="JavaScript">
 ...
 func1(iplanet("http://" + some_func() + some_var));
 function iplanet(url) {
 ...
 }
 </script>
</html>
```

iplanet 関数は、『iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide』第 8 章の「Rewriting JavaScript Variables Function」で説明しているのと同じものです。

## アプレット/オブジェクトパラメータ値リストを置き換える

置き換えの対象となるアプレットとオブジェクトパラメータ値のリストは、iPlanet Portal Server 管理コンソールのゲートウェイプロファイルのページを使用することによって編集できます。このリストの各エントリのシンタックスは以下のとおりです。



```
object_of_applet/object_url applet_class/object_classid
applet/object_parameter_name [url_pattern]
```

- url\_pattern が指定されていない場合、アプレットおよびオブジェクトパラメータの値は1つの URL として認識され、適宜置き換えられます。
- url\_pattern が指定されている場合は、一致するパターンに従って置き換えが行われます。
  - url\_pattern は、\* または \*\*、および元のパラメータ値で複数のフィールドを区切るために使用されている区切り記号で構成されています。ワイルドカード文字1つ (\*) は置き換えられない任意のフィールドに一致し、ワイルドカード文字2つ (\*\*) は置き換えられる任意のフィールドに一致します。区切り記号には、「,」や「|」などがあります。
  - 置き換えられる最後のフィールドを「\*\*」で示す必要はありません。つまり、url\_pattern はパラメータ値の文字列の最初に一致し、値の残りの部分は置き換えられる URL とみなされます。

たとえば、ゲートウェイが以下の URL に対するリクエストを受け取ったとします。

```
http://some_server/some_dir/some.html
```

この場合、応答は以下のようになります。

```
<html>
<applet archive=iplanet.jar code=iplanet.class>
<param name=server1 value="url1">
<param name=server2 value="url2">
<param name=server3 value="0|234|test|url3">
<param name=anotherParam value="yes,5,url4">
</applet>
<object classid="clsid:D27CDB6E-AE6D" codebase="url5"
<param name="movie" value="url6">
<param name="video" value="url7,2,url8">
</object>
</html>
```

置き換えの対象となるアプレットとオブジェクトパラメータ値のリストに次のようなエントリがある場合は、次の表 9 に示すように、対応する URL が置き換えられます。

表 9 アプレット/オブジェクトパラメータ値リストの置き換え

<code>some.html iplanet.class *</code>	object_of_applet/object_url がリクエスト URL のオブジェクトと一致しないため、パラメータ値の置き換えは行われません。
<code>/some_dir/some.html iplanet.class *</code>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>url1</code> と <code>url2</code> が置き換えられます。</li> <li>• <code>url3</code> と <code>url4</code> は置き換えられません。これらが埋め込まれている文字列の先頭が <code>/</code>、<code>http</code>、または <code>https</code> ではなく、URL とみなされないからです。</li> </ul>
<code>/some_dir/some.html iplanet2.class *</code>	<code>iplanet2.class</code> がアプレットコード属性またはオブジェクトクラス ID 属性の値と一致しないため、パラメータ値の置き換えは行われません。
<code>* * server* * * *</code>	<code>* * *</code> が <code>0 234 test </code> と一致するため、 <code>url3</code> が置き換えられます。
<code>/some_dir/some.html clsid:D27CDB6E-AE6D \ movie</code>	<code>url6</code> が置き換えられます。
<code>/some_dir/some.html clsid:D27CDB6E-AE6D \ video **,*,**</code>	最初の <code>**</code> が <code>url7</code> の位置に一致し、2 番目の <code>**</code> が <code>url8</code> の位置に一致するため、 <code>url7</code> と <code>url8</code> が置き換えられます。

## 選択プロパティキー

この機能により、ユーザは、選択したロケールで変更を確認することができます。

プロファイルを編集する際、英語ロケール以外のチャネルウィザードを使って作成されたチャネルに対し、選択した言語ロケールに翻訳された選択肢が表示されます。

## ファイルの検索

Service Pack 3a には、iPlanet™ Portal Server: Mobile Access Pack アーキテクチャをサポートするため、すべてのデータファイルタイプを検索できる汎用的なファイルパス検索ユーティリティが追加されました。

すべてのコンポーネントが同じユーティリティを使ってファイル検索を行います。ファイル検索には、以下のものがあります。

- デスクトップテンプレートの検索
- JSP ファイルの検索

このファイル検索ユーティリティは、属性の組み合わせを使って、検索するファイルパスのリストを作成します。これらの属性には、以下のものがあります。

- デスクトップタイプ
- ロケール
- コンポーネント名
- クライアントパス (オプション)

属性については、『iPlanet Portal Server: Mobile Access Pack Programmer's Guide』の「Appendix A」を参照してください。

以下の例では、次の値を持つ `foo.template` という名前のファイルを検索します。

- デスクトップタイプ: **myType**
- ロケール: **en\_US**
- コンポーネント名: **iwtMyChannel**
- クライアントパス: **wml/Nokia/generic**
- ファイル名: **foo.template**

ファイル検索ユーティリティにより、以下のパスが順番に検索され、最初に見つかったファイルが指定した名前とともに返されます。

```

/etc/opt/SUNWips/desktop/myType_en_US/iwtMyChannel/wml/Nokia/generic/foo.templ
ate
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType_en_US/iwtMyChannel/wml/Nokia/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType_en_US/iwtMyChannel/wml/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType_en_US/iwtMyChannel/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType_en_US/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType/iwtMyChannel/wml/Nokia/generic/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType/iwtMyChannel/wml/Nokia/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType/iwtMyChannel/wml/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType/iwtMyChannel/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/myType/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default_en_US/iwtMyChannel/wml/Nokia/generic/foo.templ
ate
/etc/opt/SUNWips/desktop/default_en_US/iwtMyChannel/wml/Nokia/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default_en_US/iwtMyChannel/wml/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default_en_US/iwtMyChannel/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default_en_US/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/iwtMyChannel/wml/Nokia/generic/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/iwtMyChannel/wml/Nokia/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/iwtMyChannel/wml/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/iwtMyChannel/foo.template
/etc/opt/SUNWips/desktop/default/foo.template

```

## プロバイダ API に追加された isPresentable() メソッド

Mobile Access Pack アーキテクチャでは、各チャンネルがそれぞれ特定のクライアントタイプに対してコンテンツを提示できるように自己識別する役目を担っています。各チャンネルは、セッションを通じてそのクライアントタイプにアクセスすることができ、それによって、そのクライアントタイプの出力形式をサポートできるかどうかを決定することができます。

チャンネルは、iPlanet Portal Server 3.0 セッションに保存されているクライアントタイプに基づき、クライアントデータにインデックスを付けることによって、そのチャンネルが提示可能であるかどうかを判断します。チャンネルは、提示可能であるかどうかを判断するために、任意のクライアントデータ要素を使用できます。たとえば、最も簡単なケースとして、チャンネルは次の条件でのみクライアントをサポートすると判断する場合があります。

```
contentType=text/html
```

出力が収集されてユーザに返される前に、各チャンネルは、クライアントタイプをサポートしているかどうかを尋ねなければなりません。このため、コンテンツが収集されるデスクトップコアの各場所に対し、まずコンテンツを収集するチャンネルがこの出力形式を生成できるかどうかを尋ねます。

iPlanet Portal Server 3.0 のチャンネルは、次の 2 つのメソッドでコンテンツを生成できます。

- `Provider.getContent()`
- `Provider.getEdit()`

`Provider.getContent()` は、メインチャンネルのコンテンツを返します。`Provider.getEdit()` は、チャンネルの編集ページを返します。

チャンネルは、デバイスごとにメインコンテンツまたは編集ページの出力をサポートできるという合図をデスクトップに出すことができます。

次の新しいプロバイダ API メソッドは、チャンネルが特定のクライアントに対してメインチャンネルコンテンツを返すことができるかどうかという情報を提供します。

```
public boolean isPresentable();
```

`isPresentable()` メソッドはプロバイダインタフェースの一部で、`ProviderAdapter` に実装されています。

## セッションのタイムアウトを最大値に設定する

セッションのタイムアウトは、分単位で設定できます。セッションタイムアウトを最大値に設定するには、管理コンソールで以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとして、iPlanet Portal Server の管理コンソールにログインします。
2. [ドメインの管理] を選択します。
3. 任意のドメイン名を選択します。
4. [プロファイル] の下にある [セッション] を選択します。
5. [最大アイドル時間] の値を最大値である **153722867280912930** に設定します。

6. [最大セッション時間] の値を最大値である **153722867280912930** に設定します。

7. [送信] を選択します。

## 将来のリリースでサポートされなくなる機能

以下の機能および製品は、iPlanet Portal Server 製品の将来のリリースではサポートされなくなります。

- iPlanet Portal Server 製品に現在付属しているファイヤウォールソフトウェア
- NetFile Lite
- GraphOn サーバおよびクライアント (クライアントはダウンロード可能)
- Citrix (ダウンロード可能)
- PCAnywhere Java クライアント (ダウンロード可能)
- メール確認チャンネル (メールチャンネルにより代替)

GraphOn クライアント、Citrix ソフトウェア、および PCAnywhere Java クライアントは、サードパーティソフトウェアとして iPlanet Portal Server 製品に含まれなくなりますが、iPlanet Portal Server 製品とともに使用できることに変わりはありません。これらのソフトウェアは、該当する各社の Web サイトから入手できます。

---

## ソフトウェアとハードウェアの要件

この節では、Service Pack 3a ソフトウェアのシステム要件について説明します。システム要件は、iPlanet Portal Server 3.0 製品の用途によって異なります。

- 表 10は、ポータルを開発するためのシステム要件をまとめたものです。
- 表 11は、ポータルを実装するためのシステム要件をまとめたものです。

**表 10** ポータルを開発するためのシステム要件

コンポーネント	説明
コンピュータのタイプ	2つの CPU を搭載した Ultra SPARC マシン
オペレーティング環境	Solaris™ 2.6、Solaris 7、Solaris 8
メモリー	iPlanet Portal Server の各コンポーネントには、最低 256M バイトのメモリーが必要です。

**表 10** ポータルを開発するためのシステム要件

コンポーネント	説明
パーティション容量	/tmp (スワップスペース) 500M バイト /var 500M バイト /usr 1G バイト /opt 1G バイト /etc 500M バイト インストールディレクトリ 500M バイト インストールディレクトリが /opt の場合は、このパーティションを 1.5G バイトに増加
ソフトウェア	他のソフトウェアと共存させることはできません。
パッチ	必要な、または推奨する Solaris のパッチは <code>./patches/&lt;Solaris_version&gt;/&lt;Solaris_version_patch_cluster&gt;</code> にあります。必要なパッチ、または推奨するパッチのインストールについては、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」を参照してください。
ネットワークインタフェース	ファイヤウォールがインストールされている場合、ゲートウェイには 2 つ以上のネットワークインタフェースが必要です。
Web ブラウザ	Netscape Communicator バージョン 4.06 以降 (ただしバージョン 4.6 を除く)、 または SSL バージョン 3.0 を搭載した Microsoft Internet Explorer バージョン 4.0 以降  JavaScript が使用可能であること
PATH 環境	PATH 環境には、 <code>/usr/sbin:/usr/bin</code> が含まれている必要があります。

**表 11** ポータルを実装するためのシステム要件

コンポーネント	説明
コンピュータのタイプ	2 つの CPU を搭載した Ultra SPARC マシン
オペレーティング環境	Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8
メモリー	CPU 2 つのセットアップごとに 1G バイトのメモリー。ポータルサーバに対して 2G バイトのスワップスペース。

表 11 ポータルを実装するためのシステム要件 (続き)

コンポーネント	説明
パーティション容量	/tmp (スワップスペース) 2G バイト /var 1G バイト /usr 1G バイト /opt 1G バイト /etc 500M バイト インストールディレクトリ 500M バイト インストールディレクトリが /opt の場合は、このパーティションを 1.5G バイトに増加
ソフトウェア	他のソフトウェアと共存させることはできません。
パッチ	必要な、または推奨する Solaris のパッチは、./patches/<Solaris のバージョン>/<Solaris のバージョンパッチクラスタ> にあります。必要なパッチ、または推奨するパッチのインストールについては、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」を参照してください。
ネットワークインタフェース	ファイヤウォールがインストールされている場合、ゲートウェイには 2 つ以上のネットワークインタフェースが必要です。
Web ブラウザ	Netscape Communicator バージョン 4.06 以降 (ただしバージョン 4.6 を除く)、 または SSL バージョン 3.0 を搭載した Microsoft Internet Explorer バージョン 4.0 以降  JavaScript が使用可能であること
PATH 環境	管理者であるユーザの PATH 環境には、/usr/sbin:/usr/bin が含まれている必要があります。

## Service Pack 3a のインストールに関する注意

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a は累積型のサービスパックです。これには、Service Pack 1、Service Pack 2、および Service Pack 3a のすべてのバグフィックスおよび関連ホットパッチフィックスが含まれています。このサービスパックを使用すると、iPlanet Portal Server ソフトウェアがインストールされていないマシンに iPlanet Portal Server をインストールしたり、以下のインストールからアップグレードすることができます。

- iPlanet Portal Server 3.0
- iPlanet Portal Server 3.0 + Service Pack 1
- iPlanet Portal Server 3.0 + Service Pack 2

## Service Pack 3a アップグレードのソフトウェア依存性

iPlanet Portal Server Service Pack 3a のインストールプロセスでは、iPlanet Portal Server 3.0 製品に対して、以下のコンポーネントをアップグレードできます。

- iPlanet Directory Server (iDS) 4.14
- iPlanet Web Server (iWS) 4.1 SP7
- JDK 1.2.2\_07
- JSS 2.1 (NSS 2.8.4 を含む)

---

注 ゲートウェイコンポーネントにインストールされている以前の SSL ライブラリ用の証明書は、Service Pack 3a をインストールすると自動的に必要な形式に変換されます。

---

## Service Pack 3a (iPS3.0SP3-01) ソフトウェアにアクセスする

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a (iPS3.0SP3-01) ソフトウェアにアクセスするには、2通りの方法があります。

- **iPlanet Web** ページから圧縮ファイルとしてダウンロード
- **CD-ROM** からアクセス

リリースノートの以下の項を参照してください。

- `iPS3.0SP3-01.tar` の内容 (**Web** サイトのソフトウェアパッケージの説明)
- **iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a CD-ROM** の内容(**CD-ROM** のソフトウェアパッケージの説明)

### `iPS3.0SP3-01.tar` の内容

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a (iPS3.0SP3-01) ソフトウェアは、一連の圧縮ファイルとして **iPlanet Web** ページからダウンロードできます。アセンブル後の `iPS3.0SP3-01.tar` には、以下のディレクトリとファイルが含まれています。圧縮ファイルのダウンロードおよびアセンブリ方法については、「iPlanet の **Web** ページから **Service Pack 3a** ソフトウェアをダウンロードする」を参照してください。

- **iPlanet Portal Server Service Pack 3a** のパッケージとスクリプト
  - `SUNwicgSA`
  - `SUNwicgSS`
  - `SUNWj2dem`
  - `SUNWj2dev`
  - `SUNWj2man`
  - `SUNWj2rt`



- SUNWwt doc
- SUNWwt ds
- SUNWwt dt
- SUNWwt fw
- SUNWwt gwd
- SUNWwt nf
- SUNWwt nm
- SUNWwt rw
- SUNWwt sam
- SUNWwt svd
- SUNWwt sdd
- SUNWwt ws
- attribute
- ipsinstall
- install
- patches
- locale
- property
- template
- update

## iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a CD-ROM の内容

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a ソフトウェアは、CD-ROM からインストールすることもできます。CD-ROM パッケージには、以下のディレクトリとファイルが含まれています。CD-ROM へのアクセス方法については、「CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする」を参照してください。

- iPlanet Portal Server Service Pack 3a のパッケージとスクリプト
  - SUNWicgSA
  - SUNWicgSS
  - SUNWj2dem
  - SUNWj2dev
  - SUNWj2man
  - SUNWj2rt

## インストールの準備をする

- SUNWwt doc
- SUNWwt ds
- SUNWwt dt
- SUNWwt fw
- SUNWwt gwd
- SUNWwt nf
- SUNWwt nm
- SUNWwt rw
- SUNWwt sam
- SUNWwt svd
- SUNWwt sdd
- SUNWwt ws
- attribute
- ipsinstall
- install
- uninstall
- patches
- locale
- property
- template
- update
- docs
- readme.txt

---

## インストールの準備をする

Service Pack 3a をインストールする前に、次の項を参照してインストールの準備を行なってください。

- インストールされているソフトウェアモジュール、カスタマイズ、サードパーティ製品
- iPlanet の Web ページから Service Pack 3a ソフトウェアをダウンロードする
- CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする

- 必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする
- サーバコンポーネントのプロセスを停止する
- プロキシとゲートウェイコンポーネントのプロセスを停止する
- サーバコンポーネントで使用される証明書を保存する
- サードパーティソフトウェアプロセスとチャンネルを停止する

---

**注**            以下の手順で tar および ps コマンドを使用する際には、/usr/bin にあるコマンドを使用してください。

---

## インストールされているソフトウェアモジュール、カスタマイズ、サードパーティ製品

iPlanet Portal Server 3.0 ソフトウェアが以前にインストールされていて、その他のモジュールをこのソフトウェアの上で実行するように設定してある場合は、追加したモジュールに関連するすべてのリリースノートとアップデートを必ずお読みください。パッチのインストールや、追加の設定が必要な場合もあります。また、Service Pack 3a をインストールする前に、カスタマイズした設定をアップグレード後に再び使用できるように、それらのカスタマイズ情報のバックアップや記録が必要な場合もあります。

iPlanet Portal Server 製品に CD として付属しているサードパーティソフトウェアは、iPlanet の Web サイト ([www.iplanet.com](http://www.iplanet.com)) からダウンロードできます。iPlanet の Web サイトにはサードパーティ用のダウンロードディレクトリがあり、そのディレクトリにサードパーティソフトウェアファイル `ThirdParty.tar.gz` があります。

Service Pack 3a リリースの iPlanet Portal Server 3.0 に付属しているサードパーティ製品をインストールする方法は、iPlanet Portal Server 3.0 リリースの場合と同じです。iPlanet Portal Server 製品に付属しているサードパーティソフトウェアのインストール方法については、『iPlanet Portal Server インストールガイド』の「付録 B」を参照してください。

---

**注**            アップグレード、現在の iPlanet Portal Server インストールの削除、および以前のインストールが自動的に削除されるようなインストールを行うと、Samba ソフトウェアが削除されます。

---

## iPlanet の Web ページから Service Pack 3a ソフトウェアをダウンロードする

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a ソフトウェアパッケージは、iPlanet.com の Web ページから入手できます。

<http://iplanet.com/downloads/patches>

## インストールの準備をする

Service Pack 3a 製品のダウンロードを容易にするために、ソフトウェアパッケージは 20M バイトのファイルに分割されています。Service Pack 3a 圧縮ファイルのほかに、checksums ファイルと assembleiPS3SP3 スクリプトをダウンロードして、分割された個々のファイルを 1 つの Service Pack 3a に戻します。以下、ダウンロード後にファイルの完全性を確認する方法と、インストールのためにファイルを結合する方法について説明します。

---

**注** iPlanet Portal Server 3.0 のインストールに、個別のゲートウェイとプラットフォームサーバが含まれている場合は、Service Pack 3a パッケージを両方のサーバにインストールする必要があります。

---

1. 端末のウィンドウで、ルートになります。
2. ディレクトリを /opt に変更し、Service Pack 3a のファイルをダウンロードするディレクトリを作成します。たとえば、次のように入力します。

```
cd /opt
mkdir ips_sp3
```

3. 手順 2 で作成したディレクトリに、次のファイルをダウンロードします。
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.aa
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ab
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ac
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ad
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ae
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.af
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ag
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ah
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ai (ftp サイトでのこのファイルの名前は iPS3.0SP3-01.tar.gz.es です)
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.aj
  - o iPS3.0SP3-01.tar.gz.ak
  - o PS3.0SP3-01.tar.gz.al
  - o checksums

- assembleIPS3SP3
4. /opt/ips\_sp3 で、assembleIPS3SP3 スクリプトを実行し、ファイルがすべて揃っていること、およびファイルのデータが破損していないことを確認します。

```
cd /opt/ips_sp3/
./assembleIPS3SP3
```

スクリプトによって、必要なファイルがすべて揃っていること、およびデータが破損していないことが確認されると、1つの tar ファイル (iPS3.0SP3-01.tar.gz) が作成されます。この tar ファイルには、すべての Service Pack 3a パッケージが含まれています。

5. gunzip コマンドを実行して、iPS3.0SP3-01.tar.gz ファイルを解凍します。

```
gunzip iPS3.0SP3-01.tar.gz
```

6. tar コマンドを実行して、iPS3.0SP3-01.tar ファイルの内容を抽出します。

```
/usr/bin/tar -xvf iPS3.0SP3-01.tar
```

---

注            Solaris バージョンの tar コマンドを使用してください。

---

## 必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする

iPlanet Portal Server 製品には、iPlanet Portal Server ソフトウェアに必要な、または推奨されている Solaris パッチが付属しています。/opt/ips\_sp3/patches ディレクトリに、サポートされている各 Solaris バージョン用のパッチディレクトリがあります。iPlanet Portal Server 製品をインストールする Solaris のバージョンに対応するディレクトリ内のパッチを使用してください。Solaris パッチは、定期的にアップデートされ、[www.sunsolve.sun.com](http://www.sunsolve.sun.com) からダウンロードできます。

## インストールの準備をする

必要な、または推奨する Solaris パッチをインストールするには、以下の操作を行います。

1. ルートとして、iPlanet Portal Server 製品がインストールされている Solaris オペレーティングシステムのバージョンに対応するパッチのディレクトリに移動します。たとえば、iPlanet Portal Server 製品が Solaris 8 にインストールされている場合は、次のように入力します。

```
cd /opt/ips_sp3/patches/solaris8/solaris_2.8_patch_cluster
```

2. `install_cluster` インストールスクリプトを実行します。

```
./install_cluster
```

3. コンピュータを再起動します。

```
reboot
```

## CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする

1. ルートとして、iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。

```
volcheck
```

## Service Pack 3a リリースノートにアクセスする

ルートとして、ディレクトリをドキュメントディレクトリに変更します。Service Pack 3a リリースノートは、このディレクトリ内に 2 種類の文書形式で含まれています。両方とも、ハードディスクにコピーして後で参照できます。

```
cd /cdrom/cdrom0/docs/<document_format>/
```

## CD-ROM から必要な Solaris パッチをインストールする

1. ルートとして、ディレクトリを、iPlanet Portal Server 製品をインストールする Solaris オペレーティングシステムのバージョンに対応するパッチディレクトリに変更します。たとえば、iPlanet Portal Server 製品を Solaris 8 にインストールする場合は、次のように入力します。

```
cd /cdrom/cdrom0/patches/solaris8/solaris_2.8_patch_cluster
```

2. `install_cluster` インストールスクリプトを実行します。

```
./install_cluster
```

3. コンピュータを再起動します。

```
reboot
```

## サーバコンポーネントのプロセスを停止する

Service Pack 3a ソフトウェアをアップグレードまたはインストールする前に、次のサービスを停止します。

- ディレクトリサーバ
- Web サーバ

---

**注** 以下の説明では、インストールディレクトリが `/opt` であると仮定しています。

---

- 以下のコマンドを実行して、実行中のディレクトリサーバおよび **Web** サーバのプロセスを確認します。現在実行中のプロセスを表示することによって、プロセス停止後にコマンドを再実行し、プロセスが停止したことを確認できます。

```
/usr/bin/ps -eo pid,args | grep /opt/netscape
446 ./ns-slapd -f
/opt/netscape/directory4/slapd-siroe/config/slapd.conf -i /opt/
467 ns-httpd -d
/opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/con
458 ./uxwdog -d /opt/netscape/server4/https-admserv/config
466 ./uxwdog -d
/opt/netscape/server4/https-siroe.iplanet.com/con
459 ns-httpd -d /opt/netscape/server4/https-admserv/config
29857 ./ns-admin -d /opt/netscape/directory4/admin-serv/config
```

この例では、プロセス ID 番号は以下の各プロセスに対応しています。

プロセス ID	プロセス
446	ディレクトリサーバプロセス
467	Web サーバプロセス
458	Web サーバ管理サービスのウォッチドッグプロセス
466	Web サーバのウォッチドッグサービス
459	Web サーバの管理サービス
29857	ディレクトリサーバの管理サービス

- iPlanet Portal Server** サーバコンポーネントを停止します。これにより、ディレクトリサーバおよび **Web** サーバのプロセスが停止します。
  - iPlanet Portal Server 3.0** または **iPlanet Portal Server Service Pack 1** を実行している場合は、サーバコンポーネントを起動して停止します。

```
/etc/init.d/ipsserver start
stopping auth helpers ... done.
stopping web server ... done.
stopping directory server ... done.
starting auth helpers ... done.
starting directory server ... done.
starting web server ... done.
/etc/init.d/ipsserver stop
stopping auth helpers ... done.
```



```
stopping web server ... done.
stopping directory server ... done.
```

- iPlanet Portal Server Service Pack 2 を実行している場合は、サーバコンポーネントを停止します。

```
/etc/init.d/ipsserver stopall
stopping auth helpers ... done.
stopping web server ... done.
stopping directory server ... done.
```

3. ディレクトリサーバおよび Web サーバのプロセスがすべて停止されたことを確認します。手順 1 で実行されていたプロセスは、表示されなくなります。

```
/usr/bin/ps -eo pid,args | grep /opt/netscape
```

- 他にも実行中のプロセスがある場合は、iPlanet Portal Server で実行中の各ディレクトリサーバプロセスまたは Web サーバプロセスに対し、`kill -TERM process_ID` を実行します。たとえば、次のように入力します。

```
kill -TERM 446
```

## プロキシとゲートウェイコンポーネントのプロセスを停止する

Service Pack 3a をアップグレードまたはインストールする前に、次のプロセスを停止する必要があります。

- ipshhttpd プロキシプロセス
- ipsnetletd プロキシプロセス

## インストールの準備をする

- ゲートウェイコンポーネントプロセス
1. 以下のコマンドを実行して、実行中のゲートウェイプロセスを確認します。現在実行中のプロセスを表示することによって、プロセス停止後にコマンドを再実行し、プロセスが停止したことを確認できます。

```
/usr/bin/ps -eo pid,args|grep java
481 /usr/java/bin/../jre/bin/../bin/sparc/native_threads/java
-ms32m -mx128m -class
503 /usr/java/bin/../jre/bin/../bin/sparc/native_threads/java
-ms32m -mx128m -class
741 /usr/jave/bin/../jre/bin/../bin/sparc/native_threads/java
-ms32m -mx128m -class
```

この例では、プロセス ID 番号は以下の各プロセスに対応しています。

プロセス ID	プロキシプロセス
481	ipshttpd プロセス
503	ipsnetletd プロセス
741	gateway プロセス

2. サーバコンポーネントで実行中の `ipshttpd` プロキシまたは `ipsnetletd` プロキシを停止します。

```
/opt/SUNWips/bin/ipshttpd stop
/opt/SUNWips/bin/ipsnetletd stop
```

3. iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネントを停止します。

```
/etc/init.d/ipsgateway stop
```

4. プロセスが停止したことを確認します。手順 1 で実行されていたプロセスは、表示されなくなります。

```
/usr/bin/ps -eo pid,args|grep java
```

- 他にも実行中のプロセスがある場合は、**iPlanet Portal Server** で実行中の各プロセスに対し、`kill -TERM process_id` を実行します。たとえば、次のように入力します。

```
kill -TERM 481
```

## サードパーティソフトウェアプロセスとチャンネルを停止する

**Service Pack 3a** のクリーンインストールまたはアップグレードを行う前に、**iPlanet Portal Server** 製品にデータを送る **iPlanet Portal Server** サードパーティソフトウェアおよびチャンネルをすべて停止します。

チャンネルによっては **iPlanet Portal Server** のディレクトリに書き込みを行うものもあるため、**iPlanet Portal Server** 製品にデータを送るチャンネルを停止することは特に重要です。たとえば、**iSyndicate** は `/var/opt/SUNWips/debug` に書き込みを行い、**Service Pack 3a** のインストールに問題を起こします。

チャンネルおよびサードパーティソフトウェアの停止方法については、該当する各マニュアルを参照してください。

## サーバコンポーネントで使用される証明書を保存する

**iPlanet Portal Server** サーバコンポーネントで証明書を使用している場合は、アップグレードを行う前に証明書を安全な場所に保存し、アップグレードの完了後に復元します。

以下の説明では、インストールディレクトリが `/opt` であることを仮定しています。

証明書を保存するための手順を、次に示します。

1. ルートとして、ディレクトリを証明書ディレクトリに変更します。以下の例では、`/opt` が基本ディレクトリです。

```
cd /opt/netscape/server4
```

2. エイリアスディレクトリの `tar` ファイルを作成し、安全な場所にコピーします。次の例では、圧縮したエイリアスディレクトリを `/usr/tmp` にコピーしています。

```
tar cf /usr/tmp/alias.tar alias
```

iPlanet Portal Server 製品を Service Pack 3a にアップグレードする方法については、「Service Pack 3a にアップグレードする」を参照してください。

---

## インストールに関する説明

Service Pack 3a インストールスクリプトでは、既存のバージョンをアップグレードするか、クリーンインストールを行うかを選択できます。アップグレードのオプションを選択すると、iPlanet Portal Server製品が Service Pack 3a にアップグレードされます。

クリーンインストールを実行すると、既存の iPlanet Portal Server ソフトウェアインストールがすべて削除されます。クリーンインストールは、既存のインストールに問題があり、新しくインストールすることでこの問題を解決できる可能性がある場合などに便利です。

---

**注** Service Pack 3a ソフトウェアは、iPlanet Portal Server がインストールされていないマシンに新しくインストールすることも可能です。

---

### サンプルマシン名

以下の表に、コード例に使用されるマシン名およびそれに対応する iPlanet Portal Server のタイプを示します。

**表 12** サンプルマシン名

マシン名	iPlanet Portal Server コンポーネントのタイプ
siroe	プロファイルサーバとして動作する iPlanet Portal Server サーバコンポーネント
varrius	複数サーバインストールで、プロファイルサーバとして使用されていない iPlanet Portal Server サーバコンポーネント
sesta	iPlanet Portal Server ゲートウェイコンポーネント

ここで説明するインストール手順は、以下のインストールタイプに基づいて分類されています。実行するインストールのタイプにあった手順を選択してください。

- Service Pack 3a にアップグレードする
  - 標準アップグレード
  - ルートでないユーザ ID によるインストールを Service Pack 3a にアップグレードする

- ユーザ **Nobody** を **Service Pack 3a** にアップグレードする
- クリーンインストール
  - 1 台のマシンを使用したオープンポータルインストール
  - 複数のマシンを使用したオープンポータルインストール
  - 単一サーバを使用したセキュアポータルインストール (その後ゲートウェイコンポーネントのインストールを実行)
  - 複数サーバを使用したセキュアポータルインストール (その後ゲートウェイコンポーネントのインストールを実行)
  - ゲートウェイコンポーネントのインストール

---

**注**            **iPlanet Portal Server 3.0** ソフトウェアがインストールされていて、その他のモジュールをこのソフトウェアの上で実行するように設定してある場合は、追加したモジュールに関連するすべてのリリースノートとアップデートを必ずお読みください。特に、**Compass 3.01C** のリリースノートは重要です。このリリースノートは <http://docs.iplanet.com> から入手できます。

---

## Service Pack 3a にアップグレードする

---

**注**            ルートでないユーザ、およびユーザ **nobody** のアップグレードを行う場合は、次のリリースノートの対応する箇所を参照してください。

- ルートでないユーザ **ID** によるインストールを **Service Pack 3a** にアップグレードする
- ユーザ **Nobody** を **Service Pack 3a** にアップグレードする

---

### 標準アップグレード

**Samba** ソフトウェアがインストールされている場合は、この手順を実行すると、その **Samba** ソフトウェアが削除されます。**iPlanet Portal Server** 製品に付属の **Samba** ソフトウェアおよび他のサードパーティソフトウェアは、[www.iplanet.com](http://www.iplanet.com) からダウンロードできる **ThirdParty.tar.gz** に含まれています。**Samba** ソフトウェアのインストール方法については、『**iPlanet Portal Server** インストールガイド』の「付録 B」を参照してください。

以下に、**iPlanet Portal Server** ソフトウェアをアップグレードするための手順を示します。

1. **iPlanet Portal Server 3.0** インストールのバックアップを行います。
2. **iPlanet Portal Server** プロセスが実行中の場合は、すべての **iPlanet Portal Server** プロセスを停止します。

詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

**注** US 版以外のインストールの場合は、`./ipsinstall` の代わりに、該当するロケール (`de`、`fr`、`es`、`ja`、または `zh`) で `./install` を実行してインストールプロセスを開始してください。

---

## CD-ROM からインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。
2. ディレクトリを `/cdrom/cdrom0` に変更して、`ipsinstall` スクリプトを実行します。

```
volcheck
cd /cdrom/cdrom0
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## Service Pack 3a ディレクトリからインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、ディレクトリを `/opt/ips_sp3` に変更します。
2. `ipsinstall` スクリプトを実行します。  
`ipsinstall` スクリプトは、そのスクリプトがあるディレクトリから実行する必要があります。

```
cd /opt/ips_sp3
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト

以下に、このインストールのインストールスクリプトによる応答の例を示します。

### 1. Service Pack 3a の使用許諾契約画面が表示されます。

使用許諾契約に同意してインストールを続行するには、「**yes**」と入力します。

```

iPlanet Portal Server (3.0-SP3a release)

Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.2406/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes

```

---

**注**           Solaris パッチが足りない場合は、警告メッセージが表示されます。必要な Solaris パッチのインストール方法については、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」または「CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする」を参照してください。

---

インストール先のマシン名および IP アドレス情報がスクリプトにより仮定されます。そのマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスがポータルに対して正しいものであることを確認してください。

### 2. デフォルト値を受け入れるか、正しい名前と IP アドレス情報を入力します。

```

Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [siroe]
What is the subdomain (". " for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]

Inspecting iPS components.

```

タスクメニューが表示されます。

3. 既存の iPlanet Portal Server インストールをアップグレードするには、「1」と入力します。

```
Options:
1) Continue upgrade
2) Continue as a clean install (current installation will be
removed)
3) Continue install (current installation will not be removed)
4) Remove current installation
5) Exit
Choice? [5] 1
```

---

**注** 実行中の iPlanet Portal Server プロセスがある場合は、警告メッセージおよびプロセス情報が表示されます。検出されたプロセスが iPlanet Portal Server 関連のものである場合は、アップグレードを中止し、続行する前にプロセスを停止する必要があります。詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」および「プロキシとゲートウェイコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

---

**注** iPlanet Portal Server 製品が必要とするポートが使用中の場合は、警告メッセージおよびポート情報が表示されます。iPlanet Portal Server 製品が必要とするポートが他のアプリケーションによって使用されている場合は、アプリケーションを終了し、ポートが閉じるのを待ってから作業を進めてください。

---

以下のステータスが表示されます。

```
Reading current configuration.

Checking running status.

Pre-upgrade processing.

Installing server.
Installing SUNWwtsdd...
Installing SUNWwtws...
Installing SUNWwtsvd...
Installing SUNWwtdt...
Installing SUNWwtm...
Installing SUNWwtmf...
Installing SUNWwtrw...
Installing SUNWwtldoc...
```



```
Installing SUNWwtsam...
Installing SUNWwtDs...

Starting server.

Installing gateway.
Installing SUNWwtgwd...

Starting gateway.

Post-upgrade processing.

Starting server.

Starting gateway.

Upgrade complete.
Please look in /var/sadm/install/logs/ipsinstall.611
for saved certificates, attributes, properties and templates.
If you have made any customizations to iPS before this upgrade,
you may need to merge your changes back.
```

アップグレードが完了すると、画面にプロンプトが表示されます。

`/var/sadm/install/logs/ipsinstall.<process.id>/install.log`を見て、アップグレード中にエラーが発生しなかったかどうかを確認します。

以前の **iPlanet Portal Server** インストールをカスタマイズしていた場合は、「カスタマイズした設定を復元する」を参照してください。

## カスタマイズした設定を復元する

以前の **iPlanet Portal Server** インストールをカスタマイズしていた場合、その内容はインストールスクリプトによって `/var/sadm/install/logs/ipsinstall.<process_id>` に保存されます。一般に、**Service Pack 3a** でカスタマイズ内容を復元する手順は、最初にカスタマイズを行なった時の手順と同じです。以前のカスタマイズ内容を復元する場合は、**iPlanet Portal Server** 製品を実行し、適切に復元されたかどうかを確認する必要があります。カスタマイズ内容によっては、**Service Pack 3a** の新機能に影響されるものもあります。

---

**ヒント**      `diff` コマンドを使用して **Service Pack 3a** より前のファイルと新しい **Service Pack 3a** ファイルを比較することによって、変更箇所を表示し、以前のカスタマイズ内容を復元できます。

---

証明書を復元する方法については、「インストール後の作業」を参照してください。

## クリーンインストール

ここでは、iPlanet Portal Server Service Pack 3a のサーバおよびゲートウェイコンポーネントのクリーンインストールについて説明します。クリーンインストールは、次のような場合に実行できます。

- 新しいマシンに新バージョンの iPlanet Portal Server ソフトウェアをインストールする
- 旧バージョンの iPlanet Portal Server ソフトウェアがインストールされている

旧バージョンの iPlanet Portal Server ソフトウェアがインストールされているマシンに Service Pack 3a をインストールすると、旧バージョンは完全に削除され、新しいインストールに置き換えられます。

旧バージョンとともに Samba ソフトウェアがインストールされている場合は、クリーンインストールを実行すると Samba ソフトウェアも削除されます。iPlanet Portal Server 製品に付属の Samba ソフトウェアおよび他のサードパーティソフトウェアは、www.iplanet.com からダウンロードできる ThirdParty.tar.gz に含まれています。Samba ソフトウェアのインストール方法については、『iPlanet Portal Server インストールガイド』の「付録 B」を参照してください。

### 1 台のマシンを使用したオープンポータルインストール

オープンポータルモードでは、暗号化サービスと URL の置き換えを行うゲートウェイは必要ありません。詳細については、「オープンポータルモード」を参照してください。

1 台のマシンにサーバコンポーネントをインストールするための手順を、次に示します。

1. iPlanet Portal Server 3.0 インストールのバックアップを行います。
2. iPlanet Portal Server プロセスが実行中の場合は、すべての iPlanet Portal Server プロセスを停止します。

詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

注 US 版以外のインストールの場合は、./ipsinstall の代わりに、該当するロケール (de、fr、es、ja、または zh) で ./install を実行してインストールプロセスを開始してください。

---

### CD-ROM からインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。
2. ディレクトリを /cdrom/cdrom0 に変更して、ipsinstall スクリプトを実行します。

```
volcheck
cd /cdrom/cdrom0
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## Service Pack 3a ディレクトリからインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、ディレクトリを /opt/ips\_sp3 に変更します。
2. ipsinstall スクリプトを実行します。

ipsinstall スクリプトは、そのスクリプトがあるディレクトリから実行する必要があります。

```
cd /opt/ips_sp3
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト

以下に、このインストールのインストールスクリプトによる応答の例を示します。

1. Service Pack 3a の使用許諾契約書の画面が表示されます。

使用許諾契約に同意して、インストールを続行するには、「**yes**」と入力します。

```

iPlanet Portal Server (3.0-SP3a release)

Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.28532/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes
```

---

**注** Solaris パッチが足りない場合は、警告メッセージが表示されます。必要な Solaris パッチのインストール方法については、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」または「CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする」を参照してください。

---

インストール先のマシン名および IP アドレス情報がスクリプトにより仮定されます。そのマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが iPlanet Portal Server コンポーネントに対して正しいものであることを確認してください。

2. デフォルト値を受け入れるか、正しい名前と IP アドレス情報を入力します。

```
Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [siroe]
What is the subdomain (". " for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]

Inspecting iPS components.
```

タスクメニューが表示されます。

3. iPlanet Portal Server コンポーネントのクリーンインストールを行うには、「2」を選択します。

新しいマシンでクリーンインストールを行う場合、「current installation will be removed」というメッセージは表示されません。

```
Options:
1) Continue upgrade
2) Continue as a clean install (current installation will be removed)
3) Continue install (current installation will not be removed)
4) Remove current installation
5) Exit
Choice? [5] 2

Removing current installation.
```

4. コンポーネントメニューが表示されます。

サーバコンポーネントをインストールするには、「1」を選択します。

```
Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 1
```

5. デフォルトのインストールディレクトリを受け入れるか、別のインストールディレクトリを入力します。

```
What directory to install in? [/opt]
```

6. オープンポータルインストールを行うので、「y」を選択します。

```
Will this be an open portal install? y/[n]
```

7. サーバコンポーネントとの通信に、SSL (Secure Sockets Layer) を使用するかどうかを選択します。SSL を使用すると、サーバとの暗号化通信が可能になります。iPlanet Portal Server 製品で SSL を使用する 方法については、『iPlanet Portal Server Administration Guide』を参照してください。

```
Are the servers using SSL protocol? y/[n]
```

8. 単一サーバインストールを行うので、「n」を選択します。

```
Is this a multiple server install? y/[n]
```

9. デフォルトのプロファイルサーバのポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

```
The profile server will run on siroe.iplanet.com
On what port will the profile server run? [8080]
```

10. Return キーを押してデフォルトのロールツリールートを受け入れるか、別の名前を入力します。

What is the root of the profile role tree? [iplanet.com]

---

**注**            ロール (役割) ツリーのルート名に、必ずしも DNS ドメイン名と同じ名前を使用する必要はありません。任意の名前を付けることができます。ロールツリーについては、『**iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide**』の第 1 章を参照してください。

---

**11.** デフォルトを受け入れるか、正しいルートユーザ名を入力します。

What is the user for the profile role tree? [root]

**12.** デフォルトのディレクトリサーバのポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

On what port will the directory server run? [389]

**13.** デフォルトの管理者ポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

What is the administrator port for the web server? [8088]

パスフレーズの入力と確認を求められます。このパスフレーズは、ルートユーザのパスワードではありません。パスフレーズは、サーバへの SSL 通信と、iPlanet Web サーバ管理コンソールへのアクセスのために内部で使用されます。

**14.** パスフレーズを入力し、確認します。

```
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :
```

設定が表示され、これらの設定が正しいかどうかを確認するメッセージが表示されます。

15. サーバをインストールするには「y」と入力します。サーバパッケージがインストールされます。

```
Server settings
Installation Directory : /opt
Server List : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
LDAP Port : 389
LDAP Admin Port : 8900
Web Server Admin Port : 8088
Start Server : y
Are these settings correct? [y]/n
```

---

注 「n」を選択すると、質問が繰り返されるので、必要に応じて設定を変更できます。

---

インストールスクリプトによって、以下のパッケージがインストールされます。

```
Installing server.
Installing SUNWwtsdd...
Installing SUNWwtws...
Installing SUNWwtsvd...
Installing SUNWwt dt...
Installing SUNWwt nm...
Installing SUNWwt nf...
Installing SUNWwt rw...
Installing SUNWwt doc...
Installing SUNWwt sam...
Installing SUNWwt ds...
```

インストールプロセスが完了すると、サーバコンポーネントが自動的に起動します。

単一サーバマシンで iPlanet Portal Server 製品の複数インスタンスを設定する方法については、「iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する」を参照してください。

## 複数のマシンを使用したオープンポータルインストール

オープンポータルモードでは、暗号化サービスと URL の置き換えを行うゲートウェイは必要ありません。詳細については、「オープンポータルモード」を参照してください。

---

**注**           サーバコンポーネントを複数のマシンにインストールする場合は、1 つのマシンをプロファイルサーバとして指定し、他のサーバがこのサーバをプロファイルサーバとして参照するように設定します。

---

サーバコンポーネントをインストールするための手順を、次に示します。

1. iPlanet Portal Server 3.0 インストールのバックアップを行います。
2. iPlanet Portal Server プロセスが実行中の場合は、すべての iPlanet Portal Server プロセスを停止します。

詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

**注**           US 版以外のインストールの場合は、./ipsinstall の代わりに、該当するロケール (de、fr、es、ja、または zh) で ./install を実行してインストールプロセスを開始してください。

---

## CD-ROM からインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。
2. ディレクトリを /cdrom/cdrom0 に変更して、ipsinstall スクリプトを実行します。

```
volcheck
cd /cdrom/cdrom0
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。



## Service Pack 3a ディレクトリからインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、ディレクトリを `/opt/ips_sp3` に変更します。
2. `ipsinstall` スクリプトを実行します。  
`ipsinstall` スクリプトは、そのスクリプトがあるディレクトリから実行する必要があります。

```
cd /opt/ips_sp3
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト

以下に、このインストールのインストールスクリプトによる応答の例を示します。

1. Service Pack 3a の使用許諾契約書の画面が表示されます。  
使用許諾契約に同意して、インストールを続行するには、「**yes**」と入力します。

```

iPlanet Portal Server (3.0-SP3a release)

Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.28532/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes
```

---

**注** Solaris パッチが足りない場合は、警告メッセージが表示されます。必要な Solaris パッチのインストール方法については、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」または「CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする」を参照してください。

---

インストール先のマシン名およびIPアドレス情報がスクリプトにより仮定されます。そのマシンが複数のIPアドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示されたIPアドレスがiPlanet Portal Serverに対して正しいものであることを確認してください。

2. デフォルト値を受け入れるか、正しい名前とIPアドレス情報を入力します。

```
Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [siroe]
What is the subdomain (". " for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]

Inspecting iPS components.
```

タスクメニューが表示されます。

3. iPlanet Portal Server コンポーネントのクリーンインストールを行うには、「2」を選択します。

```
Options:
1) Continue upgrade
2) Continue as a clean install (current installation will be removed)
3) Continue install (current installation will not be removed)
4) Remove current installation
5) Exit
Choice? [5] 2
```

コンポーネントメニューが表示されます。

4. サーバコンポーネントをインストールするには、「1」を選択します。

```
Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 1
```

5. デフォルトのインストールディレクトリを受け入れるか、別のインストールディレクトリを入力します。

```
What directory to install in? [/opt]
```

6. オープンポータルインストールを行うので、「**y**」を選択します。

```
Will this be an open portal install? y/[n] y
```

7. サーバコンポーネントとの通信に、SSL (Secure Sockets Layer) を使用するかどうかを選択します。SSL を使用すると、サーバとの暗号化通信が可能になります。iPlanet Portal Server 製品で SSL を使用方法については、『iPlanet Portal Server Administration Guide』を参照してください。

```
Are the servers using SSL protocol? y/[n]
```

8. 複数サーバインストールを行うので、「**y**」を選択します。

```
Is this a multiple server install? y/[n] y
```

9. ローカルコンピュータをプロファイルサーバに指定するかどうかを選択します。
- ローカルコンピュータをプロファイルサーバにするには「**y**」と入力します。プロファイルサーバが他のコンピュータにインストールされていない場合は、「**y**」と入力してローカルコンピュータをプロファイルサーバにすることができます。手順 11 へ進んでください。
  - 他のコンピュータにプロファイルサーバをすでにインストールしている、またはこれからインストールする場合は、「**n**」と入力します。手順 10 へ進んでください。

```
Should the local machine be the profile server? [y]/n
```

---

**注** Service Pack 3a環境で複数のマシンにインストールしたサーバコンポーネントを使用する場合は、1台のサーバにのみプロファイルサーバをインストールし、他のすべてのサーバがそのプロファイルサーバを参照するように設定します。

---

ローカルマシンがプロファイルサーバでない場合は、プロファイルサーバに関する情報の入力を求められます。

- 10.** プロファイルサーバ情報を入力します。インストール先のマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが **iPlanet Portal Server** コンポーネントに対して正しいものであることを確認します。手順 12 へ進んでください。

```
On what hostname will the profile server run? [MyProfileServer] siroe
What is the sub-domain name for siroe("." for none)? []
What is the domain name for siroe? [iplanet.com]
On what port will siroe run? [8080]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]
```

ローカルコンピュータをプロファイルサーバにする場合は、プロファイルサーバのポート番号を尋ねられます。

- 11.** デフォルトのプロファイルサーバのポート番号を受け入れるか、正しいポート番号を入力します。

```
The profile server will run on siroe.iplanet.com
On what port will the profile server run? [8080]
```

- 12. Return** キーを押してデフォルトのロールツリールートを受け入れるか、別の名前を入力します。

```
What is the root of the profile role tree? [iplanet.com]
```

---

**注**            ロール (役割) ツリーのルート名に、必ずしも DNS ドメイン名と同じ名前を使用する必要はありません。任意の名前を付けることができます。ロールツリーについては、『iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide』の第 1 章を参照してください。

---

**13.** デフォルトのルートユーザ名を受け入れるか、正しいルートユーザ名を入力します。

```
What is the user for the profile role tree? [root]
```

**14.** デフォルトのディレクトリサーバのポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

```
On what port will the directory server run? [389]
```

- ローカルコンピュータがプロファイルサーバではない場合は、手順 16 へ進みます。
  - ローカルマシンがプロファイルサーバの場合は、以下に示すような **Service Pack 3a** 製品のサーバコンポーネントに関する質問が表示されます。手順 15 へ進んでください。
- 15.** サーバコンポーネント情報を入力します。手順 17 へ進んでください。

ローカルコンピュータをプロファイルサーバに指定し、複数のサーバコンポーネントを使用する場合は、希望するすべてのサーバコンポーネントに関する情報を入力し終わるまで、一連のメッセージが繰り返し表示されます。インストール先のマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが iPlanet Portal Server コンポーネントに対して正しいものであるかどうかを確認してください。

メッセージは繰り返し表示されるので、複数サーバ環境で各サーバコンポーネントに対する名前と IP アドレス情報を入力できます。サーバコンポーネントに関する必要な情報をすべて入力したら、「.」(ピリオド)を入力してください。

```
On what hostname will the server run (". " when done)? [MyServer] varrius
What is the sub-domain name for varrius (". " for none)? []
What is the domain name for varrius? [iplanet.com]
On what port will varrius run? [8080]
What is the ip address of varrius.iplanet.com? [192.168.01.02]
On what hostname will the next server run (". " when done)? [MyServer] .
```

16. インストール先のマシンのデフォルトのサーバポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

```
On what port will the server run on this machine? [8080]
```

17. デフォルトの Web サーバの管理者ポート番号を受け入れるか、正しいポート番号を入力します。

```
What is the administrator port for the web server? [8088]
```

パスフレーズの入力と確認を求められます。このパスフレーズは、ルートユーザのパスワードではありません。パスフレーズは、サーバへの SSL 通信と iPlanet Web サーバ管理コンソールへのアクセスのために内部で使用されます。

18. パスフレーズを入力し、確認します。

```
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :
```

設定が表示され、これらの設定が正しいかどうかを確認するためのメッセージが表示されます。

19. サーバをインストールするには「**y**」と入力します。サーバパッケージがインストールされます。

```

Server settings
Installation Directory : /opt
Server List : http://siroe.iplanet.com:8080
 : http://varrius.iplanet.com:8080
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
LDAP Port : 389
LDAP Admin Port : 8900
Web Server Admin Port : 8088
Start Server : y
Are these settings correct? [y]/n

```

---

**注** 「n」を選択すると、インストールに関する質問が繰り返されるため、必要に応じて設定を変更できます。

---

インストールスクリプトによって、以下のパッケージがインストールされます。

```

Installing server.
Installing SUNWwtsdd...
Installing SUNWwtws...
Installing SUNWwtsvd...
Installing SUNWwtdt...
Installing SUNWwtm...
Installing SUNWwtmf...
Installing SUNWwtrw...
Installing SUNWwt doc...
Installing SUNWwtsam...
Installing SUNWwt ds...

```

インストールプロセスが完了すると、サーバコンポーネントが自動的に起動します。複数サーバ環境では、各サーバコンポーネントに対してこの手順を繰り返します。

単一サーバマシンで iPlanet Portal Server 製品の複数インスタンスを設定する方法については、「iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する」を参照してください。

---

**注意** Compass 3.01C がすでにインストールされていて、iPlanet Portal Server 3.0 を Service Pack 3a にアップグレードしている場合は、Compass 3.01C Patch 1 をインストールする必要があります。このパッチは、iPlanet.com の Web ページ (<http://iplanet.com/downloads/patches>) から入手できます。

---

## 単一サーバを使用したセキュアポータルインストール

セキュアポータルモードでは、暗号化サービスと URL の置き換えを行うゲートウェイが必要です。ゲートウェイコンポーネントをインストールする方法については、「ゲートウェイコンポーネントのインストール」を参照してください。

---

**注** 単一のサーバコンポーネントをインストールする場合は、インストールを行うマシンがプロファイルサーバでなければなりません。

---

サーバコンポーネントをインストールするための手順を、次に示します。

1. iPlanet Portal Server 3.0 インストールのバックアップを行います。
2. iPlanet Portal Server プロセスが実行中の場合は、すべての iPlanet Portal Server プロセスを停止します。

詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

**注** US 版以外のインストールの場合は、`./ipsinstall` の代わりに、該当するロケール (`de`、`fr`、`es`、`ja`、または `zh`) で `./install` を実行してインストールプロセスを開始してください。

---

## CD-ROM からインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。
2. ディレクトリを `/cdrom/cdrom0` に変更して、`ipsinstall` スクリプトを実行します。

```
volcheck
cd /cdrom/cdrom0
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## Service Pack 3a ディレクトリからインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、ディレクトリを `/opt/ips_sp3` に変更します。
2. `ipsinstall` スクリプトを実行します。



ipsinstall スクリプトは、そのスクリプトがあるディレクトリから実行する必要があります。

```
cd /opt/ips_sp3
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

### iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト

以下に、このインストールのインストールスクリプトによる応答の例を示します。

#### 1. Service Pack 3a の使用許諾契約書の画面が表示されます。

使用許諾契約に同意して、インストールを続行するには、「**yes**」と入力します。

```

iPlanet Portal Server (3.0-SP3a release)

Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.28532/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes
```

---

**注** Solaris パッチが足りない場合は、警告メッセージが表示されます。必要な Solaris パッチのインストール方法については、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」または「CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする」を参照してください。

---

インストール先のマシン名およびIPアドレス情報がスクリプトにより仮定されます。そのマシンが複数のIPアドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示されたIPアドレスがiPlanet Portal Serverコンポーネントに対して正しいものであることを確認してください。

2. デフォルト値を受け入れるか、正しい名前とIPアドレス情報を入力します。

```
Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [siroe]
What is the subdomain (". " for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]

Inspecting iPS components.
```

タスクメニューが表示されます。

3. iPlanet Portal Serverコンポーネントのクリーンインストールを行うには、「2」を選択します。

```
Options:
1) Continue upgrade
2) Continue as a clean install (current installation will be removed)
3) Continue install (current installation will not be removed)
4) Remove current installation
5) Exit
Choice? [5] 2
```

コンポーネントメニューが表示されます。

4. サーバコンポーネントをインストールするには、「1」を選択します。

```
Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 1
```

5. デフォルトのインストールディレクトリを受け入れるか、別のインストールディレクトリを入力します。

```
What directory to install in? [/opt]
```

---

**注**           サーバコンポーネントとゲートウェイコンポーネントを同じマシンにインストールする場合は、これらを同じディレクトリにインストールしてください。

---

- 6.** セキュアポータルインストールを行うので、「**n**」と入力します。

```
Will this be an open portal install? y/[n]
```

- 7.** サーバコンポーネントとの通信に、**SSL (Secure Sockets Layer)** を使用するかどうかを選択します。SSLを使用すると、サーバとの暗号化通信が可能になります。**iPlanet Portal Server**製品で**SSL**を使用する方法については、『**iPlanet Portal Server Administration Guide**』を参照してください。

```
Are the servers using SSL protocol? y/[n]
```

- 8.** 単一サーバインストールを行うので、「**n**」を選択します。

```
Is this a multiple server install? y/[n]
```

- 9.** デフォルトのプロファイルサーバのポート番号を受け入れるか、正しいポート番号を入力します。

```
The profile server will run on siroe.ipplanet.com
On what port will the profile server run? [8080]
```

- 10.** **Return** キーを押してデフォルトのロールツリールートを受け入れるか、別の名前を入力します。

What is the root of the profile role tree? [iplanet.com]

---

**注**            ロール (役割) ツリーのルート名に、必ずしも DNS ドメイン名と同じ名前を使用する必要はありません。任意の名前を付けることができます。ロールツリーについては、『iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide』の第 1 章を参照してください。

---

**11.** デフォルトのルートユーザを受け入れるか、正しいルートユーザ名を入力します。

What is the user for the profile role tree? [root]

**12.** デフォルトのディレクトリサーバのポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

On what port will the directory server run? [389]

**13.** デフォルトのゲートウェイコンポーネントのポート番号を受け入れるか、正しいポート番号を入力します。

On what port will the gateways run? [443]

**14.** iPlanet Portal Server 環境で複数のゲートウェイを使用するか、または単一のゲートウェイを使用するかを選択します。

```
Is this a multiple gateway install? y/[n]
```

ゲートウェイに関する一連の質問メッセージが表示されます。

- 15.** ゲートウェイに関する情報を入力します。インストール先のマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが **iPlanet Portal Server** コンポーネントに対して正しいものであることを確認してください。

```
On what hostname will the gateway run (". " when done)? [MyGateway]
sesta
What is the sub-domain name for sesta (". " for none)? []
What is the domain name for sesta? [iplanet.com]
What is the ip address of sesta.iplanet.com? [192.168.01.03]
```

---

**注** 手順 14 で複数のゲートウェイのインストールを選択した場合は、質問が繰り返されるので、それぞれのゲートウェイに対してホストとドメインに関する情報を入力できます。すべてのゲートウェイに関する情報の入力完了したら、「.」（ピリオド）を入力します。

---

- 16.** ゲートウェイで **Web** プロキシを使用するかどうかを選択します。

```
Should the gateway(s) use a web proxy? y/[n]
```

- 「**n**」を選択した場合は、手順 18 へ進んでください。
- 「**y**」を選択した場合は、以下に示すような **Web** プロキシに関する質問が表示されます。手順 17 へ進んでください。

- 17.** **Web** プロキシに関する情報を入力します。

```
On what hostname will the web proxy run? [sesta]
What is the sub-domain name for sesta (". " for none)? []
What is the domain name for sesta? [iplanet.com]
On what port will sesta run? [8080]
```

---

**注** 現在のマシン名とは異なる **Web** プロキシ名を選択した場合は、その **Web** プロキシの **IP** アドレスも入力するよう求められます。

---

**18.** デフォルトの**Web** サーバの管理者ポート番号を受け入れるか、正しいポート番号を入力します。

```
What is the administrator port for the web server? [8088]
```

パスフレーズの入力と確認を求められます。このパスフレーズは、ルートユーザのパスワードではありません。パスフレーズは、サーバへの **SSL** 通信と **iPlanet Web** サーバ管理コンソールへのアクセスのために内部的に使用されます。

**19.** パスフレーズを入力し、確認します。

```
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :
```

**20.** インストールの完了後にサーバコンポーネントを起動するかどうかを選択します。

```
Start after installation completes? [y]/n
```

設定が表示され、これらの設定が正しいかどうかを確認するためのメッセージが表示されます。

21. サーバをインストールするには「y」を入力します。サーバパッケージがインストールされます。

```
Server settings
Installation Directory : /opt
Server List : http://siroe.iplanet.com:8080
Gateway List : siroe.iplanet.com:443
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
LDAP Port : 389
LDAP Admin Port : 8900
Web Server Admin Port : 8088
Start Server : n
Are these settings correct? [y]/n
```

- 
- 注 「n」を入力すると、インストールに関する質問が繰り返されるので、必要に応じて設定を変更できます。
- 

インストールスクリプトによって、以下のパッケージがインストールされます。

```
Installing server.
Installing SUNWwtsdd...
Installing SUNWwtws...
Installing SUNWwtsvd...
Installing SUNWwttdt...
Installing SUNWwttnm...
Installing SUNWwttnf...
Installing SUNWwttrw...
Installing SUNWwttdoc...
Installing SUNWwttsam...
Installing SUNWwttds...
```

インストールが完了すると、コンポーネントメニューが表示されます。

22. 「3」を選択して終了するか、「2」を選択して現在のマシンにゲートウェイをインストールします。ゲートウェイコンポーネントのインストール方法については、「ゲートウェイコンポーネントのインストール」を参照してください。

```
Select which component to install:
1) Server
2) Gateway
3) Exit
Choice? [3]
```

サーバコンポーネントの起動を選択しなかった場合は、次のコマンドを使用してサーバを起動します。

```
/etc/init.d/ipsserver start
```

単一サーバマシンで iPlanet Portal Server 製品の複数インスタンスを設定する方法については、「iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する」を参照してください。

## 複数サーバを使用したセキュアポータルインストール

セキュアポータルモードでは、暗号化サービスと URL の置き換えを行うゲートウェイが必要です。ゲートウェイコンポーネントをインストールする方法については、「ゲートウェイコンポーネントのインストール」を参照してください。

---

**注**           サーバコンポーネントを複数のマシンにインストールする場合は、1つのマシンをプロファイルサーバとして指定し、他のサーバがこのサーバをプロファイルサーバとして参照するように設定します。

---

サーバコンポーネントをインストールするための手順を、次に示します。

1. iPlanet Portal Server 3.0 インストールのバックアップを行います。
2. iPlanet Portal Server プロセスが実行中の場合は、すべての iPlanet Portal Server プロセスを停止します。

詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

**注**           US 版以外のインストールの場合は、./ipsinstall の代わりに、該当するロケール (de、fr、es、ja、または zh) で ./install を実行してインストールプロセスを開始してください。

---



## CD-ROM からインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。
2. ディレクトリを /cdrom/cdrom0 に変更して、ipsinstall スクリプトを実行します。

```
volcheck
cd /cdrom/cdrom0
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## Service Pack 3a ディレクトリからインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、ディレクトリを /opt/ips\_sp3 に変更します。
2. ipsinstall スクリプトを実行します。  
ipsinstall スクリプトは、そのスクリプトがあるディレクトリから実行する必要があります。

```
cd /opt/ips_sp3
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト

以下に、このインストールのインストールスクリプトによる応答の例を示します。

1. Service Pack 3a の使用許諾契約書の画面が表示されます。  
使用許諾契約に同意して、インストールを続行するには、「**yes**」と入力します。

```

iPlanet Portal Server (3.0-SP3a release)

Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.28532/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes
```

---

**注** Solaris パッチが足りない場合は、警告メッセージが表示されます。必要な Solaris パッチのインストール方法については、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」または「CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする」を参照してください。

---

インストール先のマシン名および IP アドレス情報がスクリプトにより仮定されます。そのマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが iPlanet Portal Server コンポーネントに対して正しいものであることを確認してください。

**2.** デフォルト値を受け入れるか、正しい名前と IP アドレス情報を入力します。

```
Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [siroe]
What is the subdomain (". " for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]

Inspecting iPS components.
```

タスクメニューが表示されます。

**3.** iPlanet Portal Server コンポーネントのクリーンインストールを行うには、「**2**」を選択します。

```
Options:
1) Continue upgrade
2) Continue as a clean install (current installation will be removed)
3) Continue install (current installation will not be removed)
```

```
Options:
4) Remove current installation
5) Exit
Choice? [5] 2
```

コンポーネントメニューが表示されます。

4. サーバコンポーネントをインストールするには、「1」を選択します。

```
Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 1
```

5. デフォルトのインストールディレクトリを受け入れるか、別のインストールディレクトリを入力します。

```
What directory to install in? [/opt]
```

---

**注**           サーバコンポーネントとゲートウェイコンポーネントを同じマシンにインストールする場合は、これらを同じディレクトリにインストールしてください。

---

6. セキュアポータルインストールを行うので、「n」と入力します。

```
Will this be an open portal install? y/[n]
```

7. サーバコンポーネントとの通信に SSL (Secure Sockets Layer) を使用するかどうかを選択します。SSL を使用すると、サーバとの暗号化通信が可能になります。iPlanet Portal Server 製品で SSL を使用する方法については、『iPlanet Portal Server Administration Guide』を参照してください。

```
Are the servers using SSL protocol? y/[n]
```

8. 複数サーバインストールを行うので、「**y**」を選択します。

```
Is this a multiple server install? y/[n] y
```

9. ローカルコンピュータをプロファイルサーバに指定するかどうかを選択します。

```
Should the local machine be the profile server? [y]/n
```

---

**注** Service Pack 3a 環境で複数のマシンにインストールしたサーバコンポーネントを使用する場合は、1 台のサーバにのみプロファイルサーバをインストールし、他のすべてのサーバがそのプロファイルサーバを参照するように設定します。

---

- ローカルコンピュータをプロファイルサーバにするには「**y**」を入力します。プロファイルサーバが他のコンピュータにインストールされていない場合のみ、「**y**」と入力してローカルコンピュータをプロファイルサーバにすることができます。手順 11 へ進んでください。
- すでに他のコンピュータにプロファイルサーバをインストールしてある場合は、「**n**」と入力します。手順 10 へ進んでください。

ローカルマシンがプロファイルサーバでない場合は、プロファイルサーバに関する情報の入力を求められます。

10. プロファイルサーバ情報を入力します。インストール先のマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが **iPlanet Portal Server** コンポーネントに対して正しいものであることを確認します。手順 12 へ進んでください。

```
On what hostname will the profile server run? [MyProfileServer] siroe
What is the sub-domain name for siroe("." for none)? []
What is the domain name for siroe? [iplanet.com]
On what port will siroe run? [8080]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]
```

- 11.** デフォルトのプロファイルサーバのポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。  
ローカルコンピュータをプロファイルサーバにする場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
The profile server will run on siroe.iplanet.com
On what port will the profile server run? [8080]
```

- 12.** Return キーを押してデフォルトのロールツリールートを受け入れるか、別の名前を入力します。

```
What is the root of the profile role tree? [iplanet.com]
```

---

**注**           ロール (役割) ツリーのルート名に、必ずしも DNS ドメイン名と同じ名前を使用する必要はありません。任意の名前を付けることができます。ロールツリーについては、『**iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide**』の第 1 章を参照してください。

---

- 13.** デフォルトのルートユーザ名を受け入れるか、正しいルートユーザ名を入力します。

```
What is the user for the profile role tree? [root]
```

14. デフォルトのディレクトリサーバのポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

```
On what port will the directory server run? [389]
```

- ローカルマシンが「プロファイルサーバでない」場合は、手順 21 へ進んでください。
- ローカルマシンがプロファイルサーバの場合は、以下に示すような **Service Pack 3a** インストール環境のサーバコンポーネントに関する質問が表示されます。手順 15 へ進んでください。

15. サーバコンポーネント情報を入力します。

```
On what hostname will the server run (".\" when done)? [MyServer] varrius
What is the sub-domain name for varrius (".\" for none)? []
What is the domain name for varrius? [iplanet.com]
On what port varrius run? [8080]
What is the ip address of varrius.iplanet.com? [192.168.01.02]
On what hostname will the next server run (".\" when done)? [MyServer] .
```

ローカルコンピュータをプロファイルサーバに指定し、複数のサーバコンポーネントを使用する場合は、希望するすべてのサーバコンポーネントに関する情報を入力し終わるまで、一連のメッセージが繰り返し表示されます。インストール先のマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが **iPlanet Portal Server** コンポーネントに対して正しいものであるかどうかを確認してください。

メッセージは繰り返し表示されるので、複数サーバ環境における各サーバコンポーネントの名前と IP アドレス情報を入力できます。サーバコンポーネントに関する必要な情報をすべて入力したら、「.」（ピリオド）を入力してください。

16. デフォルトのゲートウェイのポート番号を受け入れるか、正しいポート番号を入力します。

```
On what port will the gateways run? [443]
```

17. **iPlanet Portal Server** 環境で複数のゲートウェイを使用するか、または単一のゲートウェイを使用するかを選択します。

```
Is this a multiple gateway install? y/[n]
```

**18.** ゲートウェイに関する情報を入力します。

ゲートウェイに関する一連の質問メッセージが表示されます。

```
On what hostname will the gateway run (". " when done)? [MyGateway] sesta
What is the sub-domain name for sesta (". " for none)? []
What is the domain name for sesta? [iplanet.com]
What is the ip address of sesta.iplanet.com? [192.168.01.03]
```

---

**注**            手順 17 で複数のゲートウェイのインストールを選択した場合は、質問が繰り返されるので、各ゲートウェイに対してホストとドメインに関する情報を入力できます。すべてのゲートウェイに関する情報の入力完了したら、「.」(ピリオド)を入力します。

---

**19.** ゲートウェイで **Web** プロキシを使用するかどうかを選択します。

```
Should the gateway(s) use a web proxy? y/[n]
```

- 「**n**」を選択した場合は、手順 22 へ進んでください。
- 「**y**」を選択した場合は、以下に示すような **Web** プロキシに関する質問が表示されます。手順 20 へ進んでください。

**20.** **Web** プロキシに関する情報を入力します。手順 22 へ進んでください。

```
On what hostname will the web proxy run? [sesta]
What is the sub-domain name for sesta (". " for none)? []
What is the domain name for sesta? [iplanet.com]
On what port will sesta run? [8080]
```

---

**注** 現在のマシン名とは異なる **Web** プロキシ名を選択した場合は、その **Web** プロキシの **IP** アドレスも入力するよう求められます。

---

- 21.** インストール先のマシンのデフォルトのサーバポート番号を受け入れるか、使用可能なポート番号を入力します。

```
On what port will the server run on this machine? [8080]
```

- 22.** デフォルトの **Web** サーバの 管理者ポート番号を受け入れるか、正しいポート番号を入力します。

```
What is the administrator port for the web server? [8088]
```

パスフレーズの入力と確認を求められます。このパスフレーズは、ルートユーザのパスワードではありません。パスフレーズは、サーバへの **SSL** 通信と **iPlanet Web** サーバ管理コンソールへのアクセスのために内部的に使用されます。

- 23.** パスフレーズを入力し、確認します。

```
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :
```



24. インストールの完了後にサーバを起動するかどうかを選択します。

```
Start after installation completes? [y]/n
```

設定が表示され、これらの設定が正しいかどうかを確認するためのメッセージが表示されます。

25. サーバコンポーネントをインストールするには「**y**」を入力します。サーバパッケージがインストールされます。

```
Server settings
Installation Directory : /opt
Server List : http://siroe.iplanet.com:8080
 : http://varrius.iplanet.com:8080
Gateway List : sesta.iplanet.com:443
Profile Server : http://siroe.iplanet.com:8080
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
LDAP Port : 389
LDAP Admin Port : 8900
Web Server Admin Port : 8088
Start Server : n
Are these settings correct? [y]/n
```

---

注 「n」を入力すると、インストールに関する質問が繰り返されるので、必要に応じて設定を変更できます。

---

インストールスクリプトによって、次のパッケージがインストールされます。

```
Installing server.
Installing SUNWwtsdd...
Installing SUNWwtws...
Installing SUNWwtsvd...
Installing SUNWwtdt...
Installing SUNWwtm...
Installing SUNWwtmf...
Installing SUNWwttrw...
Installing SUNWwtldoc...
Installing SUNWwttsam...
Installing SUNWwttds...
```

インストールが完了すると、コンポーネントメニューが表示されます。

26. 「3」を選択して終了するか、「2」を選択して現在のマシンにゲートウェイをインストールします。ゲートウェイコンポーネントのインストール方法については、「ゲートウェイコンポーネントのインストール」を参照してください。

```
Select which component to install:
1) Server
2) Gateway
3) Exit
Choice? [3]
```

サーバコンポーネントの起動を選択しなかった場合は、次のコマンドを使用してサーバコンポーネントを起動します。

```
/etc/init.d/ipsserver start
```

複数サーバ環境では、各サーバコンポーネントに対してこの手順を繰り返します。

単一サーバマシンで iPlanet Portal Server 製品の複数インスタンスを設定する方法については、「iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する」を参照してください。

## ゲートウェイコンポーネントのインストール

ゲートウェイコンポーネントをインストールするための手順は、以下のとおりです。

1. iPlanet Portal Server 3.0 インストールのバックアップを行います。
2. iPlanet Portal Server プロセスが実行中の場合は、すべての iPlanet Portal Server プロセスを停止します。

詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

注 US 版以外のインストールの場合は、./ipsinstall の代わりに、該当するロケール (de、fr、es、ja、または zh) で ./install を実行してインストールプロセスを開始してください。

---

## CD-ROM からインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。
2. ディレクトリを /cdrom/cdrom0 に変更して、ipsinstall スクリプトを実行します。

```
volcheck
cd /cdrom/cdrom0
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## Service Pack 3a ディレクトリからインストールスクリプトにアクセスする

1. ルートとして、ディレクトリを /opt/ips\_sp3 に変更します。
2. ipsinstall スクリプトを実行します。  
ipsinstall スクリプトは、そのスクリプトがあるディレクトリから実行する必要があります。

```
cd /opt/ips_sp3
./ipsinstall
```

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプトが実行されます。このソフトウェアのインストールに必要な応答の例については、「iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト」を参照してください。

## iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a のインストールスクリプト

以下に、このインストールのインストールスクリプトによる応答の例を示します。

1. Service Pack 3a の使用許諾契約書の画面が表示されます。  
使用許諾契約に同意して、インストールを続行するには、「**yes**」と入力します。

```

iPlanet Portal Server (3.0-SP3a release)

Installation log at
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.28532/install.log

This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a
Binary Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to
legally use this product.
Do you accept? yes/[no] yes
```

---

**注** Solaris パッチが足りない場合は、警告メッセージが表示されます。必要な Solaris パッチのインストール方法については、「必要な Solaris パッチをダウンロードしてインストールする」または「CD-ROM から Service Pack 3a ソフトウェアにアクセスする」を参照してください。

---

インストール先のマシン名および IP アドレス情報がスクリプトにより仮定されます。そのマシンが複数の IP アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された IP アドレスが iPlanet Portal Server コンポーネントに対して正しいものであることを確認してください。

**2.** デフォルト値を受け入れるか、正しい名前と IP アドレス情報を入力します。

```
Inspecting network.
What is the iPS hostname of this machine? [sesta]
What is the subdomain (". " for none)? []
What is the domain? [iplanet.com]
What is the ip address of sesta.iplanet.com? [192.168.01.03]

Inspecting iPS components.
```

タスクメニューが表示されます。

**3.** iPlanet Portal Server コンポーネントのクリーンインストールを行うには、次のいずれかを選択します。

```
Options:
1) Continue upgrade
2) Continue as a clean install (current installation will be removed)
3) Continue install (current installation will not be removed)
```

```
Options:
4) Remove current installation
5) Exit
Choice? [5] 2
```

- **Service Pack 3a** サーバコンポーネントが現在のマシンに「インストールされていない」場合は、**2** を選択します。
- **Service Pack 3a** サーバコンポーネントが現在のマシンにすでにインストールされている場合は、**3** を選択します。

コンポーネントメニューが表示されます。

4. ゲートウェイコンポーネントをインストールするには、「**2**」を選択します。

```
Select which component to install:
1) iPlanet(TM) Portal Server
2) iPlanet(TM) Portal Server: Secure Remote Access Pack (Gateway)
3) Exit
Choice? [3] 2
```

5. サーバコンポーネントで **SSL** を使用しているかどうかを指定します。iPlanet Portal Server 製品で **SSL** を使用する方法については、『iPlanet Portal Server Administration Guide』を参照してください。

```
Is the profile server using SSL protocol? y/[n]
```

6. ローカルマシンをプロファイルサーバにするかどうかを指定します。

```
Should the local machine be the profile server? [y]/n
```

- 「**y**」を選択した場合は、手順 **8** へ進んでください。
  - 「**n**」を選択した場合、以下に示すようなプロファイルサーバに関する質問が表示されます。手順 **7** へ進んでください。
7. プロファイルサーバ情報を入力します。インストール先のマシンが複数の **IP** アドレスまたは複数のドメインを使用している場合は、スクリプトによって表示された **IP** アドレスが **iPlanet Portal Server** コンポーネントに対して正しいものであることを確認します。手順 **9** へ進んでください。

```
On what hostname will the profile server run? [MyProfileServer] siroe
What is the sub-domain name for siroe("." for none)? []
What is the domain name for siroe? [iplanet.com]
On what port will siroe run? [8080]
What is the ip address of siroe.iplanet.com? [192.168.01.01]
```

8. デフォルトのプロファイルサーバのポート番号を受け入れるか、別のポート番号を入力します。

```
The profile server will run on siroe.iplanet.com
What is the port for the profile server? [8080]
```

9. デフォルトのロールツリールートを受け入れるか、別の名前を入力します。

```
What is the root of the profile role tree? [iplanet.com]
```

---

注           ロール (役割) ツリーのルート名に、必ずしも DNS ドメイン名と同じ名前を使用する必要はありません。任意の名前を付けることができます。ロールツリーについては、『**iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide**』の第 1 章を参照してください。

---

10. デフォルトのルートユーザ名を受け入れるか、別のルートユーザ名を入力します。

```
What is the user for the root of the role tree? [root]
```

11. デフォルトのゲートウェイコンポーネント情報を受け入れるか、正しいゲートウェイ情報を入力します。

```
On what hostname will the gateway run? [sesta]
What is the sub-domain name for sesta("." for none)? []
What is the domain name for sesta? [iplanet.com]
On what port will sesta run? [443]
```

- 12.** ゲートウェイコンポーネントに複数のネットワークインタフェースがあるかどうかを選択します。ゲートウェイをインストールしているマシンに複数のネットワークインタフェースがある場合は、**iPlanet Portal Server** ゲートウェイコンポーネントが使用できるインタフェースを **1** つに制限することも可能です。

Does this gateway have multiple network interfaces? y/[n]

- 「**n**」を選択した場合は、手順 **15** へ進んでください。
  - 「**y**」を選択した場合は、手順 **13** へ進んでください。
- 13.** ゲートウェイコンポーネントが使用するネットワークインタフェースを **1** つに制限するかどうかを選択します。
- 「**n**」を選択した場合は、手順 **15** へ進んでください。
  - 「**y**」を選択した場合は、手順 **14** へ進んでください。

Limit use to one network interface? y/[n]

- 14.** ゲートウェイコンポーネントが使用するネットワークインタフェースのためにデフォルトの IP アドレスを受け入れるか、正しい IP アドレスを入力します。

What is the ip address of that network interface? [192.168.01.03]

- 15.** ゲートウェイコンポーネントにファイヤウォールソフトウェアをインストールするかどうかを選択します。ただし、ゲートウェイコンポーネントにファイヤウォールをインストールするためには、**2** つ以上のネットワークインタフェースが必要です。

Solaris 2.6 および Solaris 7 にインストールしている場合は、以下のメッセージが表示されます。

Install firewall? y/[n]

---

**注** iPlanet Portal Server 製品に付属のファイヤウォールアプリケーションは Solaris 8 には対応していないため、Solaris 8 にインストールする場合、このメッセージは表示されません。

---

パスフレーズの入力と確認を求められます。このパスフレーズは、ルートユーザのパスワードではありません。パスフレーズは、サーバへの SSL 通信と iPlanet Web サーバ管理コンソールへのアクセスのために内部的に使用されます。

16. パスフレーズを入力し、確認します。

```
What is the passphrase (8 chars minimum) :
Re-enter passphrase :
```

17. インストール後にゲートウェイを起動するかどうかを選択します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Start after installation completes? [y]/n
```

設定が表示され、これらの設定が正しいかどうかを確認するメッセージが表示されます。

18. 設定が正しければ、「**y**」を入力してゲートウェイコンポーネントをインストールします。ゲートウェイパッケージがインストールされます。

```
Gateway settings
Installation Directory : /opt
Gateway : sesta.iplanet.com:443
Gateway IP Address : 192.168.01.03
Profile Server : https://sesta.iplanet.com:443
Profile Role Tree Root : iplanet.com
Profile Role Tree User : root
Install Firewall : n
Start Gateway : n
Are these settings correct? [y]/n
```



---

**注** 「n」を入力すると、インストールに関する質問が繰り返されるので、必要に応じて設定を変更できます。

---

自己署名証明書に関し、次のような組織に関する質問が表示されます。

**19.** 自分の組織に関する情報を入力します。

```
Self-signed certificate for a SSL connection.
What is the name of your organization? [MyCompany] sun
What is the name of your organizational unit? [MyDivision]
iplanet
What is the name of your city or locality? [MyCity] santa clara
What is the name of your state or province? [MyState] california
What is the two-letter country code? [us]
```

サーバコンポーネントの起動を選択しなかった場合は、次のコマンドを使用してサーバを起動できます。

```
/etc/init.d/ipsgateway start
```

## Service Pack 3a ソフトウェアを削除する

以下の説明では、Service Pack 3a パッケージを /opt/ips\_sp3 にダウンロードしたと仮定しています。

1. iPlanet Portal Server 3.0 インストールのバックアップを行います。
2. iPlanet Portal Server プロセスが実行中の場合は、すべての iPlanet Portal Server プロセスを停止します。

詳細については、「サーバコンポーネントのプロセスを停止する」を参照してください。

---

**注** US 版以外のインストールの場合は、./ipsinstall ではなく、該当するロケール (de、fr、es、ja、または zh) で ./uninstall を実行して L10n パッケージやサーバおよびゲートウェイを完全に削除してください。uninstall を使用すると、ユーザに対する質問は表示されず、一括処理で iPlanet Portal Server コンポーネント全体が完全に削除されます。

---

3. ルートとして、Service Pack 3a の CD-ROM をマウントします。
4. ディレクトリを /cdrom/cdrom0 に変更して、uninstall スクリプトを実行します。

```
cd /cdrom/cdrom0
echo $LANG
./uninstall
```

---

**注**        `install` または `ipsinstall` を使用して US 版以外の **iPlanet Portal Server** サーバおよびゲートウェイコンポーネントを先に削除した場合、ソフトウェアを完全に削除するには残りの **L10n** パッケージを手作業で削除する必要があります。この方法で **iPlanet Portal Server** ソフトウェアを削除することはお勧めしません。

---

サーバおよびゲートウェイソフトウェアを削除 (現在のインストールを削除) したら、スクリプトを終了し、以下のコマンドを実行してソフトウェアの残りの部分を削除してください。

```
cd /var/sadm/pkg
pkgrm SUNWwtd[LANG]
pkgrm SUNWwtg[LANG]
pkgrm SUNWwts[LANG]
```

[LANG] の部分には、`de`、`fr`、`es`、`ja`、または `zh` を入力します。

## インストールの一部を削除する

インストールプロセスが中断され、**iPlanet Portal Server** パッケージの一部のみがインストールされた場合は、製品を再インストールまたは使用する前に、インストールされた部分を削除する必要があります。

以下に、インストールの一部を削除するための手順を示します。

1. ルートとして、ディレクトリを **Solaris** パッケージのデータベースディレクトリに変更します。

```
cd /var/sadm/pkg
```

2. iPlanet Portal Server ソフトウェアディレクトリのリストを表示します。

```
ls -d SUNWwt*
```

3. 以下のディレクトリを探します。

```
SUNWicgSA/ SUNWj2man/ SUNWwtdt/ SUNWwtnf/ SUNWwtSD/ SUNWwtSvd/
SUNWicgSS/ SUNWj2rt/ SUNWwtfw/ SUNWwtnm/ SUNWwtSdd/ SUNWwtws/
SUNWj2dem/ SUNWwtDoc/ SUNWwtgw/ SUNWwtrw/ SUNWwtSmb/
SUNWj2dev/ SUNWwtDs/ SUNWwtgwd/ SUNWwtSam/ SUNWwtSv/
```

4. 上記のリストに一致するディレクトリをすべて削除します。たとえば、次のように入力します。

```
rm -rf SUNWicgSS
```

5. ディレクトリを /var/sadm/install/logs に変更し、iPlanet Portal Server ソフトウェアディレクトリのリストを表示します。

```
cd /var/sadm/install/logs
ls
```

6. 手順3に示されているディレクトリを探します。
7. iPlanet Portal Server ソフトウェアディレクトリのリストに一致するディレクトリをすべて削除します。たとえば、次のように入力します。

```
rm -rf SUNWicgSS
```

## インストール後の作業

### IPS\_ROOT 環境変数を設定する

IPS\_ROOT 環境変数を iPlanet Portal Server 3.0 のインストールディレクトリに設定します。以下の説明では、インストールディレクトリが /opt であると仮定しています。

```
IPS_ROOT=/opt
```

### 証明書を復元する

以下に、iPlanet Portal Server をアップグレードした後にサーバ証明書を復元するための手順を示します。

1. ルートとして、iPlanet Portal Server サーバを停止します。

```
/etc/init.d/ipsserver stop
```

2. ディレクトリを、証明書を復元するディレクトリに変更します。以下の例では、/opt が基本ディレクトリです。

```
cd /opt/netscape/server4
```

3. アップグレードを行う前に作成した alias.tar ファイルを解凍します。詳細については、「サーバコンポーネントで使用される証明書を保存する」を参照してください。

```
/usr/bin/tar xvf /usr/tmp/alias.tar
```

4. iPlanet Portal Server サーバを再起動します。

```
/etc/init.d/ipsserver start
```

5. ブラウザウィンドウを開き、**iPlanet Web Server** 管理コンソールを表示します。たとえば、次のように入力します。

`http://siroe:8088`

6. 管理者としてログインします。

---

**注**            **Web** サーバ管理コンソールのパスワードは、**iPlanet Portal Server** のインストール中に入力したパスフレーズと同じです。

---

7. [管理] を選択します。
8. [適用] を選択します。
9. [コンフィグレーションファイルの読み込み] を選択します。
10. [プリファレンス] を選択します。
11. 暗号化の「オン/オフ」を選択します。
12. [オン] ボタンをクリックします。
13. コンフィグレーションを保存します。
14. 端末ウィンドウで **iPlanet Portal Server** サーバを再起動します。

```
/etc/init.d/ipsserver start
```

## 報告されている問題と制限

この節では、Service Pack 3a で修正されていない **iPlanet Portal Server 3.0** ソフトウェアに関する既知の問題とその回避策について説明します。

## バグ ID : 4381586

有効なセッション数 ([ユーザセッションの管理] ページの [有効なセッション] に示される数) が正確でない。

たとえば、(スーパーユーザまたはその他のユーザとして) 管理コンソールにログインして [ユーザセッションの管理] を選択すると、有効なセッション数は「1」と示されます。別のブラウザからログインし直すと、有効なセッションが2つ実行中であるにもかかわらず、有効なセッション数は「2」になりません。

## バグ ID : 4383120

LDAP 認証モジュールで、ディレクトリでユーザ検索を行うためのサーバを設定する際、管理者が検索フィルタを指定できない。[ユーザ ID の検索フィルタ] テキストフィールドは、ディレクトリの検索に使用する属性 (デフォルトでは uid 属性) を示します。[ユーザ ID の検索フィルタ] で指定された属性は、検索で使用される検索フィルタを作成する際に使用されます。

たとえば、[ユーザ ID の検索フィルタ] テキストフィールドで属性を指定せずに空欄のままにしておくと、デフォルトの uid が使用されます。したがって、検索フィルタは (uid=jim) となります。jim はユーザが入力したユーザ名です。[ユーザ ID の検索フィルタ] に surname (すなわち sn) の値が含まれている場合、検索フィルタは (surname=jim) となります。

## 管理

### バグ ID : 4375670

管理コンソールおよびデスクトップでチャンネルが選択されていない場合、デスクトップが空白になる。

#### 回避策:

なし

### バグ ID : 4378030

setDomain メソッドにより、ドメインの設定前にドメインプロファイルの取り込みが行われない。

#### 回避策:

なし

### バグ ID : 4376634

1つの属性が異なる場合、管理コンソールが重複したタブ名を許可する。

#### 回避策:

タブ名が重複していないことを確認します。

### バグ ID : 4379326

新たに作成されたドメインに新規ユーザを追加すると、profilestyle.css の内容が管理コンソールに表示されます。

**回避策：**

なし

## デスクトップ

**バグ ID : 4319604**

ユーザに対し、管理コンソールで **Netlet** プロバイダを無効にすると、「ドキュメントにデータがありません」という旨のエラーメッセージが表示される。

**回避策：**

管理コンソールで、チャンネルリストからプロバイダを削除します。

**バグ ID : 4355280**

Windows 98 で **Internet Explorer 5x** を使用している場合、**Netlet** ウィンドウを閉じると、**Web** ブラウザがクラッシュする。

**回避策：**

なし

**バグ ID : 4358738**

オープンポータルで **IE4** クライアントとともにブックマークプロバイダを使用すると、スクリプトエラーが発生する。

**回避策：**

なし。これは、**IE4** のバグです。このエラーは **IE5.X** および **Netscape** ブラウザでは発生しません。

**バグ ID : 4447005**

書き込み権限のない場合でも、`delAttribute` がプロファイル属性の削除を許可する。

**回避策：**

なし

**バグ ID : 4454833**

管理者が自分のアカウントを削除できる。

**回避策：**

- I. 端末のウィンドウで、ルートになります。
- II. プロンプトで、次の文字列を入力します。

```
echo '<iwt:Att
name="iwtUser-role"><Val>/${DOMAIN}/AdminRole</Val></iwt:Att>' |
/opt/SUNWips/bin/ipsadmin create user /${DOMAIN}/root/dev/stdin
```

### III. *Return* キーを押します。

`DOMAIN` はデフォルトのドメインで、`AdminRole` は管理者のロールです。

## バグ ID : 4457299

チャンネルウィザードで作成したチャンネルの説明をローカライズできない。

### 回避策 :

チャンネルウィザードで作成したチャンネルの説明とタイトルをローカライズするには、以下の操作を行います。

#### 1. 各 iPlanet Portal Server 3.0 サーバで、次のファイルを作成します。

```
/opt/SUNWips/locale/channel_locale.properties
```

`channel` は完全修飾チャンネル名で、`locale` はサポートされているロケール名です。

- 完全修飾チャンネル名は、チャンネルウィザードの最後のページに表示されます。また、デスクトッププロファイル内の使用可能なチャンネルのリストにも表示されます。
- ロケールとは、言語と国名の組み合わせのことです。たとえば、「`en_US`」などがそうです。

#### 2. このファイル内で、以下に示す説明とタイトルのエントリを作成します。

`description`=ここに説明を入力します。

`title`=ここにタイトルを入力します。

`.properties` ファイルは、**Java Unicode** エンコードを使用します。複数バイトの文字は `XXXX` として表されます (`X` は 16 進法で表した数字です)。

このエンコードによるファイルは、`java native2ascii` プログラムを使用して、さまざまなネイティブエンコードのファイルから作成できます。

---

**注** サポートされている各ロケールに対し、それぞれ個別の `.properties` ファイルが必要です。

---

## 4513667

Solaris 2.8 の `es` (スペイン語) ロケールで、iPlanet Portal Server サーバのインストールプロセスが失敗することがある。



**回避策：**

この問題は、手作業によるインストールを行うことで回避できます。install コマンドの代わりに、C ロケールで `ipsinstall` コマンドを実行してポータルおよびゲートウェイコンポーネントをインストールします。

```
LANG=C
export LANG
cd [CD_ROOT
./ipsinstall
```

その後、以下のコマンドを実行して、手作業でローカライズ版のパッケージを追加できます。

```
cd [CD_ROOT]/ips/locales/es/server
pkgadd -d . SUNWwt ses
pkgadd -d . SUNWwt des
cd ../gateway
pkgadd -d . SUNWwt ges
```

---

**注**            L10n パッケージを追加する前に、ポータルサービスとゲートウェイサービスを実行しておく必要があります。pkgadd が完了したら、ポータルおよびゲートウェイコンポーネントを `es` として再起動し、サービスを再開します。

---

## ゲートウェイ

### バグ ID : 4324617

外部のブックマーク URL がリダイレクトされない。

**防止策：**

ゲートウェイプロファイルの中の置き換えの対象となる JavaScript 関数パラメータから `openURL` を削除します。

### 回避策:

外部サイトを取り扱う 2 つめのブックマークチャンネルを作成します。

ゲートウェイが取り込めないインターネット URL を参照する URL には、ブックマークプロバイダを使用できません。

## インストール

### バグ ID : 4448387

iPlanet Portal Server 製品を既存の製品の上からインストールする場合、既存の製品が正しくインストールされていないと、ログファイルが非常に大きくなる。

### 回避策:

インストール後、次のインストールログファイルを削除します。

/var/sadm/install/logs/ipsinstall.<プロセス ID>/install.log.

## ipsadmin

### バグ ID : 4319514

ipsadmin コマンドがブールフラグのシンタックスをチェックしない。

### 回避策:

XML ファイルを作成するときに、属性タイプがブール値である場合は、以下の例の太字で示されるように **true** または **false** のステートメントを追加します。

```
<iwt:Att name="iwtUser-trustProxyEnabled"
 desc="Trust Proxy Feature"
 type="boolean"
 idx="X-x1"
 userConfigurable="TRUE">
 <Val>false</Val>
 <Rperm>ADMIN</Rperm><Rperm>OWNER</Rperm>
 <Wperm>ADMIN</Wperm>
</iwt:Att>
```

## ipsserver

### バグ ID : 4379242

サーバが複数のインスタンスを実行している場合、ipsserver start コマンドにさらに引数が必要になる。詳細については、「iPlanet Portal Server の複数インスタンスを設定する」を参照してください。

**回避策：**

すべてのインスタンスに対してすべてのプロセスを起動するには、`ipsserver startall` コマンドを使います。

```
ipsserver startall
```

特定インスタンスのプロセスを起動するには、`ipsserver start` コマンドとサーバ固有の `ipsserver` ファイルを使います。

```
/opt/SUNWips/bin/ipsserver.servername.iplanet.com@port start
```

**バグ ID : 4472975**

長時間にわたって大きな負荷がかかると、オペレーティングシステム内のコンポーネントに障害が発生する。

**回避策：**

なし

## ロギング

**バグ ID : 4376995**

ログ記録は、`iwtUser-locale` ではなく、`iwtPlatform-locale` を使って書き込まれなければならない。

**回避策：**

なし

## NetFile

**バグ ID : 4342453**

Netfile Java に共有を追加しようとする、秒時計の表示が止まらないことがある。

**回避策：**

NetFile の他の部分を選択して砂時計の表示を消します。

**バグ ID : 4293370**

アップロードの前に、NetFile Lite がファイルのサイズをチェックしない。ファイルが 5 M バイトよりも大きい場合は、アップロードに失敗する。

**回避策：**

なし

**バグ ID : 4372826**

NetFile Lite で 5 M バイトよりも大きい tar ファイルをアップロードする場合、または Netfile で 500 M バイトよりも大きい tar ファイルをアップロードする場合、不適切なエラーメッセージが表示される。

**回避策：**

なし

**バグ ID : 4463515**

拒否規則が iPlanet Portal Server 管理コンソールに追加される前にホストがデスクトップに追加された場合、Netfile はユーザがこれらの拒否されたホストにアクセスすることを許可する。

**回避策：**

なし

## NetMail

**バグ ID : 4321516**

メッセージに返信する場合に、送信を選択した直後にメッセージを削除すると、競合状態が発生する。

**回避策：**

返信フラグが設定される (ゆっくりになる) のを待つか、メッセージをもう一度削除します。

**バグ ID : 4307367**

編集のソースに、IMAP パスワードがクリアテキストで表示される。

**回避策：**

なし

## サンプルプロバイダ

バグ ID : 4389071

以下の xml ファイル内に、editType 属性がない。

oiwtHelloWorld3Provider.xml

oiwtQuotationProvider.xml

### 回避策：

iwtHelloWorld3Provider.xml: のコンポーネントタグ内に、以下のコードを追加します。

```
<iwt:Att name="iwtHelloWorld3Provider-editType"
 desc="Edit Form Type"
 type="singlechoice"
 idx=""
 userConfigurable="TRUE">
 <Val>edit_subset</Val>
<CVal>edit_subset</CVal>
<CVal>edit_complete</CVal>
 <Rperm>ADMIN</Rperm><Rperm>OWNER</Rperm>
 <Wperm>ADMIN</Wperm>
</iwt:Att>
```

iwtQuotationProvider.xml: のコンポーネントタグ内に、以下のコードを追加します。

```
<iwt:Att name="iwtQuotationProvider-editType"
 desc="Edit Form Type"
 type="singlechoice"
 idx=""
 userConfigurable="TRUE">
 <Val>edit_subset</Val>
<CVal>edit_subset</CVal>
<CVal>edit_complete</CVal>
 <Rperm>ADMIN</Rperm><Rperm>OWNER</Rperm>
 <Wperm>ADMIN</Wperm>
</iwt:Att>
```

---

## Service Pack 1、Service Pack 2、および Service Pack 3a で修正されたバグ

以下のバグは、iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 1、Service Pack 2、および Service Pack 3a で修正されました。

表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
<b>管理コンソール</b>		
4343322	管理コンソールからサーバを起動できない。	SP1 で修正済
4374777	ドメイン管理ロールページに、誤ったドメイン管理ロールのリストが表示される。	SP2 で修正済
4387384	xml ファイル内のキーと .properties ファイルのキーが一致しない。このため、一部の翻訳された文字列が管理コンソールに表示されず、デフォルトの言語、すなわち英語の文字列が表示される。	SP3 で修正済
4365124	iwtAuthCert.properties ファイル内に選択値 (CVal) キー値ペアがない。また、iwtAuthCert.properties ファイル内のキーにスペースが含まれているため、一部の翻訳された文字列が管理コンソールに表示されず、デフォルトの言語、すなわち英語の文字列が表示される。	SP3 で修正済
<b>認証</b>		
4357503	LDAP ディレクトリの証明書がバイナリで保存されている場合、ldap で証明書を照合するオプションが動作しない。	SP2 で修正済
4346955	doSecureID の詳細オプションによりログインができない。	SP2 で修正済
4339793	サーバと doUnix ヘルパーが同期していない場合、Unix 認証がうまくいかない。	SP2 で修正済
4362849	cn のない証明書が原因で Java IO 例外が発生する。	SP3 で修正済
4378157	プラットフォームサーバが https を使用するように設定されていると、認証に失敗する。	SP3 で修正済
<b>デスクトップ</b>		
4338083	小-大-小レイアウトのチャンネルを削除すると、ヌルポインタが発生する。	SP1 で修正済
4335174	URL スクレーパーの相対 URL に対し、URL 書き換えが動作しない。	SP1 で修正済
4365483	コンテンツプロバイダは、コンテンツプロバイダ編集ページの作成において、ヌルプロバイダを確認する必要がある。	SP2 で修正済
4349181	iSyndicate コネクタがインストールされている場合に、インラインチャンネルを作成すると、チャンネルウィザードが正しく動作しない。	SP2 で修正済
4330685	リダイレクトされることになる URL を URL スクレーパーが取り込もうとすると、エラーが発生する。	SP1 で修正済

表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
4343673	URL スクレーパープロバイダがリダイレクトを扱えない。	SP1 で修正済
4343674	RSS および URL スクレーパーがプロキシの使用をサポートしていない。	SP1 で修正済
4401121	URLScraperProvider に、旧バージョンとの互換性がない。	SP3 で修正済
4412806	JSPProvider processEdit からの相対 URL リダイレクトに失敗する。	SP3 で修正済
4412336	ユーザが再度ログインするまで、[タイムゾーン] への変更が適用されない。	SP3 で修正済
4448938	[オプション 4] レイアウトを変更すると、大きいチャンネルが削除される。	SP3 で修正済
4450801	ブックマークの編集中に [メインデスクトップウィンドウにすべてのページを開く] を選択すると、openURL Javascript 関数によって、URL でサーバの呼び出しが 2 回行われる。	SP3 で修正済
4426023	SunBlue テンプレートが SP2 で機能しない。	SP3 で修正済
4387813	場合によって、デスクトップがタイムアウトの後に表示される (デフォルトのタイムアウトは 30 秒)。	SP3 で修正済
4394315	デスクトップのすべてのチャンネルを切り離すと、修復できないエラーが発生し、デスクトップを使用できなくなる。	SP3 で修正済
4396908	デスクトッププロバイダがスロー可能を検出しないため、デスクトップエラーページのチャンネルウィンドウに「致命的なエラーが発生しました」という旨のメッセージが表示される。	SP3 で修正済
4397293	デスクトップが、期限の切れたセッションまたは無効なセッションを、警告ではなくエラーとしてデバッグログファイル内に記録する。このため、デバッグファイルが不必要に大きくなる。	SP3 で修正済
4401145	日本語のロケールで日付の書式設定が適切に機能しない。	SP3 で修正済
4353071	天気プロバイダのテンプレートがインストールされてしまう (製品には天気プロバイダが含まれていません)。	SP3 で修正済
4403468	チャンネルのタイトルが常にプロファイルサービスに保存されている言語で表示される。	SP3 で修正済
4394038	デスクトップタブの属性文字列の一部が英語以外のロケールで英語で表示される。	SP3 で修正済

## ゲートウェイ

表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
4340633	セッションが終了したときに、ゲートウェイが再認証を行わない。	SP1 で修正済
4335199	アプレットタグの書き換えにおいて、パラメータ内の限られた数の URL しか書き換えられない。	SP1 で修正済
4338888	メンバーシップモジュールが、認証に空白のパスワードを許可していた。	SP1 で修正済
4330036	先行の http:// が付いていなくて、ポート番号が指定されていない URL があると、リライタが動作しない。	SP1 で修正済
4343671	authd がオープンポータルログインをサポートしない。	SP1 で修正済
4342320	サーバを最初に起動しないと、ゲートウェイの起動プロセスがハングする。	SP2 で修正済
4389707	場合によっては、累積して閉じない CLOSE_WAIT ソケットが原因で、ゲートウェイまたはゲートウェイプロキシが応答しない。	SP3 で修正済
4381501	URL リライタが相対 URL を不正に置き換える (BASE タグで示されたベース URL ではなく、ドキュメントの URL を使用)。	SP3 で修正済
4352555	JavaScript リライタが、エスケープされた二重引用符を適切に処理しない。	SP3 で修正済
4358856	サーバとゲートウェイが別のマシンにインストールされている場合、 <code>iwGateway.properties</code> ファイルがサーバマシンの <code>basedir/SUNWips/locale</code> ディレクトリにインストールされない。サーバマシンが英語以外の場合でも、ゲートウェイ関連の文字列はデフォルトの言語 (英語) で表示される。	SP3 で修正済
4350023	ipshttpd スクリプトによって、ファイルディスクリプタの最大数がゲートウェイプロキシのプロセスに十分な値に設定されない。このため、ipshttpd プロセスでファイルディスクリプタが不足する。この状態が発生すると、ipshttpd が応答しなくなる。	SP3 で修正済
4430846	Internet Explorer 5.5 をゲートウェイとともに使用した場合、Web メールアプリケーションが表示されない。	SP3 で修正済
4344066	サーバがユーザの URL を追跡できるように、参照ヘッダーを転送しなければならない。	SP3 で修正済
4396142	アプレットが <OBJECT> と </OBJECT> の間にある場合、URL リライタが URL を置き換えない。	SP3 で修正済
4396151	HTML タグのパラメータ名と値の間にスペースがある場合、URL リライタがアプレットパラメータ値を置き換えない。	SP3 で修正済
4380531	リライタが <code>iplanet()</code> 関数を適切に配置しない。	SP3 で修正済



表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
4392892	../gateway/eprox/Makefile の javah コマンドに CLASSPATHを追加する必要がある。	SP3 で修正済
4375934	ゲートウェイで DNS ホスト名の解釈が中断される。	SP3 で修正済
4412431	certadmin 自己署名証明書の有効期限が、デフォルトの 90 日に設定される。	SP3 で修正済
4407007	ロードバランス機能がアクティブになっていると、URL スクレーパーと RSS チャンネルプロバイダが動作しない。	SP3 で修正済
4342774	HTTP プロキシを使用すると、HTTP 基本認証のキャッシュ処理 (SSO) に失敗する。	SP3 で修正済
4354655	ホスト名に大文字が含まれていると、ユーザは Internet Explorer で認証を受けられない。	SP3 で修正済
4416215	URL スクレーパーが、コンテンツタイプからの文字セットを扱えない。	SP3 で修正済
<b>インストール</b>		
4335044	Java パッケージをインストールするには、インストールスクリプトがディスク容量をチェックする必要がある。Java パッケージがインストールされない場合、インストールスクリプトは失敗する。	SP3 で修正済
4240879	iPlanet Portal Server ソフトウェアをインストールする前にサードパーティのソフトウェアがインストールされている場合、旧バージョンの iPlanet Portal Server 製品があることを示す不適切なエラーメッセージが表示される。	SP3 で修正済
4350541	インストールスクリプトが、2 つのピリオドで区切られた 3 つの部分から成る「完全修飾ドメイン名」(FQDN) を必要とする。ピリオドが 1 つしかない場合、FQDN は受け入れられない。	SP3 で修正済
4418223	バージョン文字列が一致しない。	SP3 で修正済
4423962	インストールスクリプトが、イメージにないパッチを要求する。	SP3 で修正済
4424472	インストール後に pkginfo ファイルを更新しなければならない。	SP3 で修正済
4380586	サーバとゲートウェイで SSL を使用すると、ゲートウェイが起動しない。	SP3 で修正済
4429042	Service Pack 3 のイメージにはjdk1.2.2_05 パッチが含まれないようにすること。	SP3 で修正済
4437706	ゲートウェイをプロファイルサーバとともにインストールし、SSL 用にデフォルト以外のポートを使用すると、ポートが 443 に設定される。	SP3 で修正済

表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
4448611	プロファイルサーバを Web プロキシとともにインストールすると、ipsserver に失敗する。	SP3 で修正済
4335044	Java パッケージがインストールされていないと、ユーザへの通知が行われず、インストールスクリプトが失敗する。	SP3 で修正済
4226991	ユーザがコンポーネントを削除する際の確認メッセージ。	SP3 で修正済
4240879	エラーメッセージに誤ったインストールスクリプト名が表示される。	SP3 で修正済
4350541	インストールを行う際、「完全修飾ドメイン名」が強制的にサブドメインとドメインの名前になる。	SP3 で修正済
4341308	Stop スクリプトがすべての slapd プロセスと、すべての外部 LDAP サーバプロセスを停止する。	SP3 で修正済
<b>ipsadmin</b>		
4336880	SSL モードでサーバが実行されていると、ipsadmin が動作しない。	SP1 で修正済
4337917	ipsadmin が「保護された」属性を暗号化しない。	SP1 で修正済
4350031	ipsadmin -import を使うと、以前から存在していたコンポーネントの新しい属性が小文字に変換され、新しいコンポーネントのすべての属性が既存であると報告される。iDS 4.12 で修正済み	SP2 で修正済
4363059	ポリシーページにアクセスした後に特権をインポートすると、表示を行うために再度ログインしなければならない。	SP3 で修正済
<b>ipsserver</b>		
4344376	ipsserver stop スクリプトが、サーバで実行されているすべての HTTPD プロセスを強制終了する。これによってさらに、サーバで実行されている外部の iPlanet Web サーバも強制終了されることがある。ipsserver stop コマンドは、関係あるプロセスだけを終了すべきである。	SP2 で修正済
4389604	Stop スクリプトを実行しても、ディレクトリサーバが停止しないことがある。	SP3 で修正済
4396039	負荷が課せられているときにポータルサーバを再起動すると、ハングする。	SP3 で修正済
<b>日本語版</b>		
4336096	日本語版では、Netfile Java が Solaris および Windows NT で動作しない。	SP1 で修正済

表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
4402583	iwUser.properties ファイル内にある日本の国コードが誤っている。	SP3 で修正済
ロギング		
4343009	ロギングをオフにすると、クライアント API が例外を引き起こす。	SP1 で修正済
4352291	ゲートウェイのロギングをオンまたはオフにする機能。	SP1 で修正済
4343010	ロギングが無効になっていても、ログクライアントがログメッセージを送信する。	SP3 で修正済
4401461	データベースのオフとオンが切り替わるときに、Oracle jdbc ドライバが再初期化を行わない。	SP3 で修正済
<b>NetMail</b>		
4340200	ゲートウェイなしで NetMail を実行すると、セッションがタイムアウトになる。	SP1 で修正済
4378943	NetMail Lite のアドレス帳で、2 バイト文字によるニックネームのエントリがサポートされていない。	SP3 で修正済
4378936	NetMail Lite で 2 バイト文字によるフォルダ名がサポートされていない。	SP3 で修正済
<b>NetFile</b>		
4342428	NetMail が NetFile から送信された添付テキストを受信できない。	SP1 で修正済
4340074	ゲートウェイなしで NetFile を実行すると、セッションがタイムアウトになる。	SP1 で修正済
4365921	NetFile アプレットが、サープレットの呼び出し中にセッション ID を渡さないことがある。このため、セッション例外が発生し、ログファイルが不必要に大きくなる。	SP3 で修正済
4361900	NetFile は、システムが存在するかどうかを確認せずに、システムが有効であると仮定する。このため、接続先のシステムが存在しない場合、Netfile アプリケーションは最終的にタイムアウトとなる。	SP3 で修正済
4371647	サーバの LANG 設定が日本語ローカルまたは中国語ローカルに指定されている場合、イメージ、HTML、および実行可能ファイルに対して NetFile アップロード機能が機能しない。	SP3 で修正済
4368446	サーバの LANG 設定が日本語ローカルまたは中国語ローカルに指定されている場合、イメージ、HTML、および実行可能ファイルに対して NetFile ダウンロード機能が機能しない。	SP3 で修正済

表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
4357835	NetFile Lite が Windows システムの共有を 1 つしか表示できない。	SP3 で修正済
4357841	NetFile Lite は、セッションを保存して終了するときに、ホスト情報への変更を保存できない。	SP3 で修正済
4357856	NetFile で [ホスト情報] メニューを使用してホスト情報 (ユーザ名やパスワードなど) を編集すると、そのホストに関連付けられている共有が削除される。	SP3 で修正済
4357847	ipsadmin を通じて定義した NetFile 共有を、NetFile アプリケーションを使って再び追加できる。このため、共有が重複してしまう。	SP3 で修正済
4357844	NetFile で、管理者が定義した隠し共有を表示しようとする問題が発生する。	SP3 で修正済
4349633	特定の状況下で、NetFile Lite がパスワードのセキュリティに対して、妥協して処理してしまうことがある。	SP3 で修正済
4352059	プロファイルの isAllowed メソッドがワイルドカードによる照合を行わない。	SP3 で修正済
4335215	Windows NT ホストを使用していると、NetFile Lite アプリケーションが圧縮済みファイルの名前を正しく表示しない。	SP3 で修正済
4431453	Netfile のメール機能が iPortal Web Server のコンフィグレーションファイルを上書きする。	SP3 で修正済
<b>Netlet</b>		
4332715	アプレットのダウンロード規則のセクションが壊れている。	SP3 で修正済
4410474	Netlet アプレットのグローバル暗号化バージョンが、誤って米国国内版の iPlanet Portal Server 3.0 とともに出荷された。	SP3 で修正済
4377505	Netlet アプレットが、1 つの規則に対して最高 10 接続にハードコードされている。	SP3 で修正済
<b>プロファイル</b>		
4341571	外部 LDAP 属性マッピングがバイナリタイプの属性に対して動作しない。	SP1 で修正済
4339191	ドメイン検索において、外部 LDAP からマップされたユーザが検索されない。 <b>修正の制限:</b> 外部 LDAP ユーザの検索は 400 人までに制限されています。	SP1 で修正済
4340128	プロファイル API が、存在しないプロファイルに対して有効なプロファイルオブジェクトを返す。	SP2 で修正済
4352059	プロファイルの isAllowed メソッドがワイルドカードによる照合を行わない。	SP3 で修正済

表 13 修正されたバグのリスト

バグ ID	バグの説明	状態
4399031	ipsadmin に、UpdateProfileCache リクエストに対する不正なコンテンツタイプがある。	SP3 で修正済
4412089	プロファイルサーバがビジイー待機ループに入る。	SP3 で修正済
サーバ		
4394184	HTTPS 接続を使用する際に、VIP 名がサーバ名と一致しないと、証明書エラーが発生する。	SP3 で修正済
4388783	ゲートウェイコンポーネントは、https モードでプラットフォームサーバとの通信を行う場合、JSS を使用するべきである。	SP3 で修正済
ドキュメント		
4343016	ドキュメントに対する不正な URL。	SP1 で修正済
4373115	1 台のコンピュータにポータルサーバコンポーネントとゲートウェイコンポーネントをインストールする場合、それらを同じディレクトリにインストールしなければならない。	SP3 で修正済
4402209	選択したチャネルで iwtAuthProvider を追加するための正しい手順。	SP2 で修正済
4332242	/var、/etc、/opt、およびインストールディレクトリに必要なディスク容量を記載すること。	SP3 で修正済

## ドキュメントの更新

以下の情報は、『iPlanet Portal Server 3.0 Administration Guide』を補足するものです。

### 認証チェーン

認証チェーン機能は、ユーザに 2 つ以上の認証メカニズムから認証を受けるように要求することによって、より高いレベルのセキュリティを組織に提供します。たとえば、メンバーシップと UNIX 認証モジュールがチェーンしている場合、デスクトップユーザはデスクトップにアクセスするために両方のモジュールで認証を受けることになり、すべての認証モジュールがチェーンされている場合は、すべてのモジュールで認証を受けることとなります。

## 問題を報告する場合

認証チェーンを設定するには、以下の操作を行います。

1. スーパーアドミンとして、iPlanet Portal Server 管理コンソールにログインします。
2. [ドメインの管理] を選択します。
3. 認証チェーンを使用するドメインを選択します。
4. [認証] を選択します。
5. [認証チェーンモジュール] フィールドに、チェーンする認証モジュールを入力します。モジュールの区切りにはスペースを使用してください。たとえば、次のように入力します。

Membership Unix

6. 認証チェーンを有効にするため、[認証チェーン - 有効] チェックボックスをオンにします。
7. [送信] を選択します。プロフィールが更新されたという旨のメッセージが表示されます。
8. [続行] を選択します。

## 最新情報

iPlanet Portal Server 3.0 関連のドキュメントについては、以下の Web サイトをご覧ください。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/portal.html>

---

## 問題を報告する場合

iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a に関する問題が見つかった場合は、以下のいずれかの方法を使って iPlanet のカスタマサポートまでご連絡ください。

- iPlanet オンラインサポートの Web サイト:<http://www.iplanet.com/support/online/>  
ここには、CaseTracker や CaseView といった問題を記録するためのツールがあります。
- 保守契約書に示された連絡先。

iPlanet サポートに連絡する際には、問題を手際よく解決できるように以下の情報をご用意ください。

- 問題の詳しい説明。問題が発生したときの状況や動作への影響など。
- マシンの種類、オペレーティングシステムのバージョン、製品のバージョン。問題に影響する可能性のあるパッチやその他のソフトウェアなど。

- 問題を再現するための詳しい手順。
- エラーログまたはコアダンプ。

---

## 詳細情報

iPlanet に関する情報については、以下のインターネットサイトをご利用ください。

- iPlanet リリースノートとその他の文書 --- <http://docs.iplanet.com/docs/manuals/>
- iPlanet 製品のステータス --- [http://www.iplanet.com/support/technical\\_resources/](http://www.iplanet.com/support/technical_resources/)
- iPlanet 開発者情報 --- <http://developer.iplanet.com/>
- iPlanet 学習ソリューション --- <http://www.iplanet.com/learning/index.html>
- iPlanet 製品データシート --- <http://www.iplanet.com/products/index.html>

